

ヲ教フルノ所アレハ之カ製作物モ此部ニ入ルヘシ  
 右ニ掲ケタル物品送附アラハ新舊相交換シ觀者ヲシテ各府縣教育進歩ノ度ヲ  
 知ラシメントス然レモ物品ノ多過ヲ要セサルヲ以テ學事統計表及諸學校規則  
 ノ外ハ最モ優等ナルモノ數品ニ止ルヲ可トス且各府縣并管内人ヨリ納付并交  
 托諸品運搬費ハ該府縣並管内人ニ於テ之ヲ辨スヘシ尤當館購求ノ分ハ當館ニ  
 於テ辨スルハ勿論若シ納付交托諸品ノ内巨大(椅子卓子ノ類)ニシテ多費ニ係  
 ルモノハ當館ニ於テ辨スルヲアルヘシ

但當館所用ノ物品ト重複スルノ懸慮アラハ出品前一應ノ照會アルヘシ

東京

明治十年六月

東京教育博物館

●學第七四號

明治十二年十二月十一日

縣立學校

來明治十三年以降前年完動候者ハ相當ノ褒章交附候條翌年一月中詳細取調開  
 申可致此旨相達事

但公事ト雖モ無届ニテ遲參早退候者ハ完動ト云フ限ニ非ラス

●乙第八一號

明治十五年六月七日

郡區役所 戶長役所 學務委員

自今學事ニ付履歷書ヲ要スルルハ都テ左ノ書式ニ據リ相認メ可爲差出此旨相達  
 候事

(書式)

履歷書

某府縣某區郡某町村幾番戶居住

某幾(男女弟妹)(附籍)

年號幾年幾月幾日誕生 何 某

(先名某)

一年號幾年幾月幾日其學校若クハ其塾ニ入り某ニ就キ其學科ヲ學ヒ其試驗ヲ  
 受ケ年號幾年幾月幾日卒業若クハ某ノ事故ニ付退學若クハ其間ニ依リ退學  
 ヲ命セラル但卒業証書若クハ免許狀若クハ罰文寫左ノ如シ (ナシ)

此所ニ卒業証書若クハ免許狀若クハ罰文等ノ全文ヲ掲ク

一年號幾年幾月幾日被任某官若クハ被補某幾等出任若クハ某學校長教員ト爲  
 リ若クハ補助員ト爲リ若クハ某役其係補中付但辭令書寫左ノ如シ(辭令書  
 ナキモノハ某官某ヨリ口達ト記載スヘシ以下之ニ倣フ)(月俸金幾圓)

此所ニ辭令書(月俸金書共)ノ全文ヲ掲ク以下之ニ倣フ

一年號幾年幾月幾日某官ニ轉任若クハ其幾等出仕ニ轉補若クハ某學校長教員  
 若クハ補助員ニ轉職若クハ某役其係轉動被命但辭令書寫左ノ如シ

一年號幾年幾月幾日某官若クハ其幾等出仕ヲ免セラレ若クハ某學校長教員若  
 クハ補助員ヲ解カレ若クハ某役其係ヲ免セラレ但辭令書寫左ノ如シ

一年號幾年幾月幾日某ノ功ニ依リテ某賞ヲ受領シ若クハ某ノ勞ニ依リテ某物  
 ヲ受領ス但達書寫左ノ如シ

此所ニ達書全文ヲ掲ク

一年號幾年幾月幾日某府縣町村會議員若クハ衛生委員ニ撰舉セラレ若クハ某

府縣某郡區某學區學務委員ニ薦舉セラレ幾年幾月幾日マテ勤務  
 一年號幾年幾月幾日某地ニ於テ某學校某職ヲ開キ若クハ某社ニ入り某業ヲ營  
 ミ某役員ト爲リ幾年幾月幾日某ノ事故ニ依テ之ヲ罷ム  
 一年號幾年幾月幾日某ノ事件ニ付キ原告被告ト爲リ(民事刑事事ヲ問ハス)某裁  
 判所大審院若クハ某警察署ニ於テ某處分ヲ受ケ某長官ヨリ某ノ懲戒ヲ受ク  
 但宣告書寫左ノ如シ  
 此所ニ宣告書ノ全文ヲ掲ク  
 右ノ外幼年ノ時ヨリ身上ニ關スル事件ハ一切其年月日ヲ追テ之ヲ列記シ且其  
 證據トナルヘキ文書アレハ其全文ヲ掲載シ若クハ之レナケレハ其趣ヲ記スヘ  
 シ  
 右之通相違無之候也

年月日

某府某郡區某町某番戶居住  
何 某

●學第八五號

明治十五年八月廿八日

縣立學校

縣立學校職員准官等被定候ニ付テハ太政官明治三年(五月)布告ニ準シ公用ノ節  
 提灯印ノ儀ハ判任官相當ノモノヲ用ユヘク又新年(一月一日)紀元節天長節ハ禮  
 服着由其校ヘ參賀シ即日左ノ書式ニ依リ縣廳ヘ賀表差出スヘシ此旨相達候事  
 (十五年八月乙第一〇九號ヲ以テ郡區ヘ町村立學校教員ニ關シ同様ノ件ヲ  
 達ス)

十六年十二月第八六九  
號達ニテ後段消滅

謹奉賀	新年	紀元節	天長節	年月日	官苗字名

料紙ハ美濃紙奉書ヲ

用ユ

●學第六三號

明治十六年四月廿五日

縣立學校

客年(十月)當廳學第百十號ヲ以テ校員等履歷書式相達置候處爾後別紙ノ通改正  
 候條此旨相達候事  
 但本文履歷書ハ正副二通可差出候事

(別紙)  
書式

族籍 姓名 年齡

一證書

學位記卒業證書免許狀等享受ノ年月又場所等ヲ詳記スヘシ

一學業

修學ノ場所教師年限學科目等ヲ詳記スヘシ

一職務

官仕職業等ノ經歷ヲ詳記スヘシ

一賞罰

●學第八六九號

明治十六年十二月廿八日

縣立學校

縣立學校職員三大節拜賀ノ儀長崎區及西彼杵郡内長崎村東南部在任官並遠隔ノ郡町村在任官ニシテ廳下滞在ノ向ハ通常禮服用縣廳へ出頭可致此他遠隔ノ郡町村在任官ハ當日賀表差出其校へ出頭ニ不及候條此旨相達候事

但從前諸達中本達ニ低觸スル分ハ消滅候儀ト心得ヘシ

●明治十八年三月五日

無號 達

嚴原支廳 郡區役所 學務委員

文部省出版々權所有ノ圖書生徒ノ携帶セル者ニシテ偽刻書ト認メ候モノ相見ヘ候ハ、圖書名及購求シタル書肆ノ住所姓名等取調直ニ文部省編輯局へ通告候様可致尤明治十四年五月以後ノ刊行書ニハ每冊「文部省編輯局印行ノ證」ト記入アル印紙ヲ貼付シ又「文部省」或ハ「文部省編輯局」ト記セル印章ヲ捺シ有之等ニ候條其旨相心得公私立學校教員へモ通達可致此旨内達候事  
(同年丙學第二三三號ニテ縣立學校へ達ス)

●訓令三三四號

明治廿六年一月廿五日

島司郡長市長

小學校ノ印章ハ各校區々相成ラサル様左ノ例式ニ依リ彫刻セシメラルヘシ

長崎縣	何
市郡	何尋常
小學校	校

方一寸三分

字体楷書

字數ノ都合ニ

依リ校ノ字ノ

下ニ印ノ字ヲ

加フルモ妨ケ

ナシ

●訓令第一五號

明治廿六年六月十二日

島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

判任文官同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ同官等又ハ同學級内ノ席次ハ俸給額ニ依リ俸給額同シキトキハ任補ノ前後ニ依リ其他ハ高等官席次ノ例ニ依ルヘキ儀ト心得ヘシ

●訓令第三號

明治三十年一月廿二日

對馬島廳 郡役所 縣立學校

學校ノ清潔ハ衛生上忽ニスヘカラサルヲ以テ今般左ノ通清潔方法標準ヲ定ム各學校ハ之ニ準據シテ清潔ヲ保ツコトヲ務ムヘシ

學校清潔方法

清潔方法ヲ分テテ日常清潔方法及定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一、教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少ク床板及階段ヲ潤ホシ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フヘシ但掃除ノ爲ニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 二、教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ役入シ痰唾ハ必ス痰壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス
- 紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 三、寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用ケル履物ヲ禁スヘシ但己ムヲ得ナル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ
- 四、靴ノ儘昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フヘシ
- 五、寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ
- 六、便所ノ尿溝及注壁ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ固留ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ桶箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ
- 七、糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿倫加里、粗製格魯兒滿倫(以上百倍乃至三百倍)硫酸鐵泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラス汲取ラ

シムヘシ

- 八、食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭、煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ
- 九、芥棄場ノ不潔物ハ期ヲ愆ラス搬送セシムヘシ
- 十、下水ハ常ニ疎通セシメ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ
- 十一、庭園、体操場、遊戲場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ

乙 定期清潔方法

- 定期清潔方法ハ每年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス
- 十二、先ツ教室、寄宿舎内等ニアル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ剥キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁牀板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ
- 十三、簷下、牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水ヲ以テ洗滌スヘシ
- 十四、寢具窓懸敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其先濯シ得ヘカラサルモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ書籍、文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ
- 十五、器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラ

ス室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ  
 十六、牀板、壁面等ニ腐敗アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ  
 十七、浴室、洗面所、食堂炊事場、生徒控所、雨中体操場、便所下水、芥菜場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノ爲メ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ  
 十八、水ニ浸サレタル校舍殊ニ寄宿舎ノ建具牀板等ハ取外ノ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用キテ充分ニ乾燥セシムヘシ  
 十九、建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ  
 二十、浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一ヶ月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ  
 二十一、右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

第十四類 農商工

●甲第六三號 明治十七年五月卅一日  
 本年(三月)本縣甲第十八號布達勸業諮問會規則左ノ通改定候條此旨布達候事

十九年三月甲第三〇號  
 ニテ第二條中第三第四  
 改正本文ノ通

十八年一月甲第一〇ヲ  
 以テ四條中箇點ノ一字  
 改正

勸業諮問會規則

第一條 勸業諮問會ハ明治十六年五月太政官第十三號布達ニ基キ開設スルモノトス  
 第二條 勸業諮問會ニ於テ諮問スヘキ事項ノ概目左ノ如シ  
 第一 海陸運搬ノ利害(道路港灣開鑿修築)ニ關スルヲ  
 第二 溝渠用惡水疏通ニ關スルヲ  
 第三 農商工水産山林鑛山ノ利害及改良保護ニ關スルヲ  
 第四 農商工水産山林鑛山ニ關スル統計ノヲ  
 第五 山林栽培及保護ノヲ  
 第六 農商工事統計ノヲ  
 第七 前六項ノ外農商工ノ利害ニ關スルヲ  
 第三條 會員ハ一郡區二名ヲ以テ定員トス但任期ヲ定メスト雖モ時宜ニ由リ改撰スルヲアルヘシ  
 第四條 諮問會ハ定時臨時ノ二種トス定期會ハ毎年六月ヲ以テ開會シ臨時會ハ臨時ニ開會スルモノトス  
 第五條 定期會ノ開會日數ハ十五日以内臨時會ハ七日以内トス  
 第六條 諮問會々頭ハ縣令之ニ該ルト雖モ時宜ニ由リ書記官又ハ課長ノ在アル屬官ヲ以テ代理セシムルヲアルヘシ  
 第七條 諮問會說明委員及ヒ書記ハ屬官ノ内ヲ以テ之ニ充ツルモノトス  
 第八條 會員ノ招集狀及ヒ其諮問スヘキ要旨ハ開會十五日以前ニ發スルモノトス

二十一年五月達甲五號ヲ以テ三項改正箇點ノ通

- 但離島ハ廿日以内トス
- 第九條 諮問會細則ハ縣令之ヲ定ムルモノトス
- 第十條 諮問會ハ傍聽ヲ許スト雖モ會頭ノ意見ヲ以テ之ヲ禁スルコトアルヘシ
- 第十一條 農商務省官員農工商上等會員本縣官員及ヒ縣令ノ特ニ命シタル者ハ諮問事項ニ付會場ニ列シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但會ノ數ニ加ヘス
- 第十二條 諮問會員ノ出席半數以上ナラサルハ其會ヲ開設セサルモノトス
- 第十三條 會員撰舉ハ一郡區四名ヲ郡區長ニ於テ撰舉シ縣令ノ採擇ニ供スヘシ但其撰舉方法順序ハ別ニ之ヲ定ムルモノトス
- 第十四條 會員ノ被撰者ハ其地ニ本籍アルモノニシテ農工商事ニ精熟シ若クハ之レニ通曉シ且名望ト相當ノ財產アルモノヲ撰舉スヘシ尤普通撰舉法ニ觸ル者ハ當撰者タルヲ得ス
- 但縣會議員學務委員衛生委員勸業委員等ノ職務アル者ト雖モ撰舉スルヲ得
- 第十五條 諮問會員ノ旅費日當ハ別ニ之ヲ定ムルモノトス
- 丙勸第八四二號 明治十七年八月廿三日 嚴原支廳 各郡區
- 本年(五月)甲第六十三號布達勸業諮問會規則第十三條會員撰舉方法左ノ通相定候條此旨相達候事
- 勸業諮問會員撰舉方法
- 第二項 勸業諮問會員ハ本會規則第十三條第十四條ニ據リ撰舉スヘシ
- 第二項 被撰者ハ年齡滿廿五歲以上ノ男子タルヘシ
- 第三項 諮問會員ヲ免シ又ハ會員ノ死亡シタルハ直ニ後任者ヲ撰舉スヘシ

●乙第一八五號

明治十七年十月十八日

嚴原支廳 郡區役所 戶長役所

勸業委員設置準則勸業會設置準則勸業委員撰舉方法準則勸業委員處務順序準則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

但從前設置ノ分ハ本則ニ準據更ニ伺出ヘシ

(別紙)

勸業委員設置準則

- 第一條 郡區ニ勸業委員ヲ設置シ農工商事ノ進歩ヲ揆圖ス
- 第二條 勸業委員ハ島廳郡區役所管轄内ヲ適宜三部乃至四部ニ分割シ各部ニ壹名ヲ置ク
- 第三條 勸業委員ノ撰舉方法及ヒ處務順序ハ島司郡區長ニ於テ方案ヲ設ケ之ヲ區會又ハ聯合町村會ニ附シ決議ノ上知事ノ裁可ヲ受クヘシ
- 第四條 勸業委員ノ任期ハ滿二ケ年トス
- 但滿期再撰スルヲ得
- 第五條 知事ニ於テ勸業委員ノ撰定不適當ト認ムルトキハ之ヲ改撰セシムルコトアルヘシ
- 第六條 勸業委員ハ縣廳及ヒ島廳郡區役所ノ指揮スル事務ヲ處辨スルモノトス
- 第七條 勸業委員ノ月手當旅費ハ區會又ハ聯合町村會ニ於テ議定シ區費又ハ聯合町村費ヲ以テ支辨スヘシ其月手當額ハ一名金五圓以内トス
- 但總人員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其金額内ニ於テ互ニ増減支給スル

ハ妨ケナシ

勸業會設置準則

- 第一條 區町村若クハ聯合町村ニ於テ農業會商業會工事會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルヲ得
- 第二條 農商工業會及勸業會ノ設置ハ區町村會又ハ聯合町村會評議ニ付シ同業會ノ設置ハ同業者ノ協議ニ任スヘシ
- 但有志者ヲ以テ組織スルモノハ此限ニアラス
- 第三條 各種ノ勸業會ハ支廳長郡區長戶長之ヲ管理ス
- 第四條 各種ノ勸業會ハ其會則ヲ設ケテ縣令ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 各種ノ勸業會ハ勸業委員ヲ以テ會員ニ加フルヲ得
- 第六條 各種ノ勸業會ハ主務ノ官署ヨリ勸業上ノ事ニ付諮問アルトキハ之ヲ審議ス
- 第七條 各種ノ勸業會ハ勸業上ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトアルヘシ
- 第八條 縣廳員郡區吏員戶長ハ各種ノ勸業會ニ列シテ意見ヲ陳述スルヲ得
- 第九條 農商工業會勸業會ノ諸費ハ區町村若クハ聯合町村費ヲ以テ支辨シ同業會ノ諸費ハ同業者ニ於テ協議支辨スルモノトス
- 但有志者ヲ以テ組織シタルモノハ此ノ限リニアラス
- 勸業委員選舉方法準則
- 第一條 勸業委員ノ選舉ハ島司郡區長之ヲ管理ス

第二條 區會又ハ聯合町村會ハ勸業委員ノ人員ヲ定メ且ツ之ヲ選舉シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 勸業委員定員ノ外之ニ倍スル補充員ヲ選舉シ欠員アルトキハ投票ノ順序ヲ以テ之ヲ補充スルモノトス

第四條 勸業委員ノ撰舉ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一 農商工事ノ一ニ慣熟シ若クハ通曉シ且ツ品行方正ニシテ名望アル者

一 滿二十年以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍若クハ滿三ヶ年以上寄留シ其郡區内ニ於テ租稅ヲ納ムル者

但官吏其他身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者並輕禁錮以上實決ノ刑ニ處セラレ滿期後五ヶ年ヲ經サル者ハ撰舉スルヲ得ス

第五條 補充員ヲ以テ勸業委員ニ充ツルトキ其任期ハ前任委員就任ノ時ヨリ通算スルモノトス

勸業委員處務順序準則

第一條 勸業委員ハ其部内物産ノ盛衰ニ注目シ之カ改良繁殖ノ方法ヲ考案シ各種ノ勸業會ニ列シ其ノ意見ヲ陳述シ又ハ主務ノ官署ヘ具申スヘシ

第二條 勸業委員處務ノ概目左ノ如シ

- 一 水陸動植物蕃殖改良ノ事
- 二 山野ノ遺利ヲ拾ヒ有益ノ物産ヲ興ス事
- 三 諸試驗ノ事
- 四 苗種交換ノ事

三十年九月縣令三七號  
ニテ第四條削除

- 五 農具漁具並耕作法改良ノ事
  - 六 惡蟲及有害鳥獸驅除ノ事
  - 七 獸醫ノ事
  - 八 諸嶺山ノ事
  - 九 博覽會共進會出品ノ事
  - 十 家畜傳染病ノ事
  - 十一 山林栽培保護ノ事
  - 十二 海陸運送ノ事
  - 十三 溝渠用惡水路ノ事
  - 十四 部内農商工業ニ係ル統計ノ事
  - 十五 前各項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事
- 第三條 勸業委員ハ少クモ年四回受持部内ノ實況ヲ支廳郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ報告スヘシ
- 第四條 左ノ各項ハ見聞ニ隨ヒ特ニ縣廳ヘ報告スヘシ
- 一 非常ノ天災地變アリテ動植物ニ影響シタル時
  - 二 家畜傳染病アル時
  - 三 山野ニ害蟲發生シタル時
  - 四 前三項ノ外農工商業上ニ不利ノ兆候若クハ不時變動アル時
- 甲第貳〇號 明治十八年二月廿三日  
農工商同業組合準則別冊之通相定候條此旨布達候事

但茶業組合ノ外從前設置ノ分ハ本則ニ準據シ更ニ認可ヲ受ク可シ  
(別冊)

同業組合準則

- 第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル時ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フ可シ
- 第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利害ヲ圖ルヲ以テ目的トナス可シ
- 第三條 同業組合ノ規約ニ掲ク可キ事項ハ左ノ如シ
- 第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱
  - 第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置
  - 第三項 目的及方法
  - 第四項 役員ノ撰舉法及權限
  - 第五項 會議ニ關スル規程
  - 第六項 加入者及退去者ニ關スル規程
  - 第七項 費用ノ徵收及賦課法
  - 第八項 違約者處分ノ方法
- 右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
- 第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス
- 第六條 同業組合ハ總テ其事跡ヒ費用決算表ヲ毎年縣廳ヘ報告スヘシ



第七條 規約ヲ更正スル時ハ更ニ認可ヲ請フ可シ

第八條 分立又ハ合併スル時ハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フ可シ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ル時ハ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ  
但其聯合ニ縣以上ニ渉ル時ハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

●縣令第三〇號 明治廿七年五月十四日

明治十八年(二月)甲第二十號布達農工商同業組合準則ヲ適用スヘキ業体左ノ如シ

- 一 米麥
- 二 製糖
- 三 貿易商
- 四 荷積問屋
- 五 石炭鑛業
- 六 陶磁器製造
- 七 漆器製造
- 八 籠甲細工
- 九 木蠟製造
- 十 烟草營業
- 但長崎市及南高來郡ニ限ル
- 十一 鍛冶鑄物屋

廿八年四月訓令一八號  
ニテ第六條圈點ノ通リ  
改正

但長崎市及西彼杵郡ニ限ル

其他重要物産ノ改良繁殖ニ關シ組合準則ヲ適用スルコトヲ必要ト認ムル業体ハ  
特ニ規約ヲ認可スルコトアルベシ

附 則

明治十八年(十月)甲第八十三號布達ニ據リ十八年(二月)甲第二十號同業組合準  
則ヲ適用シタル諸船問屋米穀商石炭商材木商組合規約ノ認可ハ本縣令施行ノ日  
ヨリ取消ス

十八年(十月)甲第八十三號布達ハ本縣令施行ノ日ヨリ廢ス

乙第四五號 明治十八年三月廿八日 嚴原支廳 郡區役所

本年本縣甲第二十號ヲ以テ同業組合準則布達候處尙ホ民情ヲ酌察シ規約準據項  
目別冊ノ通相定候條準則ニ基キ規約ヲ作ル者アル時ハ總テ此項目ニ準據セシム  
ル様可致此旨相達候事

(別冊)

同業組合規約準據項目

- 第一 各同業組合ハ其業体ニ因リ他ノ地區同業組合ニ關係ヲ及ホスモノハ可  
成全縣若クハ關係郡區組合ノ聯合ヲ爲ス可シ
- 第二 數業ヲ兼ムル者ハ每業組合ニ加入ス可シ  
但些々タル兼業ニシテ其同業間ニ影響ヲ及サ、ル程ノモノハ本業組合ノ  
ミニ加入スルモ妨ケナシ
- 第三 業体ノ相類似スルモノハ合併シテ一個ノ組合ヲ結フモ妨ケナシ

第四 同業組合規約書ハ左ノ項目ニ依テ可シ  
但其組合ノ都合ニ因リ變更増減スルモ妨ケナシ  
長崎縣何郡區何業組合規約

第一章 總 則

第一條 當組合ハ何郡區何業組合ト稱ス

第二條 當組合ハ長崎縣何郡區内ノ同業者ヲ以テ組織シ長崎縣何郡區何町村何番戸ニ事務所ヲ設置ス可シ

第三條 組合ハ取締人ヲ撰定シ組合中ノ取締ヲ爲サシム可シ

第四條 此ノ組合ニヨリ違約者ノ通知ヲ得タル時ハ組合員ハ之ト取引ヲ中止又ハ全止ス可シ

第五條 取締人就職或ハ交代ノ節ハ新舊連署縣廳へ届出ツ可シ

第六條 組合ハ其事項各自賣上高及ヒ租合費用決算表ヲ毎年二月迄ノ收支豫算賦課徴收方法及決算ハ其時々之ヲ縣廳へ報告ス可シ

第七條 規約ヲ更正スル時ハ更ニ認可ヲ請フ可シ

第二章 目的及方法

第八條 組合員ハ主トシテ何々ノ營業或ハ物品事項ヲ何々何々スルヲ以テ目的トス

第九條 組合員ハ何々ヲ爲ス可ク何々等ヲ爲ス可カラス  
(其事項多少ニ因リ幾條ニモ別記ス可シ)

第三章 取締人撰舉方法及ヒ其權限

第十條 組合ニ於テ投票ヲ以テ取締人幾名ヲ撰舉シ投票同數ナレバ年長ヲ取ル  
第十一條 取締在職年限ヲ幾年トス

但再撰重任スルヲ得

第十二條 取締人關員アル時ハ臨時之ヲ撰舉シ其任期ハ前任者就職ノ時ヨリ起算ス可シ

第十三條 取締人ハ組合一般ノ事務ヲ統理シ常ニ其營業上ノ便益ヲ謀ル可シ而シテ組合一般ニ施行ス可キモノハ細大ヲ問ハス必ラス總會ノ議決ヲ得ベシ

第十四條 組合地區内同業人ノ開廢業等ノ願届書ハ取締人必ラス之ニ連署ス可シ

第十五條 取締人ハ組合名簿ヲ製シ置キ加入退去轉任改名等一々添削更正シ毎月分取纏ノ縣廳へ届出且ツ組合中ニ廣告ス可シ

第十六條 取締人ハ組合中違約及ヒ不正ノ所業アルコトヲ見聞シタル時ハ尙ホ其細情ヲ查察シ總會議「違約或ハ不正者ヲ除キ」ニ問ヒ第七章ニ定ムル所ノ罰則ニ據リ處置ス可シ

第十七條 組合中ノ費用ハ勉メテ省畧ヲ旨トシ其出入ヲ細記シ半季(或ハ毎月)ヲ以テ組合中ニ報告ス可シ

但組合中ノ者本文ノ帳簿一覽ヲ求ムルニ於テハ何時ニテモ之ヲ示ス可シ

第四章 會議ニ關スル規程

第十八條 會議ニ於テ議決シタル事項ハ組合一般之ヲ確守ス可シ

第十九條 會議ノ長ハ取締人ヲ以テ之ニ充テ取締人關席スル時ハ臨時撰定ス可シ

第廿條 定式會ハ毎年某月々々ニ於テ取締人ノ定ムル時日場所ニ於テ開設スルモノトス尤モ其時日場所ハ前以テ縣廳ヘ届出ツ可シ

第廿一條 臨時會ハ取締ノ考案若シハ組合何名(或ハ幾分)以上ノ請求ニ因リ何時ニテモ開キ得可シ

第廿二條 會議ニ出席スル能ハザル者ハ其理由ヲ前以テ事務所ヘ届出ツ可シ

第廿三條 定式臨時會トモ其人員四分ノ三以上出席スルニ非レハ開會スルヲ得ス

第廿四條 惣テ會議ハ同説ノ多數ニ依リ決定ス可シ可否相半スル時ハ議長ノ決ニ任ス

第廿五條 決議ノ事項ハ取締人之ヲ施行ス

第五章 加入者并退去者ニ關スル規程

第廿六條 新ニ組合ニ加入セント欲スル者ハ之ヲ取締人ニ申込ム可シ取締人ハ規約書ヲ示シ加入ノ據トシテ之ニ署名各調印セシム可シ

第廿七條 組合ヲ退去セントスル者ハ其理由ヲ詳細取締人ヘ申出ツ可シ而シテ廢業ノ如キ事實判明ノモノハ取締人ニテ之ヲ許シ其他ハ惣會ニ付シ處辨ス可シ

第六章 費用ノ徵收及ヒ賦課法

第廿八條 組合ノ費用ハ何々ノ項(例ヘハ賣上高、製産高店舖製造所ノ廣狹位置或ハ國稅、營業稅等)ヲ標準トシテ之ヲ分賦ス可シ

第廿九條 組合ノ費用ハ半季(或ハ幾月)分ヲ豫算分賦シ何時迄事務所ヘ送付ス可シ(或ハ取締人ニ於テ之ヲ徵收ス)

第卅條 新ニ加入シ又ハ退去スル者ハ其半季内(或ハ其月ヨリマテ)ノ費用ヲ負擔ス可シ

第七章 違約者處分法

第卅一條 組合中此規約ニ背キ不正ノ所業アル時ハ第三章第十六條ニ定メタル會議ニ於テ其輕重ヲ定メ左ノ個條ヲ適用ス可シ

但最重ノ情アル者ハ數條ヲ併用スルヲアル可シ

一 幾圓ヨリ少ナカラス幾圓ヨリ多カラサル違約金ヲ出サシム(若シ豫テ信認金ヲ出シ置キ之ヲ引落ス等ノ定メアル時ハ此ニ列記ス可シ)

但シ其金員ハ何々ノ費途ニ使用スルモノトス

二 新聞紙ニ廣告ス可シ

三 取引ヲ中止ス可シ

四 他ノ關係アル組合ニ通告ス可シ

(此ノ外其他タルヲ論セス規約ヲ堅固ニシ各自信ヲ重ンスルノ念ヲ存ス可キ個條ヲ適宜相定メ列記ス可シ)

右ノ條件組合員認諾遵守ノ証トシテ此ニ各自姓名ヲ記シ調印ス

年 月 日

●丙勸第八九八號 明治十八年八月十四日

支廳長 各郡區長

組合員姓名

本年二月甲第二十號ヲ以テ及布達候同業組合準則ノ義ハ農工商營業上ノ福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ラシムルノ主旨タル申迄モ無之ニ付該主旨ニ據リ規約訂盟ノ際厚ク注意セシメ若シ組合多數ノ集合力ヲ以テ害他利己若クハ締賣締買ノ趣旨ヲ包含シ又ハ新規開業セント欲スル者ヲシテ豫メ組合ノ承諾ヲ得セシメ若クハ加入身元金ヲ出サシムル等ノ手段ヲ以テ開業ヲ防拒スル等總テ公益改進ノ目的ニ悖ルノ條款ヲ規約中ニ設クルニ於テハ決シテ認可ヲ與ヘサルハ勿論規約中ニ其組合ノ目的ヲ達スヘキ方法ヲ明記セサルモノアルハ明瞭ニ之ヲ掲出セシムル様一層注意有之度此旨及内達候也

●達農第七七號 明治廿一年二月一日 對馬島廳 郡區役所

茶業及ヒ蠶糸業其他各同業組合ニ關スル一切之費用賦課徵收支出ノ方法ハ該組合會議ニ於テ議定スヘキハ勿論ノ義ニ候得共役員議員ニ於テ可成費用ヲ節約シ賦課ノ方法ヲ定メサルハ自然組合員ノ不平ヲ招キ組合ノ妨害ヲ生スヘキ儀ニ付其邊篤ク注意シ議定ノ時々豫算額及ヒ賦課徵收支出ノ方法並ニ決算額報告候様當業者ヘ相達スヘシ

●訓令第三二二號 明治廿四年四月二十日 郡市長宛

明治十八年二月本縣甲第廿號全年十月甲第八十三號布達ヲ以テ農工商全業組合準則及ヒ其業体ヲ規定シ置キ候處右業体ノ外全業組合ヲ設ケ其認可ヲ願出候節ハ意見ヲ附シ本廳ヘ進達セララルヘシ

參照

十八年十月甲八三號ハ二十七年五月縣令三〇號ニテ廢止

●勅第六四七號

明治十八年三月廿八日

勸業課ヨリ各部區役所ヘ通牒

本年甲第二十號布達ニ準據同業組合規約ヲ設ケ認可同出候節ハ規約書貳通(組合ノ各自記名シモノ)寫本一通(規約書)寫ニシテ調印(キモノ)宛差出候様御取計相成度此段豫テ及御通牒候也

●縣令第九號 明治廿八年三月八日

石炭業組合規則左ノ通相定ム

石炭業組合規則

第一條 本規則ニ於テ石炭業ト稱スルハ左ノ業体ノ一ニ從事スル者ヲ云フ

- 一 石炭礦業
- 二 石炭商業

第二條 前條石炭礦業トハ石炭試堀石炭採掘石炭商業トハ石炭仲買石炭荷請問屋石炭外國貿易ノ業ヲ營ム者ヲ稱ス

第三條 石炭業ニ從事スル者ハ該業ノ改良ヲ圖リ販路ヲ擴張スルヲ以テ目的トシ業体毎ニ組合ヲ設ケ必ス之ニ加盟スヘシ  
但知事ニ於テ組合ニ加盟セシムルノ必要ナシト認ムルモノハ之レヲ除クコトアルヘシ

第四條 組合ハ全縣下ヲ以テ一區域トシ便宜ノ場所ニ事務所ヲ設ケ組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ  
但土地ノ狀況ニ依リ事務所支部ヲ設クルコトヲ得

三十年二月縣令第六號  
ニテ三條但書圈點ノ通  
追加アリ

第五條 組合ノ規約ハ組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第六條 組合規約ニ掲クヘキ事項概左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合事務所及其事務所支部ノ位置并ニ所屬區域
- 三 目的實行ノ方法
- 四 役員ノ任期職務及權限
- 五 關係アル他ノ組合トノ聯合ニ關スル規定
- 六 組合會ニ關スル規定
- 七 証標又ハ記號ニ關スル規定
- 八 違約處分ノ方法
- 九 備主ト抗夫車夫トニ關スル規定
- 十 會計ニ關スル規定
- 十一 質業者ニ關スル規定
- 十二 營業ノ研究方法
- 十三 番頭手代ニ關スル規定

右外組合ニ於テ必要トスル事項

第七條 組合ハ其名義ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 組合ハ一ケ年間ノ經費收支豫算及賦課徵收方法ヲ議定シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 組合ハ毎年一月中ニ前年ノ事績及費用ノ決算ヲ知事ニ報告スヘシ

第十條 組合ハ毎年六月及十二月ニ於テ其半期間ニ於ケル組合員營業ノ狀況盛衰ヲ調査シ翌月十五日限リ知事ニ報告スヘシ

第十一條 成年以上ノ男子ニシテ組合員タル者ハ組合ノ取締役及組合會ノ議員ニ選舉セラレ又ハ之ヲ選舉スルコトヲ得但左ノ諸項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人被選舉人タルコトヲ得ス

- 一 本則ニ背キテ處罰ヲ受ケ又ハ組合ノ違約處分ヲ受ケ一ケ年ヲ經過セサル者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期若クハ赦免後一ケ年ヲ經過セサル者
- 三 家産分産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

第十二條 組合員ハ組合ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ自擔スヘシ

第十三條 未成年ノ組合員ハ相當ノ代表人ヲ定メ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第十四條 組合事務所ニハ頭取及取締役若干ヲ置キ取締役ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ頭取ハ取締役之ヲ互選スヘシ事務所支部ニハ取締役一人ヲ置ク頭取及取締役ノ就職退職ハ知事ニ届出ヘシ

第十五條 頭取及取締役ハ組合會ノ議決ヲ經ルニ非レハ就職ヲ辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

第十六條 組合ハ他ノ組合ト氣脈ヲ通スルガ爲メ聯合シテ規約ヲ作ルトキハ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第十七條 組合會ニ於テ決議シタル事項ハ決議後五日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第十八條 知事ニ於テ組合ノ行爲又ハ決議ニシテ法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルノ恐アリト認ムルトキハ之ヲ取消又ハ中止セシムルコトアルベシ

第十九條 本則第三條ニ違背シ組合ニ加盟セサル者第十三條ニ違背シ規約ヲ遵守セサル者及組合費用ノ負擔ヲ拒ム者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

●明治二十年六月廿一日 島司各郡區長へ内達

勤勉貯蓄組合現約ニ依リ貯蓄シタル金穀並組合人員報告ノ義ニ付客年二月丙勸第一三五號ヲ以テ及内達候處自今左ノ表式ニ準シ半期毎ニ取調ヘ(一月七月)限リ申報スヘシ

但明治十九年十二月一日現在調此際要用ノ義有之至急進達スヘシ

表式

明治何年前後半期貯蓄高並人員調

組合區域	金錢	米	麥	雜穀	何品	貯蓄人員		備考
						人員	備	
計								

●明治廿一年九月十九日 島司郡區長へ内達

勤勉貯蓄組合ニ於テ貯蓄シタル金穀等報告ノ義ハ客年六月二十一日及内達置キタル表式ニ據リ自今最初ヨリ貯蓄シタル金穀ノ總高ヲ加算シ報告スル當時ノ貯

廿九年一月訓令第三號ヲ以テ箇點ノ四字追加

蓄高ト爲シ前年分テ翌年二月限リ申報スヘシ

●訓令第一二三號

明治廿七年十一月九日

島廳 郡役所 市役所

勸業會農會水產會其他勸業上ニ關スル諸會設置廢止ノ決議若クハ申合セノ事件及施行セシ事柄ノ成蹟ハ成ルヘク詳密取調其都度報告スヘシ

但シ本文ノ諸會ニシテ會則上其決議ノ事件及成蹟等直ニ常廳へ届出ツヘキ明文アルモノハ豫テ注意ヲ加ヘ其都度遺漏ナク届出シムヘシ

●訓令第一三號

明治廿九年三月六日

島廳 郡役所 市役所

共進會品評會其他之ニ類似ノ會ニシテ褒賞ヲ附與スルモノヲ開設シタルトキハ左ノ書式ニ依リ閉會后十五日以内報告スヘシ

書式

何々會報告

會場地名 國郡市町村名

會名 何共進會何品評會ト記スヘシ(假令ハ水產會兩縣共進會ト云フカ如シ)其ナキモノハ單ニ共進會物產展覽會品評會ト記スヘシ

會主 何 某

開場 何月何日

褒賞授與式 何月何日

閉會 何月何日

出品區域 何郡市聯合或ハ一管下一般或ハ何郡何町村聯合

出品人員 何人  
 出品員數 若干  
 出品總價 何圓錢  
 出品種類 農產水産或ハ陶漆器織物等成ルヘク詳記スヘシ且ツ農產水産ハ其物品ヲ詳記スヘシ  
 出品賣數 若干  
 出品賣價總額 何圓錢  
 褒賞總人員 何人  
 褒賞等級別 一等人二等人三等人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協贊賞何人  
 褒賞々與物件 杯或ハ何物品或ハ金圓(假令ハ一何物品或ハ金何圓二等何々)等成ルヘク詳記スヘシ  
 來觀人員 何人  
 通券價格 何錢(日曜日平日等ノ區別アルモノハ各別ニ記スヘシ)  
 通券收額 何圓錢  
 會費總額 何圓錢  
 會費區別 地方税何圓通券何圓或ハ釐金義捐金等成ルヘク詳記スヘシ  
 本會景況 云々  
 假令ハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セル者或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著ルシク改良進步セシ者或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシ

モノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農產物水産物ニ關シ會場ノ景況ハ勿論后来ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ掲ケ又其損益及保續ノ目的ヲ詳記スヘシ  
 右報告候也

島司郡市長氏名

明治廿七年三月廿六日

●縣令第一七號 蠶絲業取締規則左ノ通相定ム

蠶絲業取締規則

- 第一條 本規則ニ於テ蠶絲業ト稱スルハ蠶種製造者養蠶者生絲製造者及蠶種繭生絲ヲ販賣若クハ仲買スル者ヲ云フ
- 第二條 蠶絲業ニ従事スル者ハ島廳郡役所ノ管轄區域ニ依リ組合ヲ設ケ必之ニ加盟スヘシ
- 第三條 土地ノ狀況ニ依リ組合區域ノ分合ヲ要スルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 組合ノ名稱ハ長崎縣何郡市蠶絲業組合ト稱スヘシ  
 但第二條ニ依リ組合區域ヲ分合シタルトキハ長崎縣何郡市蠶絲業組合又ハ長崎縣(何郡市何部)組合ト稱スヘシ
- 第四條 組合ハ便宜ノ地ニ事務所ヲ設ケ組長検査役其他適宜ノ役員ヲ置キ組合事務ヲ取扱フヘシ但組長ノ就職退職ハ知事ニ届出ヘシ
- 第五條 組合ノ規約ハ組合會議ヲ以テ之ヲ定メ取締所ヲ經知事ノ認可ヲ得テ之

二十七年五月縣令三一號三十一號三月全一八號ヲ以テ削除本文通

ヲ施行スヘシ

但認可ヲ得タルトキハ其規約謄本普通ツツ所轄郡市役所並ニ取締所へ差出スヘシ

第六條 組合規約ニ掲クヘキ事項概テ左ノ如シ

- 一 組合事務所ノ位置
- 二 役員撰擧法及權限
- 三 役員給料及旅費
- 四 組合會議ニ關スル規程
- 五 組合内蠶絲業ノ統計ヲ調査シ且狀況ヲ報告スル方法
- 六 證標ニ關スル規程
- 七 取締ニ關スル事
- 八 桑樹ノ栽培及蠶兒ノ飼育ヲ善良ナラシムル方法
- 九 繭ノ殺蛹及貯藏ノ方法並ニ繭ノ種數ヲ混淆セサル事
- 十 製絲ハ綾取アル揚篋ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ナラシムル事
- 十一 生絲ノ結束及綴ノ量目ヲ一樣ナラシムル事
- 十二 蠶絲業ノ檢査ニ關スル事
- 十三 組合費ノ賦課徵收及支出決算方法
- 十四 入退者取扱方法
- 十五 違約者處分方法
- 十六 前各項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第七條 組合事務所ニ於テハ證標ヲ製シ組合員ノ證トシテ之ヲ組合員ニ交付スヘシ

第八條 組合員ハ組合及取締所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スヘシ

第九條 組合ニ於テハ生絲檢査法ヲ設ク之ヲ檢査スヘシ

第十三條 繭生絲若クハ桑苗ヲ販賣スルニ不正ノ所爲ヲナシ又ハ生絲ノ二緒以上ヲ合セ揚返シタルモノヲ賣買讓與スルヲ得ス

第十四條 生絲ハ括造以上ノモノハ組合檢査ノ證アルニアラザレバ賣買讓與スルヲ得ス

第十五條 生絲ヲ荷造ノ上他府縣へ販賣スルモノハ其組合ノ檢査證及製造者若クハ取扱人ノ住所姓名ヲ記入スヘシ

第十六條 組長ハ常ニ組合内ノ業務上ニ注意シ事業ノ隆盛ヲ計ルヘシ

第十七條 組合ハ其氣脈ヲ通スル爲メ便宜ノ地ニ取締所一箇所ヲ設ケ取締所ニ於テハ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第十八條 取締所ニハ頭取其他適宜ノ役員ヲ置キ取締所ノ事務ヲ取扱フヘシ但頭取ノ就職退職ハ知事ニ届出ヘシ

第十九條 取締所ハ各組長ノ會議ヲ以テ規約ヲ定メ知事ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第二十條 取締所ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ概テ左ノ如シ

- 一 取締所ノ位置
- 二 役員撰擧法及權限



三 役員給料及旅費  
 四 會議ニ關スル規程  
 五 組合ノ氣脈ヲ聯通スル方法  
 六 組合ノ監督及獎勵ノ方法  
 七 蠶絲業ノ實況及之ニ關スル統計調査ノ方法  
 八 取締所費ノ賦課徵收及支出決算ノ方法  
 九 蠶絲業ノ改良進歩ヲ計ル事  
 十 取締ニ關スル事  
 十一 前各項ノ外取締所ニ於テ必要トスル事項  
 第廿一條 取締所ニ於テハ毎年各組合蠶絲業ニ關スル諸種ノ統計表ヲ作り翌年一月限知事ニ報告スベシ  
 但毎組合ニ就キ本業ノ狀況ヲ詳記シ且將來ノ見込ヲ附記スヘシ  
 第廿二條 本規則第二條第八條第十三條第十四條第十五條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
 附 則  
 第廿三條 本規則中知事トアルハ對馬國ニ於テハ島司トス  
 第廿四條 本規則ハ自家用ノミニ供スル蠶絲業者ニハ當分ニ適用セス  
 第廿五條 本規則ハ本年四月二十日ヨリ施行ス  
 第廿六條 明治十八年十一月甲第九十三號布達蠶絲業組合準則ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

●縣令第二〇號 明治廿七年四月四日  
 蠶絲業取締規則施行ニ付テハ島司郡市長ハ其部内蠶絲業者ヨリ創設委員ヲ選定シ創設委員ハ組合ノ組織ヲ定メ左ノ准案ニ依リ組合規約ヲ設ケ認可ヲ受クヘシ  
 蠶絲業組合規約准案  
 第一章 總 則  
 第壹條 本組合ハ本年三月縣令第十七號ニ基キ蠶絲業者ヲ以テ組織スルモノニシテ該業ノ改良進歩ヲ計リ販路ヲ擴張スルヲ以テ目的トス  
 第貳條 本組合ハ何郡市蠶絲業組合ト稱シ組合内ヲ何區ニ分チ壹町村若クハ數町村ヲ合シテ壹區トス第三條本組合事務所ハ何郡市町村番地ニ設置ス  
 第四條 本組合ノ印証及證標ハ左ノ如シ  
 一 寸三分  
 印 長崎縣何郡  
 市 蠶絲業組  
 章 合 之 印  
 三 寸  
 第 號  
 蠶絲業組合員之證  
 長崎縣何郡市町村  
 何業者 何 某  
 二 寸五分  
 裏 長崎縣何郡市蠶絲業組合事務所  
 面 明治 年 月 日

第五條 組合事務所ニ備置ク簿冊ハ概テ左ノ如シ

- 一 組合員名簿
- 二 組合役員名簿
- 三 公達書綴
- 四 官廳及取締所徒復書類
- 五 蠶絲業統計書類
- 六 各組合往復書類
- 七 商況通信錄
- 八 違約者處分錄
- 九 金錢出納簿
- 十 會議錄
- 十一 蠶絲検査錄
- 十二 日誌
- 十三 前各項ノ外要用ト認ムル書類

第二章 役員撰舉權限及諸給與

第六條 組合ニハ左ノ役員ヲ置キ蠶絲業一切ノ事務ヲ分擔ス  
但検査役以下ハ事務ノ繁閑ニヨリ増減スルヲアルヘシ

組長 壹名 検査役 若干名  
委員 若干名 書記 若干名

第七條 組長検査役ハ委員ニ於テ撰舉シ委員ハ其區組合員ノ互撰トシ書記ハ組

長之ヲ任免ス

第八條 組長検査役ノ任期ハ滿二箇年トス  
但再撰スルモ妨ケナシ

第九條 組長ハ組合一般ノ事務ヲ整理シ役員ヲ統督ス  
組長代理者ハ豫テ委員中ヨリ互撰シ置クモノトス

第十條 検査役ハ蠶種及製絲ヲ検査ス

第十一條 委員ハ其區内ノ常務ヲ執リ組合會議ノ節ハ其區内總代ノ資格ヲ以テ  
出席スルモノトス

第十二條 組合役員給料及旅費ハ左ノ如シ

組長	報酬	検査役	日給
委員	報酬	書記	日給
小使	日給		

第三章 會議ニ關スル規程

第十三條 組合ニ於テハ會議ヲ開キ組合ニ關スル諸般ノ事項ヲ議決スルモノトス

第十四條 會議ヲ分テ通常會及臨時會ノ二トス通常會ハ毎年三月之ヲ開キ臨時

役名	項目	汽車賃	漁船賃	車馬賃	日當

會ハ組長ノ意見又ハ組合員三分ノ一以上ノ請求ヲ以テ開會スルモノトス  
但臨時開會ノ請求ヲ受ケタルトキハ組長ハ受理シタル日ヨリ十五日以内  
ニ開會スルモノトス

第十五條 會長ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 會議ノ議案ハ會長之ヲ提出ス

第十七條 會議ハ委員半數以上出席スルニアラサレハ開クコトヲ得ス  
但同事件ニシテ再集ニ及フトキハ此限リニ在ラス

第十八條 議事ハ出席員過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス若シ同數ナルトキハ會長  
之ヲ決ス

第十九條 會議ヲ開クトキハ其前會場位置及日限ヲ取締所ヘ届出ツルモノトス  
第二十條 蠶絲業ノ改良進歩ヲ計ル爲メ組合ニ於テ集談會ヲ開クヘシ

第四章 蠶 種

第廿一條 蠶種製造者ハ左ノ期日マテニ製造枚數及種類ノ區別ヲナ組合シ事務  
所ニ届出ツヘシ

春蠶種 何月何日迄

夏蠶種 何月何日迄

秋蠶種 何月何日迄

第五章 養 蠶

第廿二條 養蠶ヲナストキハ左ノ各項ニ依ルモノトス  
一 飼育スル蠶種ハ製糸ニ適スル種類ヲ撰ムヘシ

二 繭ハ春夏秋ノ種類ヲ混淆スヘカラス

三 殺蛹ハ蒸殺燥殺又ハ蒸燥殺ニ限ルモノトス

四 繭ハ殺蛹前後ニ於テ其善惡ヲ撰別スヘシ

五 繭ノ貯藏ハ空氣流通宜シキ所ニ籠又ハ箱ニ薄ク入レ充分乾燥スルマテハ  
毎日攪拌シ炊煙又ハ塵埃ノ患ナキ様注意スヘシ

第廿三條 養蠶ヲナスモノハ左ノ期日マテニ原紙掃立枚數并ニ收繭高(玉繭屑  
繭ハ別ニ記スヘシ)ヲ飼育ノ狀況病蠶ノ歩合(可成蠶蛆其他病蠶ノ歩合ヲ示ス  
ヲ可トス)ヲ組合事務所ニ届出ツルモノトス

春 蠶 何月何日迄

夏 蠶 何月何日迄

秋 蠶 何月何日迄

第六章 製 糸

第廿四條 生糸ヲ製造スルモノハ左ノ各項ニ依ルモノトス

一 製糸ニ供スル繭ハ其種類纖維形狀等ヲ選別シ成ルヘク精粗混淆セサルヲ

二 生糸ノ細太ハ需用ノ如何ニ依ルト雖モ輸出ヲ目的トスルモノハ佛國向ハ  
十一米國向ハ十四デニールヲ標準トスヘシ

三 繭ノ量目ハ十枚ヲ目的トシニ總ヲ一捻トシ量目ニ不同ナキヲ要ス

四 生糸揚返ノ際切レタル糸ハ必ラス丁寧ニ繼キ置クヘシ

五 口留ハ上下ノ二緒ヲ三筋トシ一所ニ集メテ結ヒ合セ其ステ緒ヲ以テ總ヲ  
二回シテ丁寧ニ結ヒ置クヘシ

六 編糸ハ一摺ニ二箇所ヲ付ケ一箇所ハ口留ノ所一箇所ハ之ニ相對スル處ニ各五ツ編トスヘシ

七 編糸ハ淺黄水色ノ唐糸ニテ二本撚リノモノヲ用フヘシ  
但編糸ノ細太不均ハ量目ニ關係アルヲ以テ二十八番ノモノニ限ルヘシ

八 生糸ノ束裝ハ必ラス捻リ造トスヘシ

九 括造ハ三十捻ヲ五層六列トナシ絹木綿交リノ淺黄色ノ蛇腹糸ヲ以テ三箇所ヲ結束スルヲ目的トスヘシ  
但十五括ヲ以テ一相トスヘシ

十 括造ヲナシタル生糸ハ帶紙ヲ付シ之レニ輸出向内國向ノ區別及製造人又ハ取扱人ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

十一 揚桿ハ綾取アルモノヲ用ヒ綾巾ハ二寸三分ヲ適度トス

十二 揚桿ハ六角ニシテ其周圍ハ四尺九寸五分トス

第七章 検査及証紙

第廿五條 検査ヲ分テ蠶種生糸ノ二種トス

第廿六條 春蠶製糸用種及夏秋蠶原種並ニ製糸用種ハ組合検査ノ証アルニアラサレハ賣買譲與スルヲ得ス

第廿七條 蠶種ハ種類等ヲ詳記シタル目錄ヲ作り左ノ期日迄ニ現品ト共ニ組合事務所へ差出シ検査ヲ受クルモノトス  
但一枚ノ蠶種ヲ截斷シテ販賣スルモノハ豫メ其裏面ニ截斷スヘキ區畫線ヲ付スヘシ

春蠶製糸用種

何月何日迄

夏蠶原種并ニ製糸用種

何月何日迄

秋蠶原種并ニ製糸用種

何月何日迄

第廿八條 春蠶ノ製糸用種并ニ夏秋蠶モ春蠶原種検査ト同様タルヘシ

第廿九條 微粒子病毒ノ歩合少ク又更ニ無キモノト雖モ左ノ項目ニ該當スルモノハ廢棄ス

一 膠質力寡クシテ脫離シ易キモノ

二 取扱ノ爲メ卵面變色ヲ呈シタルモノ

第三十條 前條合格ノモノハ第卅四條ニ定ムル第五號証紙ヲ蠶卵紙ニ貼用シ之レニ第一號検査ノ証印ヲ捺シ廢棄ニ屬スルモノハ第二號印ヲ捺スモノトス

第卅一條 括造ヲナシタル生糸ハ括數等ヲ記載シタル目錄ヲ作り現品ト共ニ組合事務所ニ差出シ検査ヲ受クルモノトス

第卅二條 生糸ハ捆若クハ一括中ヨリ一捻又ハ數捻ヲ抜キ取り左ノ各項ニ依リ之ヲ検査ス

一 糸質ノ善惡

二 光澤ノ佳否

三 細太不均

四 類ノ多少

五 束裝ノ適否

六 固着ノ有無

七 梓尺ノ不同

第卅三條 生糸ハ最モ優等ナルモノヲ上トシ之ニ亞クモノヲ中トシ之ニ亞クモノヲ下トシ第三十四條ニ定ムル証紙ヲ貼用シ検査印ヲ捺スモノトス  
第卅四條 検査印并ニ検査証紙卷用証紙ヲ定ムルコト左ノ如シ

二寸

第一號 長崎縣何郡市蠶糸業組合検査之証 分二寸一

一寸五分

第二號 廢棄之証 分九

徑三分五厘

第三號 檢証

第四號 廢棄 分三

淡藍色 一寸

第五號 蠶種検査之証 分八

赤色 一寸

第六號上 生糸検査之証 分八

藍色 八分方

第七號中 生糸検査之証

白色 七分方

第八號下 生糸検査之証

卷用証紙

第九號 徑四分 取扱人又ハ製造人ノ縣郡市町村 何組合員 氏 名 分三寸壹

第卅五條 検査証紙及卷用証紙ハ左ノ各項ニヨリ之レヲ貼用スルモノトス

一 蠶種検査証紙ハ其裏面ニ貼用シ検査印ヲ以テ消印スルモノトス

二 生糸検査証紙ハ検査ノ成績ニヨリ括造ノ帶紙ニ貼用シ検査印ヲ以テ消印スルモノトス

三 卷用証紙ハ括造ヲナシ得サル少量ノ生糸百匁毎ニ一枚ヲ貼用シ(百匁以下モ亦同シ)製造人又ハ取扱人ノ印ヲ以テ消印スヘシ

第卅六條 検査料トシテ種紙一枚ニ付金五錢生糸一括ニ付金三錢宛現品ト共ニ

組合事務所へ差出スモノトス  
但卷用証紙ハ組合事務所へ請求ノ節証紙料トシテ別ニ一枚ニ付七厘宛差出  
スモノトス

第卅七條 検査証紙并ニ卷用証紙ハ再貼用スルヲ得ス

第八章 買 賣

第卅八條 種蠶ヲ賣買スルトキハ左ノ各項ニ依ルモノトス

- 一 蠶種ノ取扱方ハ丁寧ヲ旨トシ病毒ニ感染セサル様注意スルモノトス
- 二 春蠶種ノ運搬ハ成ルヘク九月以後翌年二月迄ニ於テスルモノトス
- 三 繭生糸ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買スヘカラス
- 四 生糸ハ括造ヲナシ得サル小量ノ生糸ハ第三十四條卷用証紙ヲ貼用スルニ  
在ラサレハ賣買スルヲ得ス

第九章 起廢業及轉居者取扱

第卅九條 新ニ起業スルモノハ組合事務所へ申出組合員ノ証ヲ受ケ其料トシテ

五錢ヲ差出スモノトス

第四十條 組合員ニシテ廢業又ハ他ニ轉スルモノハ組合事務所ニ申出組合員ノ  
証ヲ返還スヘシ

第四十一條 起廢業及轉居者アルトキハ其都度組合員名簿ニ加除スヘシ

第十章 經 費

第四十二條 經費ハ組合員ノ負擔トス其收支ノ方法ハ毎年通常會ニ於テ議決ス  
ルモノトス

廿八年四月縣令第一五  
號ニテ圈點ノ通り更正  
アリ

第四十三條 組合事務所ニ係ル經費ハ概テ左ノ如シ

- 一 役員給料及旅費日當
  - 二 電信郵便税
  - 三 借家料及修繕費
  - 四 機械購入及修繕費
  - 五 備品費
  - 六 消耗費
  - 七 會議費
  - 八 雜費
- 第四十四條 左ノ項目ハ組合ノ收入トス

- 一 証標料
  - 二 検査料
  - 三 卷用証紙料
  - 四 違約金
- 第四十五條 組合費ノ收支豫算賦課徴收方法及決算ハ其時々之ヲ知事並ニ取締  
所ニ報告スベシ

第十一章 違約處分

第四十六條 本規約ニ違背シタルトキハ參拾錢以上五圓以下ノ範圍内ニ於テ違  
約金ヲ徴收スルモノトス

第四十七條 違約者ヲ發覺シタルトキハ組合事務所ニ於テ其事實ヲ精査シ組長

ヨリ取締所へ稟議ノ上組長ニ於テ處分スルモノトス

第四十八條 違約金ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ組合事務所へ納ムルモノトス

第四十九條 違約ニ關スル物品ハ處分濟マテハ事務所へ押へ置キ違約金還納ノ上所有主へ還付スヘシ

第五十條 規約ニ違背シタル物品預リ中ハ相當ノ保護ヲナスト雖モ抗拒スヘノラサル變災ニ依リ毀損及消失シタルトキハ本組合ハ辨償ノ責ニ任セス

第五十一條 組合役員ニシテ職務ヲ怠リ又ハ規程ニ背キ又ハ組合ノ損害ヲ金完タルモノハ組合會議ノ決議ヲ經テ取締所ノ處分ヲ請フヘシ

右規約ノ條々遵守スルノ証トシテ組合員一同記名關印スルモノナリ

●縣令第二三號 明治卅一年三月卅一日

明治三十年法律第十號蠶種検査法實施ニ關スル検査手續左ノ通相定ム

蠶種検査手續

第一條 蠶種検査所ヲ長崎(縣廳内)大村、諫早、島原ノ四ヶ所ニ置キ長崎蠶種検査所ニ於テハ蠶種検査ニ關スル一切ノ事務及諸般ノ検査ヲ行ヒ大村、諫早、島原蠶種検査所ニ於テハ原種ノ母蛾検査ノミヲ行フ

第二條 長崎蠶種検査所ハ毎年四月十五日開始シ十二月二十日閉鎖ス其他ノ蠶種検査所開閉ノ時期ハ別ニ告示ス

第三條 蠶種検査所所轄區域ヲ定ムル左ノ如シ

検査所位置	所	轄	區	域
長崎	長崎市、西彼杵郡、北松浦郡、南松浦郡、壹岐郡、上縣郡、下縣郡、一圓			
大村	東彼杵郡	一圓		
諫早	北高來郡	一圓		
島原	南高來郡	一圓		

第四條 蠶種ヲ製造セントスル者ハ第一號書式ニ據リ願出鑑札ヲ受クヘシ

第五條 蠶種製造鑑札ヲ所有スル者廢業シ又ハ他府縣へ轉住セントスルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

鑑札ヲ紛失毀損シ又ハ鑑札面記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ書換又ハ再渡ヲ願出スヘシ

第六條 蠶種製造者ハ蠶種掃立月日ヲ蠶兒一齡中ニ届出ツヘシ

第七條 蠶種検査法第五條ニ據リ検査ヲ受クヘシ蠶種製造者ハ左ノ順序ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

一 蠶種検査法施行細則第五條第一號收滿後ノ検査ニ在リテハ第二號書式ニ據リ蠶兒四齡中ニ

二 全則第五條第二號産卵後ノ検査ニ在テハ第三號書式ニ據リ産卵後一週間以内ニ

三 全同第五條第三號原種ノ製造ニ供用シタル母蛾ノ検査ニ在リテハ第四號書式ニ據リ春夏繭ハ八月三十日迄秋繭ハ十月十日迄ニ

第八條 原紙一枚ノ枚數ハ廿八蛾區トナシ各框ハ圓環ノ内徑一寸三分以上タルヘシ

第九條 蠶種手数料ハ左ノ如ク定ム

- 一 原種用種一蛾區ニ付 金壹厘
- 一 製糸用種一枚ニ付 金壹錢五厘

第十條 蠶種検査手数料ハ蠶種製造者ニ於テ島司郡市長ノ納入告知書ヲ受タルトキハ指定ノ金庫ニ納付スヘシ

第十一條 第四條第五條第七條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十二條 従前ノ規定ニ依リ蠶種製造鑑札ヲ受ケタル者ハ更ニ鑑札ヲ受クルニ及ハス

第一號書式

蠶種製造鑑札御下付願

私儀明治三十年法律第十號ヲ遵守シ蠶種製造仕度候間鑑札御下付相成度此段相願候也

年月日

郡市町村番戶

氏 名印

第貳號書式

長崎縣知事何某殿

上簇及收購受檢屆

郡市町村番戶 蠶種製造者 氏 名

春夏種蠶ノ別	名	稱	原種掃立蛾數	全掃立月日	上簇豫定月日	收購受授豫定月日
	何	何	何	自何月何日 至何月何日	何月何日	何月何日
計			何	蛾		

右 及 御 届 候 也

年月日

右 氏 名印

長崎縣知事何某殿

第三號書式

蠶種製造屆



春夏種 蚕ノ別	名稱	原種 立蠶數	繭 生 産 額		原種 製糸用種
			合 計	其 他	
何々	何々	何 蠶	何 斗	何 斗	何 斗
何々	何々	何 蠶	何 斗	何 斗	何 斗
計		何 蠶	何 斗	何 斗	何 斗
右及御届候也			右		
年 月 日			氏	名印	
長崎縣知事何某殿					
備考					
一 繭生産額ノ内合格ノ欄内ニハ種繭證明書ヲ受ケタル種繭高ヲ記入シ其 他ノ欄内ニハ種繭ニ供セル繭高ヲ記入スヘシ					
第四號書式					
原種母蠶検査請求書			郡市町村番戶		

蠶種製造者 氏 名			
春夏秋蠶ノ別	名 稱	原種枚數	全一枚蠶數
何 蠶	何 々	何 枚	何 蠶
何 蠶	何 々	何 枚	何 蠶
計		何 枚	何 蠶
右御検査相成度候也			
年 月 日			
長崎縣知事何某殿			
參照			
三十一年六月訓令七〇號(蠶種検査手数料徴收ニ關スル件)			
告示第四六號 明治卅二年三月卅一日			
蠶種ノ配付ヲ受ケントスルモノハ蠶種配付規則ヲ遵守スヘキノ處期限經過後ニ 至リ又ハ其地方廳ノ証明ヲ得シテ出願スル者又ハ飼育成蹟及其成繭ヲ送付セ ザル者アリテ取扱上不都合ナカザルノミナラズ遂ニ蠶種配付ノ精神ニ違フニ 至ルベキニ付左記各項注意方蠶業講習所ヨリ通牒アリタリ			

一 蠶種ノ配付ヲ受ケントスル者ハ請求願書ニ管轄廳(道廳府縣)ノ證明書ヲ添ヘ  
 毎年四月十五日迄ニ蠶業講習所ニ到達スル様差出スベシ  
 一 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ規則第五條ノ成績ニ其成繭ヲ添付シ翌年八月三十  
 一日迄ニ蠶業講習所ニ到達スル様差出スベシ  
 一 蠶業講習所ニ於テ現今配付スル蠶種ハ春蠶角又、青熟、小石丸ノ三種ナリ  
 一 配付請求願書ニハ必ス蠶ノ種類産卵蛾數ヲ明記スベシ

蠶種配付規則

- 第一條 本所ニ於テ製造スル蠶種ハ原種用トシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り無  
 代價ニテ配付ス  
 第二段歩以上ノ桑園ヲ所有シ毎年貳百枚以上ノ販賣用蠶種ヲ製造スル者  
 第二條 蠶種配付ヲ請求スル者ハ管轄廳ノ證明ヲ得テ四月十五日マテニ種業講  
 習所ニ出願ス可シ  
 第三條 配付スヘキ蠶種ハ請求者一名ニ付五十蛾以上五百蛾分以下トス  
 第四條 蠶種ノ配當ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ定メ十月三十日マテニ發送スベシ  
 配付ヲ受ケル能ハサル者ニハ九月三十日マテニ其旨ヲ通知スヘシ  
 第五條 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ別記書式ノ成績書ニ左ノ成繭ヲ添付シ翌年  
 八月三十一日マテニ本所ニ遞送スベシ  
 貳百蛾分未満ノ蠶種ヲ受ケタルモノハ一升以上  
 貳百蛾分以上ノ蠶種ヲ受ケタルモノハ二升以上  
 第六條 前條ノ義務ヲ履行セザル者ハ爾後三年間蠶種ノ配付ヲ受ケルヲ得ス

第七條 官立公立若シクハ公費ノ補助ヲ受ケル學校講習所傳習所及試驗場ニシ  
 テ蠶業研究ノ爲メ第二條ニ依リ出願スル時ハ第一條ノ資格ヲ有セザルモノ二十  
 五蛾分以内ノ蠶種ヲ配付ス  
 但此場合ニハ第五條第六條ヲ適用セス

農商務省蠶業講習所

配付蠶種成績表

飼育人	府	縣	國	郡	町	種	蛾	類	量	下	上	收
						種	蛾	類	量	下	上	收
飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數	飼育日數
室內最高	室內最低	室內平均	晴天	曇天	雨天	晴天	曇天	雨天	晴天	曇天	雨天	晴天
給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数	給桑回数
記	事	記	事	記	事	記	事	記	事	記	事	記

備  
○本表ハ種類毎ニ調製スヘシ  
○記事欄内ニハ蠶種ヲ受取テヨリ後ノ貯藏法及催青法ノ概略、氣候ノ  
順否、蠶兒發育ノ景況、眠起ノ齊否、病蠶ノ多寡等ヲ記スヘシ尙此欄  
内ニ盡シ得サルハ別紙ニ記載スヘシ

訓令第七〇號

明治卅一年六月十五日

對馬島廳 郡役所 市役所

本年(三月)本縣々令第廿三號蠶種検査手續ニ據リ蠶種検査手数料ヲ徴收シタル  
トキハ年度經過後三十日以内ニ左ノ雛形ニ據リ手数料徴收額ヲ當廳ニ報告スヘ  
シ

雛形明治何年度蠶種検査手数料徴收額

原種	検査請求者	受檢蠶種	検査手数料
製糸用種	人	枚	全
合計	人	枚	全

●應達第三六號

明治卅一年四月七日

内務部

明治三十年法律第十號蠶種検査法實施ニ付左記蠶種検査所規程ニ依リ施行スヘシ

蠶種検査所規程

- 第一條 蠶種検査所ニハ検査員検査助手及事務員各若干名ヲ置ク
- 第二條 検査員ハ知事ノ指揮監督ヲ受ケ擔當ノ事務ニ付其責ニ任ス
- 第三條 検査助手ハ検査員ノ指揮ヲ受ケ検査事務ニ従事ス
- 第四條 事務員ハ検査員ノ指揮ヲ受ケ文書ノ受發及雜務ニ従事ス
- 第五條 養蠶視察及巡回検査ハ左ノ順序ニ依リ執行シ雛形各號ニ依リ復命スヘシ

- 一 検査施行手續第六條蠶種掃立届ヲ受ケタルトキハ検査法第九條ニ依リ視察
- 二 全第七條第一號收繭受檢届書ヲ受ケタルトキハ検査法施行細則第五條第一號ニ依リ検査
- 三 全條第二號蠶種製造届書ヲ受ケタルハ検査法施行細則第五條第二號ニ依リ検査
- 第六條 検査法施行細則第五條第二號及第三號ノ検査成績ハ雛形第四號ニ依リ知事へ報告スルト同時ニ蠶種製造者所轄ノ島司郡市長へモ報告スヘシ

(雛形第一號)

養蠶視察復命書

春夏秋	名稱	原種掃立蠶數	生育ノ病蠶ノ有無	視察	郡市町	蠶種製造者氏名
蠶ノ別	名稱	原種掃立蠶數	生育ノ病蠶ノ有無	視察	郡市町	蠶種製造者氏名

備考 (視察上養蠶家一般ノ狀況)  
右復命仕候也

年月日

蠶種検査員氏名印

(雛形第二號) 長崎縣知事何某殿  
收購検査復命書

計	春夏秋ノ別	名稱	繭生産額		郡市町村番號	蠶種製造者氏名
			繭合格	其他計		

備考 (收購一般ノ景況)  
右復命仕候也

年月日

蠶種検査員氏名印

(雛形第三號) 長崎縣知事何某殿  
蠶種検査復命書  
製糸用種

計	春夏秋ノ別	名稱	合格枚數	不合格枚數	計	郡市町村番戶	蠶種製造者氏名

備考 (蠶種一般ノ景況)

右復命仕候也

年月日

蠶種検査員氏名印

(雛形第四號) 長崎縣知事何某殿

蠶種検査成績報告

春夏秋ノ別	名稱	原稱		製糸用種		郡市町村番戶	蠶種製造者氏名
		合格枚數	不合格枚數	合格枚數	不合格枚數		

備考

右復命仕候也

年月日

蠶種検査員氏名印

●縣令第六六號 明治廿四年十一月二日  
長崎縣知事何某殿

種牡牛取締規則左ノ通相定ム

但從來ノ種牡牛モ本則第二條ニ依リ來ル十二月廿五日限り検査願出ヘシ

種牡牛取締規則

第一條 種牡牛ハ免許鑑札ヲ受クルニ非サレハ種用ニ供スルヲ得ス

第二條 新タニ種用ニ供セントスル牡牛ハ第一號書式ニ依リ毎年十二月廿五日

マテ郡市役所ヲ經テ縣廳(上縣下縣郡ハ島廳)へ出願検査ヲ受クヘシ

但検査日及場所ハ前以テ通告スヘシ尤モ検査期限外ニ開業スルモノハ縣廳

三十一年三月縣令第二  
二號ニテ本令中馬ノ字  
削除アリ

(上縣下縣郡ハ島廳)へ牽付検査ヲ乞ヒ鑑札ヲ受クヘシ  
 第三條 前條種牡牛ハ検査ノ上合格ノモノヘハ免許鑑札ヲ下付ス  
 第四條 種牡牛ハ左ノ各項ニ適合スルモノニ限ル  
 一牛ハ滿二歳以上滿拾歳以下  
 但洋種ハ拾歳以上ニ至ルモ妨ケナシ  
 三牛ハ丈三尺五寸以上  
 五強壯ニシテ骨格善良ナルモノ  
 六遺傳病ナキモノ  
 七惡癖ナキモノ  
 第五條 交接病其他傳染性諸病又ハ遺傳病アル牝牛ニハ交尾セシムルヲ得ス  
 第六條 鑑札ヲ受ケタル種牡牛ハ毎年一回出張官ノ検査ヲ受クヘシ  
 但検査ノ期日及場所ハ前以テ通告スヘシ  
 第七條 指定ノ検査地ニ牽付ケ受驗セサルトキハ其鑑札ハ無効トシ返納セシム  
 第八條 種牡牛ハ検査済ノ者ト雖トモ管理宜シキヲ失シ又ハ疾病ニ罹リ種用ニ  
 適セサルモノト認ムルトキハ鑑札ヲ返納セシムヘシ  
 第九條 種牡ヲ賣買セシトキハ双方連署ヲ以テ第二號書式ニ依リ鑑札書換ヲ出  
 願スヘシ  
 但他管下ノモノヘ賣渡シタルトキハ第三號書式ニ依リ鑑札ヲ添ヘ其旨届ヘシ  
 第十條 第四條ノ年齢ヲ經過シ又ハ斃死等アルトキハ第四號書式ニ依リ鑑札ヲ

添へ届出ツヘシ  
 第十一條 種牡牛ノ鑑札ヲ紛失又ハ毀損シタルトキ第五號改名及轉居シタルト  
 キハ第六號書式ニ依リ更ニ鑑札ノ下付及ヒ書替ヲ願出ヘシ  
 第十二條 本則第一條第五條第九條ニ違背シタルモノハ金五拾錢以上壹圓五拾  
 錢以下ノ科料ニ處ス  
 第十三條 本則第十條第十一條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料  
 ニ處ス  
 第一號  
 種牡牛鑑札下付願  
 一牡牛 壹頭  
 種類 何々種  
 年齢 何歳  
 寸尺 何尺何寸  
 毛色 何毛  
 產地 何縣何郡何(町村)大字何々  
 右私所有ノ牡牛種畜ニ供シ度候間御検査ノ上鑑札御下附被成下度此段奉願候也  
 年 月 日  
 何郡何(町村)大字何々何番戸  
 何 某印  
 知事 宛

第二號

種牡牛鑑札書換願

何種何毛

壹頭

右買(譲與)候ニ付鑑札御書換被成下度即チ糞キニ御下附ノ鑑札相添へ此段奉願候也

年月日

何郡何(町村)大字何々何番戸

買受人 何

某印

何郡何(町村)大字何々何番戸

賣渡人 何

某印

知事宛

第三號

種牡牛賣却届

何種何毛

壹頭

右何縣何縣何郡何(町村)何某(賣却候ニ付鑑札相添へ此段御届仕候也

年月日

何郡何(町村)大字何々何番戸

何

某印

知事宛

第四號

種牡牛廢止(斃死)届

何種何毛

壹頭

右私所有ノ處(種牡牛)取締規則適齡ヲ經過(何年何月何日何病ニ罹リ斃死)(何々ニテ種蓄ニ堪ヘス)候ニ付鑑札相添へ此段御届仕候也

年月日

何郡何(町村)大字何々何番戸

何

某印

知事宛

第五號

種牡牛鑑札再渡願

何種何毛

壹枚

右御下附相成候處(何年何月何日何所ニ於テ紛失)何々ニ付毀損仕候間鑑札更ニ御下附被下度此段奉願候也

年月日

何郡何(町村)大字何々番戸

何

某印

知事宛

第六號

種牡牛鑑札書換願

何種何毛

一牡牛鑑札

壹枚

私義今般左ノ通(改正)(轉居)候ニ付鑑札御書換被下度糺キニ御下附ノ鑑札相添  
〜此段奉願候也

年月日

轉居何郡何(町村)大字何々何番戸

何某事、何 某印

知事宛

●縣令第一四號

明治卅一年一月廿八日

明治二十三年(三月)長崎縣令第二十二號牛馬籍規則左之通改正ス

牛馬籍取締規則

第一條 牛馬ノ買賣交換讓與又ハ寄托ヲ爲シタル者ハ當事者双方ヨリ左ノ事項  
ヲ記載シ十日以内ニ所轄警察官署若クハ巡查派出所又ハ巡查駐在所へ届出ツ  
ヘシ

一種類 (外國、雜種、內國種)

一產地

一毛色

一牝牡

一年齡

一特徴

一飼養場所

一飼養ノ目的(農業、蕃殖用、力用、乳用、乘用等)

一當事者双方ノ氏名住所

第二條 牛馬分婉シタルトキハ其仔馬仔牛ノ種類毛色牝牡分婉ノ年月日種牛馬  
ノ血統ヲ記載シ第一條ノ手續ニ依リ分婉後一ヶ月以内ニ届出ツヘシ

第三條 牛馬斃死シタルトキハ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添テ第一條ノ手續ニ  
依リ剥皮又ハ埋却以前ニ届出ツヘシ

但別ニ指定スル町村ニ限リ當分戸長町村長ノ證明書ヲ以テ獸醫ノ診斷書又  
ハ檢案書ニ代ユルコトヲ得

第四條 本則第一條乃至第三條及第六條ニ違背シタルモノハ五錢以上壹圓九拾  
五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第五條 本則ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第六條 從來牛馬ヲ所有スル者又ハ其管理者ハ本則第一條ノ手續ニ依リ本則施  
行期日迄ニ届出ツヘシ

參照

三十一年一月告示一八號(牛馬籍取締規則第三條ニヨリ町村ヲ指定ス)空

月訓令七號(牛馬籍取締規則取扱心得)全八月訓令八三號(全上心得ニ關スル件)

●縣令第二二號

明治卅一年三月三十日

種牡馬検査手續左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但明治二十四年十一月縣令第六十六號種牡牛馬取締規則中馬ノ字ヲ删除ス

第一條 牡馬ヲ種用ニ供セントスル者ハ第一號書式ニ依リ毎年十一月三十日迄

ニ知事ニ願出検査ヲ受クヘシ

第二條 種牡馬検査場位置區域及検査日割ハ其都度告示スベシ

第三條 検査合格シタル牡馬ハ前蹄ニ徑五分ノ烙印(檢)ヲ爲シ其所有者ニ証明

書ヲ下付スヘシ

第四條 証明書ヲ下付シタル種牡馬ハ毎年一回検査委員ノ検査ヲ受クベシ

第五條 種牡馬ヲ賣却シ又ハ種用ニ供スルコトヲ廢止シタルトキ若クハ種牡馬

斃死シタルトキハ該所有者ハ十日以内ニ証明書ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ

第六條 種牡馬ハ左ノ各項ニ該當スルモノニ限ル

一 年齡滿四歲以上

二 体尺四尺五寸以上

但上縣郡下縣郡登岐郡南松浦郡北松浦郡ノ内宇久島ハ体尺四尺以上

三 強壯ニシテ骨格及性質善良ナルモノ

四 惡癖又ハ遺傳病ナキモノ

第七條 種牡馬ハ傳染病若クハ遺傳病アル牝馬又ハ三才以下ノ牝馬ニ準尼セシ

三十一年十二月縣令第七一號ヲ以テ三條本文ノ改正アリ

ムルコトヲ得ス

第八條 種牡馬検査法施行細則第九條ノ帳簿ハ第二號書式ニ依ルヘシ

第九條 第五條第七條ニ違背シタル者ハ壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十條 本規則施行以前ニ於テ下付シタル種牡馬鑑札ハ本年十二月三十一日迄

其効力ヲ有ス

第一號書式

種牡馬検査願

一 種類 内外國種雜種

一 產地 何府縣郡市町村又ハ牧場名

一 年齡 何歲

一 体尺 何尺寸

一 毛色 何毛(特徴アルモノハ之ヲ記ス)

右種馬ニ供シ度候間御検査奉願候也

何郡市町村番戶族籍職業

年 月 日

所有者 何

某印

知 事 宛

第二號書式

種 牡 馬 第 號

所有者

氏

名



牛馬種類	生地	年齢	毛色	体尺	特徴	種付年月日	郡市町村名	所有者氏名
------	----	----	----	----	----	-------	-------	-------

備考

種牡馬一頭毎ニ別帳ト爲スヘシ

●告示第一八號 明治卅一年一月廿八日

三十一年十一月告示第一八號ヲ以テ西彼杵郡内四ヶ村削除アリ本文ノ通り

本年一月本縣令第十四號牛馬籍取締規則第三條但書ニ依リ町村ヲ指定スルコト左ノ如シ

西彼杵郡ノ内

高島村 伊王島村 松島村 多以良村 七釜村 龜岳村

大串村 瀬川村 面高村 黒瀬村 崎戸村 江島村

平島村

北松浦郡 各町村

南松浦郡 各村

壹岐郡 各村

上縣郡 各村

下縣郡 各町村

●訓令第一一七號

明治廿三年九月三日

島司郡市長宛

明治二十三年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第拾二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ノ下附ヲ出願スル者アルキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

右訓令ス

蹄鐵工假免許手續

第一條 假蹄鐵工ヲ置クハ蹄鐵工之シキ地ニ限ル

第二條 蹄鐵工之シキ地ニ於テ蹄鐵工假免狀ノ下附ヲ出願スル者アルキハ左記ノ書式ニ據リ履歷書ヲ添差出サシムヘシ

第三條 蹄鐵工假免許願ニハ左ノ事項取調書ヲ添詳細ニ具狀スヘシ

一 區域廣袤、地勢及馬匹頭數

書式 (用紙美濃紙正副貳通)

蹄鐵工假開業免狀下付願

住所 (寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏名

年月日

右氏 名印

村長氏 名印

年月日

農商務大臣宛

●達甲第一六五號

明治廿三年九月廿四日

島廳 郡役所 戶長役所 町村役場

明治二十三年八月法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ニ據リ獸醫假開業免狀ノ下付ヲ出願スルモノアルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フベシ

第一條 獸醫假免狀ノ下付ヲ出願スルモノアルトキハ戶長町村長ハ別紙書式ノ願書ニ履歷書ヲ添差出サシムベシ

第二條 獸醫假免許願書ニハ島司郡長ハ左ノ事項取調書ヲ添へ假免許獸醫ヲ置クノ必要ヲ詳細ニ知事へ具申スヘシ

一 營業區域ノ廣袤及地勢ノ險夷

一 區域内牛馬ノ頭數

一 營業年限

第三條 獸醫假免許區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スルモノアルトキハ島司郡長ハ其旨直ニ當廳へ報告スベシ書式

獸醫假免狀下付願

住所 (寄留ナレバ本籍ヲ併記スベシ)

族籍氏名

私義何郡何町村ニ於テ獸醫假開業仕度候間假免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

右氏 名印

農商務大臣宛

明治廿五年一月廿二日

訓令第一二號

島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

明治廿三年(三月)本縣令第二十二號牛馬籍規則第八條牛馬頭數種類及ヒ用途表ハ牛馬ヲ區別製表セシムルノ趣旨ニ候處牛馬ヲ混同記入スル向モ有之調査上不合ニ付爾後ハ牛馬ヲ各別表ニ調製差出スベシ

●内訓第四號 明治廿六年二月廿四日 島司郡長宛

牛馬籍簿調製ノ義ハ明治廿三年本縣令第二十二號ヲ以テ相達候通第二條ニ於テ町村ノ適宜ニ任セタル義ニ候處町村ニ於テハ其調製區々ニ涉リ候ノミナラス其記載事項不完全ヲ免カレサルモノ往々有之既ニ過般本官巡回ノ際ニモ注意ヲ與ヘタル次第ニ有之抑モ右籍簿整備ノ要ハ牛馬種ノ改良蕃殖上ノ必要ハ勿論他ハ兵事上ニ於テモ最モ必要ノ事項ニ有之就テハ可成各町村一定ノ様式ニ據ラシメ度別紙様式相示候條町村巡回ノ序又ハ町村長來集ノ節右ノ趣旨篤ト說示シ漸次改良ノ途ニ就キ候様取計ハルヘシ

長		縣		郡		村		番		戶	
種		類		用		途		主		持	
牛	種	產	地	病	名	斃	死	賣	由	買	事
年	毛	分	色	日	挽	日	挽	日	挽	日	挽

牛				馬			
種	産	毛	年	種	産	毛	年
類	地	色	分	類	地	色	分
			月				月
			日				日
			宛				宛
用	病	斃	事	用	病	斃	事
途	名	死	賣	途	名	死	賣
			由				由
			買				買

●訓令三第二八二號 明治廿八年三月廿七日 島司 郡長

本縣ハ畜牛ニ富ミ農家ノ數耕地ニ比スレハ其多キヲ殆ント全國ノ主位ヲ占メ從テ毎年他ニ輸出スル頭數モ亦僅少ナラス故ニ畜牛ノ改良蕃殖ニ注意ヲ可加ノ言ヲ俟タル義ニ有之而シテ其改良ノ方法ハ種々可有之ト雖先第一種牛ノ撰定ヲ主要トスルヲ以テ既ニ去ル廿四年縣令第六十六號種牡牛馬檢査規則ヲ發布セシ次第ニシテ是レ全ク蕃殖上種ノ濫用妄使ヲ防制スルノ目的ニ出ツ然ルニ縣内

牛ノ蕃殖スル地方ニ於テハ牝牡ヲ同牧セシムルモノ多キヲ以テ放牧ノ際或ハ未熟ノ犢牛ノ爲メ若クハ不良骨格ノモノ等自由交尾ノ爲メ妊娠スルニ至リ改良ヲ妨クルコト尠シトセス依テ之ヲ防カントスルニハ其方法ノ最上ナルモノハ種用ニ供セサル牝牛ハ總テ單丸割去法ヲ施スニアリ蓋シ牝犢ヲ去勢スレハ只ニ蕃殖上改良ニ利益アルノミナラス早熟肥腹ノ性ヲ促シ肉質ノ柔軟美味トナルコト殆ント牝牛ニ劣ラス而シテ其價格ハ普通ノ牝牛肉ヨリ大凡二三割以上ノ高價トナリ兼テ亦牛ノ稟性ヲ變セシメ溫和順良トナルコト牝牛ノ如クナルモ力量ノ點ニ於テハ敢テ去勢セサルモノニ異ラス且ツ使役ニ便ニシテ牝牛ト同牧シ得ルノ益アルモノニ有之泰西ニ於テハ夙ニ之ヲ行ヒ種中ノ外ハ一切牝犢ヲ去勢スルノ良慣習アリ本縣下某所ニ於テモ亦往時ヨリ此慣習ナキニアラサルモ可成各地ニ普及セシメ度其筋ニ於テモ特ニ獎勵セラレ候義ニ付右ノ旨趣飼牛者ニ勸誘スヘシ

右訓令ス

●訓令第七號 明治卅一年十一月八日 警察署 察分署

本年一月本縣令第十四號牛馬籍取締規則取扱心得左ノ通定ム

牛馬籍取締規則取扱心得

第一條 警察署又ハ警察分署ハ左記第一號式ニ依リ牛馬籍簿ヲ調製シ規則第一條及第二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ登錄スヘシ

第二條 獸疫豫防法第四條ニ依リ撲殺シタルトキ及規則第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ病名及撲殺又ハ斃死ノ事實及其年月日ヲ記入朱線ヲ施スヘシ食用ノ爲メ屠殺ノ牛馬ニシテ臺帳登錄ノモノハ前項ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

三十一年十二月訓令一〇號ヲ以テ第六條追加本文ノ通

第三條 規則第二條ノ届出ヲ受ケタルトキ其牽行先他署所轄内ニ係ルモノハ關係警察署又ハ警察分署ヘ直ニ通報スヘシ

第四條 規則第三條ノ届出中其死因ニ疑アリテ更ニ獸醫ノ檢診ヲ必要ト認メタルトキハ相當ノ獸醫ヲシテ檢診セシムヘシ

第五條 巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ於テ前數條ノ届出ヲ受ケタルトキハ一應調査ノ上直ニ所屬署ヘ送付スヘシ

第六條 警察署又ハ警察分署ハ左記第二號式ニ依リ十二月末日現在ヲ調査シ翌年一月二十日限リ當廳ヘ差出スヘシ

第一號樣式 (本表ハ牛馬各別ニ製ス)

(用紙美濃)

牛		馬	
種	用途	種	用途
計	農	計	農
內國種	力	內國種	力
外國種	用	外國種	用
雜種	蕃殖用	雜種	蕃殖用
計	乳	計	乳
	用		用
	計		計

何郡市何町村何番戶  
(所有主又ハ管理人) 何 某

年 月 日 種 類 產地 牝 牡 年 月 日 分娩 毛色 特徵 用途 飼養 場 所 年 月 日 撲殺 死 異動 年 月 日 並ニ其事由

第二號樣式

(用紙美濃)

明治何年十二月末日現在

何警察署又ハ何分署

牛		馬	
種	用途	種	用途
計	農	計	農
內國種	力	內國種	力
外國種	用	外國種	用
雜種	蕃殖用	雜種	蕃殖用
計	乳	計	乳
	用		用
	計		計

參照

三十一年八月訓令八三號(牛馬檢診料ノ件)

●縣令第一九號 明治廿九年五月廿七日 郡市(上下縣郡ヲ除ク)  
害虫驅除豫防法第二條ニ依リ害虫ノ種類及驅除豫防方法ニ關スル規則左之通相  
定ム

害虫驅除豫防規則

第一條 此規則ニ於テ害虫ト稱スルハ左ノ虫類ヲ云フ

螟虫 方言ホガレ、ナカゴサシ、ヨムシ

浮塵子 方言コスカムシ、サネモリムシ、ホシムシ、ヤケムシ

椿象 主ナル被害農作物稻

苞虫 主ナル被害農作物稻、粟

夜盜虫 方言ハマキムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

金龜子 主ナル被害農作物蕎麥、粟、豌豆、蔬菜類

浮塵子 方言カネフウブウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

夜盜虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ

徵收スヘシ

螟虫

一 螟蛾發生ノ時期ニ於テ燈ヲ以テ之ヲ誘殺スヘシ

二 螟蛾及仔虫ヲ捕殺シ且ツ産卵ヲ採棄スヘシ

三 被害稻株ヲ掘採シ之ヲ燒棄シ又ハ稻株ヲ截斷シ被害葉ハ燒棄スヘシ

浮塵子

一 田ニ水ヲ湛ヘ油類ヲ注キ該虫ヲ掃ヒ落シテ驅除スヘシ

二 暗夜被害地ノ所々ニ焚火ヲナスカ又ハ燈火誘殺法ヲ行フヘシ

三 水田ノ既ニ涸レタル場合ニ發生シ適當ノ驅除法ヲ行ヒ難キトキハ稻株ヲ成ルヘク燒棄シ他田ニ蔓延スルヲ豫防スヘシ

椿象

一 田畑ヲ視察シ之ヲ捕殺スヘシ

二 該虫發生セシ近傍ノ落葉等ハ冬期中ニ掻キ集メ成虫ト共ニ燒棄シ又ハ岩石ノ下ニ潜伏セルモノハ捕殺スヘシ

苞虫

一 害虫發生スルトキハ之ヲ捕殺スヘシ

二 該虫ノ成虫(蝶)ヲ捕殺スヘシ

夜盜虫

一 該虫發生スレハ其仔虫、蛹、蛾、及卵ハ成ルヘク急速ニ捕殺若クハ採集燒棄スヘシ

二他ニ蔓延ノ恐レアルトキハ便宜溝ヲ穿テ更ニ溝底ニ陷穿ヲ作リ其被害ヲ豫防スヘシ

金龜子

一成虫及仔虫共ニ之ヲ捕殺スヘシ

第三條 害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ市町村長ハ速ニ之ヲ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條 害虫一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ市町村長ハ直ニ關係市町村長ニ通報シ全日時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第五條 害虫驅除ノ爲メ夫役ノ賦課ヲ要スルトキハ市町村長ハ害虫驅除豫防法第五條ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スヘシ

第六條 本則第一條以外ノ害虫若クハ虫類以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ市町村長ハ便宜驅除豫防ヲ施シ左ノ事項ヲ具シ速ニ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

一名稱方言

二被害農作物ノ種類

三被害ノ狀況

第七條 市町村費ヲ以テ害虫驅除豫防ヲ行フトキハ市町村長ハ直ニ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

一害虫ノ種類

二被害郡市町村字名

三被害農作物ノ種類及被害見積反別并其價格  
四被害ノ狀況

第八條 害虫發生シタルトキハ市町村長ハ其發生ノケ所其他詳細ノ狀況ヲ知事ニ急報スヘシ

第九條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ據リ翌年四月五日限り(市長ハ知事町村長ハ郡長ニ)報告スヘシ  
害虫驅除豫防報告様式 (各害虫ニ付區分スヘシ)

計	害虫名		明治何年度	何郡(市)町村名	
	被害農作物ノ種類	全上見積反別此平年收穫高ハ驅除ノ積減收高	被害ニ付見積減收高	驅除豫防ニ係全上夫役ノ市町村費數	全上夫役數

備考 害虫發生ノケ所發生撲滅ノ月日蔓延ノ狀況等詳記スヘシ

第十條 郡長ハ毎年四月十日限り前表式ニ準シ全郡ヲ統計シ町村別表ヲ附シ知事ニ報告スヘシ

參照  
二十九年三月法律一七號(害虫驅除豫防法ノ件)  
●縣令第二〇號 明治廿九年五月廿七日 上縣郡 下縣郡  
上縣郡下縣郡害虫驅除豫防規則左ノ通相定ム

害虫驅除豫防規則

第一條 此規則ニ於テ害虫ト稱スルハ左ノ虫類ヲ云フ

螟虫 方言ホガレ、ナガゴザシ、ヨムシ

浮塵子 方言コヌカムシ、サネモリムシ、ホシムシ、ヤケムシ

椿象 方言フウ

苞虫 主ナル被害農作物 稻、粟

夜盗虫 方言コウジムシ、コウジヨムシ、ホウジヨウムシ、ホウジムシ、

金龜子 方言カネフウ、フウムシ、ツウムシ、フタムシ、サンシヨムシ

第二條 害虫田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ戸長ハ豫メ時日ヲ

期シ其作人ヲシテ他ノ方法ニ依リ直ニ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

螟虫 一螟蛾發生ノ時期ニ於テ燈火ヲ以テ之ヲ誘殺スヘシ

二螟蛾及仔虫ヲ捕殺シ且ツ産卵ヲ採棄スヘシ

三被害稻株ヲ掘採シ之ヲ燒棄シ又ハ稻株ヲ截斷シ被害藪ハ燒棄スヘシ

浮塵子 一田ニ水ヲ湛ヘ油類ヲ注キ該虫ヲ掃ヒ落シテ驅除スヘシ

二暗夜被害地ノ所々ニ焚火ヲナスカ又ハ燈火誘殺法ヲ行フヘシ

三田水ノ既ニ涸レタル場合ニ發生シ適當ノ驅除法ヲ行ヒ難キトキハ稻株ヲ成

ルヘク燒棄シ他田ニ蔓延スルヲ豫防スヘシ

椿象

一田畑ヲ視察シ之ヲ捕殺スヘシ

二該虫發生セシ近傍ノ落葉等ハ冬期中ニ掻キ集メ成虫ト共ニ燒棄シ又ハ岩下

ノ下ニ潜伏セルモノハ捕殺スヘシ

苞虫

一該虫發生スルトキハ之ヲ捕殺スヘシ

二該虫ノ成虫(蝶)ヲ捕殺スヘシ

夜盗虫

一該虫發生スレハ其仔虫、蛹、蛾、及卵ハ成ルヘク急速ニ捕殺若クハ採集燒棄

スヘシ

二他ニ蔓延ノ恐レアルトキハ便宜溝ヲ穿テ更ニ溝底ニ陥穽ヲ造リ之ヲ豫防ス

金龜子

一成虫及仔虫共ニ之ヲ捕殺スヘシ

第三條 害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ田畑以外ノ地ニ發生

シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ戸長ハ速カニ之ヲ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條 本則第一條以外ノ害虫若クハ虫類以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ恐アルトキハ戸長ハ便宜驅除豫防ヲ施シ左ノ事項ヲ具シ島司ノ指揮ヲ請フヘシ

一名稱方言

二被害農作物ノ種類

三被害ノ狀況

第五條 害虫驅除豫防ニ係ル費用ハ町村費ヲ以テ支辨スヘシ

但本則第二條ノ場合ハ此限ニアラス

第六條 町村費ヲ以テ害虫驅除豫防ヲ行フトキハ戸長ハ直ニ左ノ事項ヲ島司ニ報告スヘシ

一害虫ノ種類

二被害町村字名

三被害農作物ノ種類及被害見積反別並其價格

四被害ノ狀況

第七條 害虫發生シタルトキハ戸長ハ其發生ノケ所其他詳細ノ狀況ヲ島司ニ急報スヘシ

第八條 島司ハ本則第六條乃至第七條ノ場合ニ於テハ全條ノ事項ヲ詳記シ知事ニ急報スヘシ

第九條 戸長ハ毎年度ニ於テ町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事

項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月五日限リ島司ニ報告スヘシ

害虫驅除豫防報告様式 (各害虫ニ付區分スヘシ)

害虫名	明治何年度	郡町村名	被害農作物種類		計
			全上見積反別	此平年收穫高	
			被害ニ付見積減	驅除豫防ニ係	
			收高	町村費	

備考 害虫發生ノケ所並發生撲滅ノ月日蔓延ノ狀況等詳記スヘシ

第十條 島司ハ毎年四月十日限リ前表ニ準シ各郡ヲ統計シ町村別表ヲ付シ知事ニ報告スヘシ

附 則

第十一條 本則第二條ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

●訓令第一〇〇號 明治卅一年十一月十一日

郡役所 市役所 警察署 町村役場 警察分署

浮塵子並蟻蟲驅除心得及害虫驅除豫防準備、視察、監督事項左ノ通相定候條作人ヲシテ該心得ヲ遵守實行セシメ且準備、視察及監督ヲ怠ラス充分驅除豫防ノ實效ヲ奏スル様注意スヘシ

浮塵子及蟻蟲驅除心得



苗代ノ部

一市町村内各部落便宜ノ土地ヲ撰ヒ共同苗代ヲ設置シ又ハ共同苗代ヲ設置スルコトヲ得ナル事情アル部落ニ於テ一己人ノ苗代ヲ設置スル場合ニ於テモ可成數人申合便宜一箇所ニ之ヲ設ケ其ノ苗代ハ共同ト一己人ノ設置ニ係ルトア同ハニ總ヘテ幅四五尺毎ニ一尺ノ通路トナルヘキ淺溝ヲ作り採蟲及灌水ノ便利ヲ圖ルヘシ

一苗代地拵ニ際シテハ該地ハ勿論附近畦畔ノ雜草ハ燃料ヲ加ヘ燒棄スヘシ  
一苗代ノ周圍ハ豫メ高ク畦畔ヲ作り置キ播種後凡二十五日頃ニ至ラキ害蟲ノ有無ニ關セス必ス一回爾後七日乃至十日毎ニ壹反歩五合乃至八合ノ割合ヲ以テ水面ニ石油若クハ菜種油魚油等ヲ滴下スヘシ其法ハ初メ灌溉水ノ深サヲ二寸内外トナシ播種セサル淺溝ニ右ノ數量ヲ滴下シタル後漸々灌水ノ量ヲ増シ遂ニ苗葉ヲ沒セシムルトキハ浮塵子ノ幼蟲成蟲及螟蛾ノ如キハ悉ク水面ニ漂ヒ油分ニ遇ヘハ斃死ス此際間ニハ畦畔ニ攀チ登ルモノアルカ故ニ割竹ノ上部ヲ藁ニテ蠅打形ニ編ミタル器ヲ以テ打殺シ其盡ヤタルヲ待チ排水スヘシ  
但播種後二十五日以前ト雖トモ害蟲發生ノ兆アルトキハ本法ニ依リ速ニ驅除スヘシ

一四五日毎ニ苗代ヲ巡視シ螟蟲ノ卵塊ヲ採取燒棄スヘシ其法ハ長サ三四尺ノ丸竹ヲ以テ靜ニ葉端ヲ拂ヒ發見シタル卵塊ヲ摘ミ取り決シテ放棄スヘカラス  
一五月中旬ヨリ六月中旬マテ苗代ノ畦畔ヲ距ル二三間ノ所ニ於テ苗ノ葉先ヨリ一尺内外ノ高サニ誘蛾燈ヲ點シ螟蛾ヲ誘殺スヘシ但誘蛾燈ハ少クモ壹反歩ニ

貳個ノ割合ヲ以テ點火スルヲ要ス

一苗代ニ螟蛾及浮塵子成蟲(羽蟲)ノ飛翔スルヲ認ムルニ至ラハ大ナル針金ヲ環狀トシ麻布ヲ以テ經一尺長サ二尺ノ圓錐形掬ヒ袋ヲ製シ急劇ニ螟蛾及浮塵子ノ成蟲ヲ掬ヒ取り油ヲ十分加ヘタル水中ニ入ルカ又ハ揉ミ殺スヘシ

一採苗ニ際シテハ務メテ苗代畦畔外周圍ニ水ヲ湛ヘテ油類ヲ壹反歩貳升乃至三升ノ割合ヲ以テ滴下シ以テ苗代内成蟲ノ他田ニ移轉スルヲ防クヘシ

一害蟲發生ノ有無ニ拘ラス採苗前必ス灌水注油驅除ヲ行フヘシ

一採苗ノ際ニハ先ツ綠苗ヲ拔キ取り一所ニ集メ置キ周圍ヨリ採取シ殘苗ハ中央ニ存スヘシ

一採苗終レハ直ニ壹反歩貳升ノ割合ヲ以テ油類ヲ滴下シ同時中央ノ殘苗ニ綠苗ヲ加ヘ畦畔ノ雜草ト共ニ燃料ヲ加ヘテ燒却スヘシ

但旱害其他不時ノ災害ニ備ヘン爲メ殘苗ヲ保存セントスルトキハ先ツ其保存スヘキ苗ヲ他ノ田面ニ密ニ假植シタル後本法ヲ行フモノトス

一前項燒却後ハ注油シタル灌水ヲ以テ燒跡ニ懸ロニ洗滌排水スヘシ

本田ノ部

一移植後心枯レヲナシタルモノハ除草毎ニ又出穂時枯穂トナリタルモノハ直ニ根元ヨリ切り取り燒棄スヘシ

一螟蟲ノ卵塊ハ苗代ニ於ケル方法ヲ用ヒ務メテ採取燒棄スヘシ

一浮塵子發生シ若クハ發生ノ虞アルトキハ出穂前ハ壹反歩油類五六合乃至壹升五合出穂後ハ壹升五合乃至三升ノ割合ヲ以テ滴下シ其油水ヲ以テ稻株ヲ洗ヒ

該蟲ヲ水面ニ落シテ斃死セシムヘシ浮塵子ノ卵塊ハ油分ニ遇ヒ大ニ其孵化力ヲ減殺スルモノナレハ從來ノ如ク單ニ葉端ヲ拂フノミニ止メ十分株ノ内ニ油水ヲ注キ掛クルヲ要ス

一 用水缺乏シテ前項ノ驅除ヲ行フコト能ハサル場合ニハ桶類ニ油水(清水ニ油類ヲ混シタルモノ)ヲ滿タシポンプ若クハ柄杓ノ如キ便宜ノモノニテ稻株ニ注クガ又ハ長方形ノ淺キ箱ヲ作り箱内ニハ多量ニ油類ヲ加ヘタル水ヲ滿タシ株間ニ置キ兩側ノ稻株ヲ振盪シテ害蟲ヲ油水中ニ落死セシメ漸次他株ニ及ホスヘシ本法ヲ行フニ便ナラシムル爲メ挿秧ハ必ス整然ヲラシムルヲ要ス

一 浮塵子成蟲トナリ油殺驅除ヲ行フモ飛翔活潑ニシテ斃死シ難キモノハ油殺驅除ヲ行フ外更ニ掬ヒ袋ヲ以テ掬ヒ取り殺滅スヘシ

一 出穂後落水ニ際シテハ害蟲發生ノ有無ニ拘ラス必ス一回以上油殺驅除ヲ行フヲ要ス

一 用水池ハ十月十日(秋ノ彼岸入ヨリ凡二十日後)ニ至ルマテハ必ス貯水シ何時害蟲ノ發生ヲ見ルモ灌水シ得ル様準備シ置クヘシ

但井堰掛リノ場所ニアリテハ本文ノ期日マテハ必ス各井堰ヲ取去ルコトナク完全ニ保存スヘシ

一 例年多少螟蟲ノ被害アル田面ニ在リテハ特ニ縣令ヲ以テ其驅除豫防ノ方法ヲ命令セサル場合ニ於テハ毎年其田面ノ稻株ヲ悉皆採取燒棄スルカ若クハ株切器械ヲ以テ丁寧ニ根際ヨリ切斷スヘシ但燒却シ難キモノハ之ヲ蒐集シ堆肥ノ方法ニ依リ各層ニ石灰ヲ撒布シ積立テ十分腐敗セシムヘシ

一 螟蟲ノ驅除ハ點火誘殺法其效最モ多キモノナレハ務メテ本法ヲ行フヲ要ス

雜草燒棄

一 冬期ヨリ翌春三月マテノ間ニ於テ期日ヲ定メ畦畔堤塘其他雜草ノ叢生地ハ一齊ニ燒棄スヘシ

害蟲驅除豫防準備、視察、監督事項

市町村長ノ任スヘキ事項

一 何時害蟲驅除豫防ノ命令アルモ差支ナキ様諸事豫メ準備シ置ク事

二 各市町村ニ於テ豫メ害蟲驅除豫防區域ヲ定メ害蟲視察、報告、驅除豫防ノ指揮等ニ從事セシムル爲メ一部落一名以上ノ委員ヲ設ケ其人名ヲ市長ハ知事ニ町村長ハ部長ニ届出ツル事

但驅除豫防委員ハ一週間毎ニ部内ヲ巡視シ害蟲發生ノ模様ヲ市町村長ニ報告スヘキ事

三 驅除豫防委員ノ勤惰功程ヲ查按シ功勞著シキ者ニ特ニ賞與ノ方法ヲ設ケル事

四 適宜ノ場所ニ於テ常ニ誘蛾燈ヲ點シ集蟲ノ模様ヲ調査シ點火時期ヲ誤ラシメサル様注意スル事

五 驅除豫防ニ必要ナル器具器械及驅除劑(油類)ヲ準備シ置ク事

六 害蟲發生シタル市町村ハ害蟲驅除豫防法第三條ニ依レル命令ヲ俟タスシテ共同驅除ヲ行フ様注意スル事

郡長ノ任スヘキ事項

一 郡役所ニ驅除豫防委員ヲ置キ其人名ヲ縣廳ニ届出ツル事

二 害蟲ノ驅除ハ其發生ノ初期ニ於テ之ヲ行フコト最モ效アルモノトス故ニ荷クモ農作物ヲ害スル蟲類ノ發生シタル場合ニ於テハ其機ヲ失フコトナク之レカ驅除ニ從事セシムル事

三 町村長ノ任スヘキ各事項ヲ無洩實行セシムル事

警察官ノ心得ヘキ事項

一 知事郡市長カ命令シ獎勵準備セシムル事項ヲ果シテ遵奉セシヤ否ヲ查察シ時々之ヲ知事ニ申報郡市長ニ通報スル事

二 害虫發生若クハ發生ノ兆アリト認知若クハ聞知シタルトキハ直ニ其狀況ヲ知事ニ申報シ尙郡ハ郡長ニ通報スル事

郡市長並警察官ノ心得ヘキ事項

一 驅除豫防上ニ關シ郡市長ヨリ町村若クハ作人ニ命令ヲ發シタルトキハ特ニ之レカ執行ノ狀況ヲ知事ニ申報スル事

二 害虫驅除豫防上ニ付テハ郡市長警察官相互ニ協議ノ上駁速完全ニ之ヲ執行セシメ之レカ實效ヲ奏スヘキ事

● 縣令第三六號 明治廿八年九月四日

民有山林取締規則左ノ通り相定ム

民有山林取締規則

第一條 山林ヲ所有スルモノ總テ此規則ヲ遵守スヘシ

第二條 此規則ニ於テ山林ト稱スルモノハ左ノ二種トス

一 私有山林

二 町村有山林

第三條 私有山林ハ其所有者ニ於テ組合ヲ設ケ組合會ノ議決ヲ以テ規約ヲ定ムベシ

第四條 前條ノ規約ヲ知事(對馬ハ島司)ノ認可ヲ得テ施行スヘシ其改正變更ヲ爲ス場合ニ於テモ亦全シ

第五條 組合ハ每町村ヲ以テ一區域トス(對馬ハ戶長所轄區域ヲ以テ一區域トス)

但町村(對馬ハ戶長所轄區域)ヲ分画シ又ハ他ノ町村(對馬ハ戶長所轄區域)若クハ其若干部分ト聯合ヲ要スルトキハ知事(對馬ハ島司)ノ認可ヲ受クヘシ第六條 組合規約ハ山林ノ栽培ヲ圖リ濫伐ノ弊ヲ矯ムルヲ以テ目的トス其要旨概テ左ノ如シ

一 山林栽培保護伐採方法

二 國土保安林栽培保護方法

三 虫害火災豫防方法

四 組合會ノ組織權限

五 役員任期并ニ選舉規程

六 役員職務權限

七 違約者處分方法

八 組合入退ニ關スル規程

九 經費收支方法

十 右ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第七條 町村有山林ハ町村會又ハ聯合町村會ノ議決ヲ以テ前條第一第二第三及  
 ヒ其他必要ト認ムル方法ヲ設クベシ

第八條 山林ニ於テ火入ヲ爲スヲ禁ス  
 但上縣下縣郡ニ於テ火入ノ慣行アル山林ハ山頂ヨリ下方十分ノ二崖岸ノ山  
 林ハ上方十分ノ二除キ當分本條ニ據ラサルコトヲ得

第九條 組合ハ組長一名取締人若干名ヲ置クヘシ

第十條 組合ノ經費ハ組合人ニ於テ負擔スヘシ

第十一條 組合ノ經費豫算ハ組合會ノ議決ヲ經テ知事(對島ハ島司)ニ申報スヘ  
 シ

第十二條 組長ハ年度内ノ經費精算書ヲ作り翌年度ニ於テ組合會及ヒ知事(對  
 島ハ島司)ニ申報スヘシ

第十三條 組長ハ組合員ノ名簿及ヒ山林臺帳其他組合ニ關スル帳簿ヲ保管スヘ  
 シ

第十四條 前年中林業施行ノ實況私有山林ハ組長村有山林ハ戶長町村長ヨリ翌  
 年三月限リ知事(對島ハ島司)ニ申報スヘシ  
 但特別ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第十五條 組長及取締人ノ姓名住所ハ郡長(對島ハ島司)ニ申報スベシ

第十六條 本則第三條ノ組合ニ加盟セザル者第八條ニ違背シタル者及ヒ第十條  
 ノ負擔ニ應ゼザルモノハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十七條 本則ハ明治二十九年一月ヨリ施行ス

參照

二十八年九月訓令五〇號(民有山林取締規則取扱手續)

●告示第七〇號 明治卅二年五月十七日

植樹獎勵補助規程左ノ通り相定ム

第一條 町村又ハ大字若クハ鄉免名觸及一個人ノ所有山林原野一團地一町步以  
 上ニ植樹ヲ爲ストキハ本則ニ據リ獎勵補助費ヲ下付ス

第二條 植樹獎勵補助ハ苗木代ノ半額以內トス

第三條 植樹獎勵補助費ヲ下付スベキ樹種ハ杉、檜、松、樺、櫟、櫻、トス

第四條 植樹獎勵補助費ノ下付ヲ請ハント欲スルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄島  
 廳郡市役所ヲ經由シ七月三十日迄ニ縣廳ヘ願出ツベシ

一 所在地名地番地目反別

一 所有者名

一 施業地ノ圖面

一 施業ノ方法

但樹種、本數等ヲ詳記シ其繼年事業ニ係ルモノハ年度ヲ區別スベシ

一 保護監督ノ方法

一 伐木年限

一 費用ノ豫算書

第五條 植樹補助ヲ願出タルトキハ縣廳ハ便宜吏員ヲ派遣シ實地ヲ調査セシメ之ヲ許否スルモノトス

第六條 植樹獎勵會補助費ヲ受ケタル林地ハ植栽後滿三年間下。柴草等毎年二回以上刈除シ樹苗ノ枯損シタルモノアルトキハ豫定本數ノ補植ヲナスベシ

前項林地ニハ時々吏員ヲ派遣シ實況ヲ視察セシメ手入保護監督等ノ方法ニ付指揮セシムルコトアルベシ

第七條 植樹獎勵補助費ヲ受ケタルモノハ向フ三ケ年間毎年一月三十一日迄ニ前年ノ實況ヲ島司郡市長ヲ經テ縣廳ヘ報告スベシ

●諭達第七號 明治廿八年九月四日

森林ノ國家經濟ニ關係ヲ有スルハ曠々ヲ俟ス然ルニ動モスレハ濫伐ニ陥リ栽培改良ノ施爲アルヲ聞カス今ニシテ之レカ繁殖ノ方法ヲ講セサルトキハ用材薪炭ノ欠乏ヲ來スノミナラス第一水源ヲ涸渇シ田疇依テ灌漑ヲ失ヒ或ハ荒蕪ニ變シ又ハ暴雨ニ際シテ堤防ヲ決潰シ加之季候其度ヲ失シ爲メニ惡疫流行ノ媒助ヲナス等災害ノ及テ處枚舉ニ迫アラヌ而シテ官林ノ保護ニ付テハ既ニ成定アリト雖トモ民林ノ保護ニアツテハ未タ一定ノ方法アルナシ假令一定ノ成規ナキモ林産ノ富源ヲ増殖シ永久ノ收益ヲ得ントスルハ山林所有者之須務ニ屬スト雖モ抑モ林業ノ事タル數年ノ勞苦ヲ積ムニアラザレハ繁茂ノ成果ハ得テ望ムヘカラス且夫將來ノ計畫ヲ施爲スルニハ一定ノ方針ナカルヘカス故ニ今般民有山林取締規則頒布候條自治經濟上至良ノ財源タルコトヲ辨ヘ之レカ愛惜ノ念慮ヲ喚發シ速ニ規約ヲ締結シ實功ヲ奏スベシ

●訓令第五〇號 明治廿八年九月四日 島廳 郡役所 戶長役所 町村役場

今般本縣令第三六號ヲ以テ民有山林取締規則發布ニ就テハ左ノ各條ニ據リ取扱ヲ爲スヘシ

第一條 規則第二條私有山林トアルハ一個人有若クハ數個人共有ノ山林ヲ云フ

町村有山林ニハ一部落有山林ヲモ包含ス

第二條 規則第五條但書ニ係ル認可願出候場合ニ於テハ其分割若クハ聯合ヲ要スル事情ヲ詳悉シ地形圖ヲ添屬セシメ郡長ハ其得失ヲ副申スベシ

第三條 規則第九條組長ノ事務ハ戶長町村長ニ囑托スルコトヲ得

第四條 明治十七年本縣甲第二十二號達ニ依リ國土保安林ノ伐採ヲ掘テ出願スル者アルトキハ島司郡長ハ實地得失ノ詳細副申スベシ

第五條 多町歩ノ薪炭林ハ輪伐ノ方法ヲ設ケ濫伐ニ陥ラサルヲ要ス

第六條 組合規約ハ別冊規約例ニ準依シ締結セシムヘシ

別冊

長崎縣 郡(町)村民有山林組合規約

第一款 總 則

第一項 明治二十八年本縣令第三十六號民有山林取締規則ヲ遵守シ茲ニ組合規約ヲ締結ス

第二項 當組合ハ長崎縣郡(町)村民有山林組合ト稱ス

第二款 栽培保護方法

- 第三項 山林無立木ノ箇所ハ別冊ニ記載スル年限内ニ適地ノ種苗ヲ播植スルモノトス
- 第四項 針葉樹ノ類ニシテ萌芽セサル樹木ヲ伐採シタルトキハ其伐採木數ノ二倍ヨリ少カラサル適地ノ種苗ヲ一ケ年内ニ播植シ火災ニ罹リ枯損セシトキハ五ケ年内ニ播植スルモノトス  
但播植種苗枯損セントキハ一ケ年内ニ補植スルモノトス
- 第五項 種苗ヲ播植シタルトキハ其種類員數及ヒ字地番反別等ヲ組長ヘ報告スルモノトス
- 第六項 山林火災等ノ節ハ豫メ定メ置キタル相圖ニヨリ實地ニ出張シ戸長町村長組長ノ指揮ニ從ヒ防禦スルモノトス
- 第七項 左ノ項目ニ該當スル別冊ノケ所ハ知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ伐採又ハ土石ノ掘採ヲ爲サルモノトス
  - 一 水源涵養林
  - 一 土砂扞止林
  - 一 風潮類雪又ハ水害防止林
  - 一 魚付林
  - 一 廻船其他目標林
  - 一 名所舊跡其他風致林
  - 一 國郡村市ノ境界林
  - 一 道路並木代用林

- 第八項 山林ヲ賣買讓與シタルトキハ双方ヨリ組長ヘ届出ルモノトス
- 第三款 組長及ヒ其職務
- 第九項 組長ノ職務ハ戸長町村長ニ囑托スルモノトス又ハ組長ハ組合ノ選舉ヲ以テ就職シ其任期ハ滿二ケ年トス
- 第十項 組長ハ違約者處分及ヒ經費ヘ收支其他組合ニ關スル一切ノ事ヲ處辨スルモノトス
- 第十一項 組長ハ組合山林内ヲ巡視シ森林ノ盛衰樹木ノ榮枯及ヒ規約實施方等監査スルモノトス
- 第十二項 組長ハ山林火災及ヒ蟲害アルトキハ現場ニ出張シ防禦ノ手段ヲ爲スモノトス
- 第十三項 組長ハ火災蟲害等非常ノ禍害ニ罹リタルトキハ其都度知事(對馬ハ島司)ヘ届出ルモノトス
- 第十四項 組長ハ組合山林一筆限帳樹木調帳并ニ種伐臺帳ヲ編成備ヘ置クモノトス
- 第十五項 當山林組合區内ニ於テ新タニ山林ヲ所有スルモノアルトキハ組長ハ規約ヲ示シ名簿ニ記名捺印セシムルモノトス
- 第四款 取締人及ヒ其職務
- 第十六項 常組合ハ取締人若干名ヲ置ク其任期ハ二ケ年トス
- 第十七項 取締人ハ組長ニ於テ左ノ事項ニ該當スル者ヨリ選定スルモノトス
  - 一 組合町村内ニ居住ノ者

- 一 滿二十五年以上ノ男子ニシテ品行方正身體健全稍々筆算ニ通スル者
- 第十八項 取締人ハ組長ノ指圖ヲ受ケ受持區域ヲ定メ山林ヲ監守シ山林ニ關スル違犯者及ヒ違約者ナキ様注意スルモノトス
- 第十九項 取締人ハ受持山林ニ於テ左ノ件々ヲ認ムルトキハ直チニ組長及ヒ該所有者ニ通報スルモノトス
  - 一 山崩
  - 一 枯損木
  - 一 火防線ノ荒廢
  - 一 有害虫ノ發生右ノ外障害トナルヘキ事件
- 第二十項 取締人ハ違犯者若クハ違約者ヲ見認ムルトキハ其證據品ト認ムヘキ物ヲ取繼メ住所姓名ヲ聞糾シ違約者ナレハ速カニ組長ニ報告シ違犯者ナレハ告發ノ手續ヲ爲スモノトス
  - 但告發ヲ爲シタルトキハ直チニ組長及ヒ所有者ヘ通報スルモノトス
- 第二十一項 取締人ハ山林ノ火災若クハ害虫蔓延ノ虞アルトキハ戶長町村長及ヒ組長ヘ官林ナレハ所轄小林區署又ハ派出所ヘ急報シ防禦ノ手配ヲ爲スモノトス
- 第二十二項 取締人ハ受持山林ノ一筆限リ塚ヲ所持スルモノトス
- 第五款 經費
  - 第二十三項 組合經費ノ費目ハ左ノ如シ
    - 一 組長及ヒ取締人ノ報酬

- 一 組長及ヒ取締人ノ旅費
- 一 通借費
- 一 會議費
- 一 筆紙墨其他需用費
- 第二十四項 組長ハ金錢支拂ニ關スル証憑書類ヲ保管シ申報ノ用ニ供スルモノトス
- 第二十五項 違約金ハ組合ノ經費ニ組入又ハ組合ノ共有財産トシテ儲蓄スルモノトス
  - 但組合ヲ退去シタル者ハ共有權ヲ失フモノトス
- 第二十六項 組合員ハ何時タリトモ金錢出納簿ヲ閱覽スルコトヲ得ルモノトス
- 第六款 會議
  - 第二十七項 何年何月定期總會ヲ開キ組合ニ關スル諸般ノ事ヲ議定シ且山林實驗上ノ利害得失ヲ講究シ利益ノ増進ヲ圖ルモノトス
  - 第二十八項 總會員ハ山林所有者ヲ以テ之レニ充ツ
  - 第二十九項 組長ハ臨時緊急ト認ムルトキ又ハ會員三分一以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クモノトス
  - 第三十項 議長ハ組長ヲ以テ之レニ充ツ
  - 第三十一項 三分ノ一以上ノ會員出席スルニ非サレハ會議ヲ開カサルモノトス
  - 第三十二項 議事ハ過半數ヲ以テ之レヲ決ス可否全數ナルトキハ議長之レヲ

三十年四月告示七三號  
ニテ第四條第七條第八  
條第九條ヲ全年九月一  
四六號ニテ第四條第七  
條第八條第九條ヲ附點  
ノ通更正刪除

決スルモノトス

第三十三項 議事細則ハ別ニ定ムルモノトス

第七款 違約者處分

第三十四項 規約第三項第四項第六項第七項ニ違背シタル者ハ幾圓以上幾圓以下ノ違約金ヲ出タサシムルモノトス

第三十五項 前項ノ處分ヲナスヘキトキハ違約者ヨリ其始末書ヲ差出サシムルモノトス

第三十六項 規約第七項ニ係ル違約品ハ競賣執行該代金ハ組合ノ經費ニ充テ

又ハ組合ノ共有財産トシテ儲蓄スルモノトス右ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項右ノ各項確守ノ証トシテ別冊名簿ニ記名捺印スルモノトス

●告示第三二號

明治廿八年二月廿五日

農事講習所規則左ノ通り相定ム

長崎縣農事講習所規則

第一條 農事講習所ハ農事ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 農事講習所ハ管内數個所ニ設置シ其費用ハ地方稅ヲ以テ支辨ス

第三條 農事講習所ハ主ニ農閑ノ季節ヲ撰ヒ開クモノトス

第四條 學科ハ左ノ科目ニ就キ教授ス

但其地ノ狀況ニ依リ教師ノ意見ヲ以テ適宜之ヲ變更スルコトアルベシ

土壤 肥料 作物 農具  
園藝 害虫病理 農用動物 農業經濟

第五條 生徒ハ其區域内ノ講習所ニ於テ教授ヲ受クヘキモノトス但便宜ニ依リ

區域外ノ講習所ニ入學セシムルコトアルヘシ

第六條 生徒ハ左ノ諸項ヲ具フル者ニ限ル

一 管内ニ居住スルモノ

二 年齢十七歳以上ノモノ

三 身体健全品行方正ノモノ

四 従前多少農事ニ從ヒ之ニ熱心ナルモノ

五 尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ

第七條 生徒ノ定限ハ一箇所四十名トス

但其地ノ狀況ニ依リ員外生トシテ數名入學ヲ許スコトアルヘシ

第八條 講習期ハ三十日ヲ以テ卒業スルモノトス

第九條 講習ノ終リニハ試験ヲ行ヒ卒業證書ヲ付與ス但講習ノ成績特ニ善良ナルモノニハ優等證書ヲ付與シ其最劣等ナルモノニハ卒業證書ヲ附與セス

第十條 生徒ハ其修得シタル事柄ヲ實驗シ其市町村ノ常事者ニ報告シ若クハ當業者ヲ誘導スルノ義務アルモノトス

●訓令第一〇〇號

明治廿七年八月二十日

島廳 郡役所 市役所

左ニ掲クル事項ハ各其定ムル所ノ期限ニ依リ報告シ緊急ノ場合ニハ島廳及遠隔ノ郡役所ニ於テハ電信ヲ以テ報告スヘシ尤モ但書ノ種類外必要トスル事項アレハ其事項ヲモ併セテ詳述スヘシ



報告期五月十四日

一 蠶兒掃立ヨリ三齡ニ至ル迄毎齡ノ景況

但氣候、發生ノ遲速、掃立、飼食、蠶兒ノ健否、就眠、桑葉發芽ノ模様及豐凶  
報告期五月卅一日

一 麥作成熟ノ景況

但氣候、播種、生長、成熟、

報告期九月三十日

一 米作開花ノ景況

但氣候、播種、苗代、虫害、插秧、除草灌溉、生長、開花、  
報告期十一月二十日

一 米作成熟ノ景況

但開花前ノ概況、倒伏、風旱水害、成熟、

一 虫害ノ景況

二十七年十二月訓令第一二九號ヲ以テ虫害ノ景況但書本文ノ通り更正アリ

但害蟲發生ノ現狀害蟲ノ種別及螟ノ如キ普通ノモノヲ除キ他ノ害蟲ハ其形狀變化性質等、被害ノ物概數、驅蟲ノ概略仔蟲(イモムシ、ケムシ、ウチノ類)并羽化蟲(蝶蛾甲蟲其他六脚蟲類)ハ見本トシテ現物四五個返致スヘシ

一 早霜雹ノ景況

但早霜雹ノ現況、被害物ノ概況

一 森林火災ノ狀況

但官民及立木ノ種別、火災反別ノ概數、消防ノ概況

一 其他各種ノ災害及産業上著ルシキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合  
右四項ハ其都度報告

● 廳達第五二號

明治三十年十月十九日

内務部

巡回教師服務規程左之通相定ム

巡回教師服務規程

第一條 巡回教師ハ知事ノ指揮監督ヲ受ケ各其業務ニ従事スヘシ

第二條 巡回教師業務ノ項目概テ左ノ如シ

一 巡回講話實驗試導及質問應答ニ關スルコト

二 試驗事業ニ關スルコト

三 講習所又ハ傳習所ニ關スルコト

四 共進會又ハ品評會等ノ出品及之レカ審査ニ關スルコト

五 其他知事ニ於テ特ニ命シタル事項

第三條 出張巡回ハ知事ノ命令ヲ受ク出張及歸廳ノ節ハ其旨ヲ知事ニ届出ツヘシ

第四條 出張巡回中他所ヨリ出張ノ請求ヲ受クルカ又ハ他所へ出張セサルヲ得

サル事件アルハ豫メ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

但緊急ヲ要シ指揮ヲ請フノ暇ナキハ出張后其事由ヲ詳具シ許可ヲ請フコトヲ得

第五條 出張巡回ハ命令ノ日數内必ス歸廳スヘシ若シ延期ヲ要スル場合ニ於テ

知事ノ指揮ヲ受クルノ途ナキトキハ歸廳ノ上其事由ヲ詳具シ許可ヲ受クヘシ

第六條 日割ヲ豫定シ巡回地へ通知ノ上巡回中若シ病氣又ハ事故ニテ日割ニ異動生スルトキハ巡回中未済ノ箇所ニ其旨通知ヲナシ尙事由ヲ詳具シ知事へ報告スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ歸廳後五日以内ニ復命書ヲ知事ニ差出スヘシ但五日以内ニ復命書ヲ差出ス能ハサル事故アリ特ニ知事ノ許可ヲ得タル場合ハ此限ニアラス

一 講習所又ハ傳習所ニ關シ出張シタルトキ

二 共進會又ハ品評會等ノ審査ニ關シ出張シタルトキ

三 特別ノ事項ヲ調査スルカ爲メニ出張シタルトキ

四 管外ニ出張シタルトキ

第八條 前條ニ掲クル場合ノ外三ヶ月毎ニ左ノ事項ヲ詳記シ業務ノ功程ヲ上申スヘシ

一 巡回區域

二 講話ノ事項

三 其地一般當業上ノ狀態

四 其地一般當業上改良ヲ要スル意見

五 其他必要ナル事項

第九條 出張巡回ヲ爲サ、ルトキハ廳中ニ於テ執務ニ從事スヘシ

第十條 明治二十九年五月二十五日廳達第二二號服務例規ハ巡回教師ニ準用ス

第十一條 俸給及旅費其他ノ請求書若クハ領收証戻入金又ハ決算等ニ關シテハ

渾テ廳中一般ノ例規ニ據ル

●縣令第八號 明治廿八年三月八日

陶磁器業組合規則左ノ通相定ム

陶磁器業組合規則

第一條 本規則ニ於テ陶磁器業トスルハ左ノ業体ノ一ニ從事スル者ヲ云フ

一 陶磁器工業

二 陶磁器商業

第二條 前條陶磁器工業トハ陶磁器製造陶磁器畫工陶磁器商業トハ陶磁器仲買

陶磁器荷受問屋陶磁器外國貿易ノ業ヲ營ムモノヲ稱ス

第三條 陶磁器業ニ從事スルモノハ該業ノ改良ヲ圖リ販路ヲ擴張スルヲ以テ目

的トナシ業体毎ニ組合ヲ設ケ必之ニ加盟スヘシ

第四條 組合ハ全縣下ヲ以テ一區域トシ便宜ノ場所ニ事務所ヲ設ケ組合ニ關ス

ル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ事務所支部ヲ設クルヲ得

第五條 組合ノ規約ハ組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第六條 組合規約ニ掲クヘキ事項概テ左ノ如シ

一 組合ノ名稱

二 組合事務所及其事務支部ノ位置並ニ所屬區域

三 目的實行ノ方法

四 役員ノ任期職務及權限

- 五 關係アル他ノ組合トノ聯合ニ關スル規定
- 六 組合ニ關スル規定
- 七 証標又ハ記號ニ關スル規定
- 八 違約者處分ノ方法
- 九 備主ト職工トニ關スル規定
- 十 會計ニ關スル規定
- 十一 貸業者ニ關スル規定
- 十二 營業ノ研究方法
- 十三 授業師ト徒弟トニ關スル規定
- 右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項
- 第七條 組合ハ其名義ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八條 組合ハ一ケ年間ノ經費收支豫算及賦課徵收方法ヲ議定シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 組合ハ毎年一月中ニ前年ノ事績及費用ノ決算ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第十條 組合ハ年六月及十二月ニ於テ其半期間ニ於ケル組合員營業ノ狀況盛衰ヲ調査シ翌日十五日限り知事ニ報告スヘシ
- 第十一條 成年以上ノ男子ニシテ組合員タル者ハ組合ノ取締役及組合會ノ議員ニ選舉セラレ又ハ之ヲ選舉スルコトヲ得但左ノ諸項ノ一ニ觸ル者ハ選舉人被選舉人タルコトヲ得ス
  - 一 本則ニ背キテ處罰ヲ受ケ又ハ組合ノ違約處分ヲ受ケ一ケ年ヲ經過セサル

- 者
  - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期若クハ赦免後一ケ年ヲ經過セサル者
  - 三 家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者
  - 第十二條 組合員ハ組合ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スヘシ
  - 第十三條 未成年ノ組合員ハ相當ノ代表人ヲ定メ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ
  - 第十四條 組合事務所ニハ頭取及取締役若干ヲ置キ取締役ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ頭取ハ取締役之ヲ互選スヘシ事務所支部ニハ取締役一名ヲ置ク頭取及取締役ノ就職退職ハ知事ニ届出ヘシ
  - 第十五條 頭取及取締役ハ組合會ノ議決ヲ經ルニ非レハ就職ヲ辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス
  - 第十六條 組合ハ他ノ組合ト氣脈ヲ通スルカ爲メ聯合シテ規約ヲ作ルトキハ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ
  - 第十七條 組合會ニ於テ決議シタル事項ハ決議後五日以内ニ知事ニ届出ヘシ
  - 第十八條 知事ニ於テ組合ノ行爲又ハ決議ニシテ法律命令ニ違犯シ又ハ公益ヲ害スルノ恐アリト認ムルトキハ之ヲ取消又ハ中止セシムルコトアルヘシ
  - 第十九條 本則第三條ニ違背シ組合ニ加盟セサル者第十三條ニ違背シ規約ヲ違守セサル者又ハ組合費用ノ負擔ヲ拒ム者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 縣令第三九號 明治廿七年六月二十日
- 銀行事業ヲ營ム會社ヨリ差出す資本増減ノ理由及ヒ其拂込拂戻ノ期日方法等總

會ノ決議按テ具シタル參考書ヲ添付スヘシ  
但各人ハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載スヘシ  
●縣令第四三號 明治廿七年七月十一日  
銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ其事項及年月日ヲ當廳ヲ經テ  
大藏大臣ヘ届出ツヘシ  
但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ此際其登記事項及ヒ年月日届出ツヘシ  
●告示第一七號 明治廿二年三月九日  
對馬島廳各郡區役所内登録商標見本觀覽所ノ全見本ハ第一六五二號迄ニ配付ヲ  
止メ自今左ノ三ヶ所ヘ商標公報ヲ備ヘ衆庶ノ觀覽ニ供ス  
但長崎區大村町長崎商人集會所及ヒ全所内長崎商工會石田郡武生水村四百七  
十三番戶新聞雜誌類縱覽所ヘハ別ニ其筋ヨリ寄贈セラル  
登録商標見本觀覽所 長崎區大波戶勸工場内  
全 對馬島廳内  
全 北高來郡役所内  
●達甲第二七號 明治廿一年六月廿日 對馬島廳 郡區役所  
私立銀行ノ義ハ自今每季決算ノ際損益勘定ノ割合其他半季間營業ノ要計ヲ記載  
シタル報告書ニ通テ徵シ一月七月十五日限當廳ヘ差出スヘシ  
但本支店若クハ分店出張所等各自所在地ニ於テ差出サシムヘシ  
●内訓第二七號 明治廿六年六月三十日 島司郡市長  
商法第五十九條ニ依リ株式會社發起認可申請書ヲ提出シタルトキハ左ノ各項

二十七年十月二十七日  
訓令第三七五二號ヲ以  
テ本項追加本文ノ通  
リ  
廿九年六月訓令三四號  
ニテ別表改正本表ノ通

ニ該當ノ點ナキヤ否ヤヲ調査シ意見ヲ具申シ且其第一項ニ付テハ既設株式會社  
ヨリ認可ヲ申請スル定款ニ於テモ均シク調査副申セラルヘシ

- 一 法律命令ニ違反スル事
- 二 公安、公益、風俗ヲ害スルノ虞アル事
- 三 或ル階級ノ人民ニ於テ其生計及營業上多大ノ傷害ヲ被ムルノ虞アル事
- 四 就業者ノ健康安全ヲ害スルノ虞アル事
- 五 發起人各自信用ノ程度カ其企業ニ適セサル事
- 六 企業ガ實際ノ需用及ヒ地方ノ狀況ニ應セサル等ニシテ良好ノ結果ヲ得ヘ  
キ望ナキ事
- 七 資本ノ金額ヲ募集シ得ヘキ見込ナキ事
- 八 資本ノ金額ノ僅少ナル爲メ企業ノ目的ヲ達シ及ヒ法律命令ヲ遵行シ得サ  
ルノ虞アルトキ

●訓令第二五號 明治廿八年四月廿九日 島廳 郡役所 市役所  
輸出重要品産地ノ狀況別表ニ依リ毎年取調翌年二月限リ報告スヘシ  
尙昨廿七年分ハ特ニ本年六月十日限リ報告スヘシ  
別表  
發送期翌年二月中

輸出重要品産地狀況報告

(明治何年分)

廳 名

一輸出重要品表

品目	數量	名產	額	價	額	輸出額	全價額	諸入費
錫	斤							原料代其他入費
乾鮑	斤							
海參	斤							
蝦(乾蝦摺即)	斤							
鱈	斤							
魚油	斤							
蠶絲	斤							
紡績絲	貫							
製茶	斤							
米	石							
製造烟草	斤							
摺附木	哥							

磁器組	陶器組	漆器個	洋傘本	段通疊	玻璃器個	木蠟斤	菜子油石	木材才	板類坪	椎茸斤	樟腦斤	樟腦油斤	石炭噸	硫磺斤

計

何々ノ部 (其品目毎ニ別紙ニ記載スヘシ)

- 一 製造總況
  - 其年製産ノ多寡并ニ前年ニ比シ盛衰ノ理由其他著シキ事項アラハ記スヘシ
- 一 製品
  - 製品ノ種類(水産物及茶ハ其種類毎ニ産額價額)ヲ記スヘシ
- 一 産地
  - 何郡市何町村等製品ノ産地及製造ノ狀況ヲ記スヘシ
- 一 製造
  - 製法及其改良ノ成績、製品ノ品位、製造期節、製造費用等ヲ記スヘシ
- 一 荷造
  - 荷造ノ方法、容器及容量ヲ記スヘシ
- 一 販賣
  - 販賣ノ手續及仕向先、相場、運賃、其他費用等ヲ記スヘシ
- 一 原料
  - 原料ノ種類、全産地(水産物ハ原料ノ種類、漁場、漁期、漁具、漁法、漁獲高)ヲ記スヘシ
- 一 前各項ノ外必要ノ事項ハ適宜記スヘシ
  - 但産地以下ノ各項ハ前年ノ報告ト全一ナルモノハ次年以後之ヲ省キ其變遷

シタル事項ノミヲ記スヘシ

● 縣令第二七號

明治廿八年七月卅一日

明治廿六年(八月)長崎縣令第三十一號度量衡取締規則左ノ通り改正ス

度量衡取締規則

- 第一條 此規則ニ於テ營業者ト稱スルハ度量衡法ニ據リ免許ヲ得タル度量衡器製作者、修覆者及ヒ販賣者ヲ謂ヒ使用者ト稱スルハ度量衡ヲ營業ノ目的ニ使用スルモノヲ謂フ
- 第二條 度量衡取締ノ爲メ市長町村長又ハ戸長ヲシテ毎年一回營業者並ニ使用者ノ器物ヲ検査セシメ差狂ヒ又ハ毀損ノ疑ヒアルモノハ其檢定ヲ受クルコトヲ命ゼシムルコトアルベシ警察官ヲシテ隨時臨檢セシムルトキ亦タ同シ
- 第三條 度量衡ノ製作者、修覆者ハ其原器ヲ堅牢ナル臺上ニ平置シ濕氣少ナク且ツ温度ノ劇變及ヒ塵埃ヲ避クヘキ場所ニ保管スベシ
- 第四條 營業者ハ度量衡ノ差狂ヒアルモノヲ販賣ノ場所ニ陳列スルコトヲ得ス若シ差狂ヒノ疑ヒアルトキハ直チニ檢定ヲ請求スベシ
- 第五條 使用者ハ其使用スル度量衡器ノ構造ニ異狀ヲ來タシ又ハ差狂ヒヲ生ゼザル様常ニ注意スベシ
- 若シ差狂ヒノ疑ヒアルトキハ直チニ檢定ヲ請求スベシ
- 第六條 製作、修覆ニ用ユル原器及ヒ衡器販賣人ニシテ取緒及錘系ノ修覆ニ用ユル分銅ハ毎年一回其檢定ヲ請求スヘシ
- 但差狂ヒヲ生シタル疑ヒアルトキ又ハ新ニ調製シタルモノハ臨時檢定ヲ請

求スベシ

第七條 度量衡營業者ハ何器製作所(修復所、販賣所)ト大書シタル看板ヲ掲クベシ

第八條 度量衡營業者ハ度量衡各器ニツキ左ノ帳簿ヲ備エ置キ取締吏員ノ臨檢ニ差支エナカラシムベシ

一何器製作明細帳

此帳簿ニハ日々製作シタル器物ノ種類、形狀、物質、個數及ヒ原價ヲ記入スベシ

一何器修復明細帳

(衡器販賣者ニシテ桿秤ノ取締、錘系ノ修復ヲナスモノモ亦本帳ヲ備フベシ)

此帳簿ニハ日々修復シタル器物ノ種類、形狀、物質、記號、年號、番號、個數、修復料及使用者ノ住所姓名ヲ記入スベシ

修復者並ニ製作者ニシテ修復ヲ兼ネタル者桿秤ノ取締及錘系ニシテ金屬ニ非ルモノヲ修復シタルトキハ別項ヲ設ケテ其時々前項ノ記載ヲナスベシ

一何器仕入帳

此帳簿ニハ器物ヲ仕入レタル時々其種類、形狀、物質、個數、原價、及ヒ製作者ノ住所姓名ヲ記入スベシ

一何器販賣明細帳

此帳簿ニハ日々販賣シタル器物ノ種類、形狀、物質、記號、個數及ヒ代價ヲ

記入スベシ

舊法ニ依リタル製作品ヲ販賣シタルモノハ別ニ帳簿ヲ製シ其種類、個數及ヒ代價ヲ記入スベシ

第九條 桿秤ノ取締及ヒ錘系ニシテ金屬ニ非ルモノ、修復ヲナシタルトキ差狂ヒアリト認メタルモノハ其種別、記號、年號、番號、使用者ノ住所姓名及其差狂ヒアル廉ヲ詳記シ市長町村長又ハ戶長ニ届出ツベシ

第十條 度量衡器ノ製作者ハ第一號様式全修復者ハ第二號様式全販賣者ハ其三號様式桿秤ノ取締及錘系ニシテ金屬ニ非ルモノ、修復ヲナシタルモノハ第四號様式ノ通り及ヒ舊法ニ依リタル製作品ヲ販賣シタルモノハ其種類、個數、金額ヲ前年四月ヨリ其年三月ニ至ル迄ノ分毎年四月十五日限リ市長町村長又ハ戶長ヲ經由シテ本廳ヘ報告スベシ

第十一條 本則第二條ノ命ヲ受ケ檢定ヲ請求セザルモノ及ヒ第四條第一項第八條第十條ニ違背シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第壹號様式

自明治廿年四月日度(量衡)器製作販賣高報告  
至何年月日

(度 器)

種 別	製 作		販 賣		型 年 度
	前年度	本年度	販賣其他	計	
竹製	尺	尺	計	計	越 年 高
直尺	尺	尺	計	計	越 年 高

計	金製	鐵尺	何々	木製	曲尺
	何々	尺	リットル	何々	尺
製 作 額	計	前年度	本年度	前年度	本年度
		越 高 製 作 高	計	越 高 製 作 高	計
販 賣 額	計	販賣者	其他者	販賣者	其他者
		代價	計	代價	計
翌 年 高 度					

(量器)

計	斗 概	何々	圓形金 屬	リットル	形狀物 質 種 別	製 作 額	前年度	本年度	販 賣 額	前年度	本年度
							越 高 製 作 高	計		越 高 製 作 高	計
計	何々	何々	何々	何々	何々	代價	翌年	越年	代 價	翌年	越年
							高 度	計		高 度	計

(衡器)

製 作 額	計	前年度	本年度	前年度	本年度
		越 高 製 作 高	計	越 高 製 作 高	計
販 賣 額	計	販賣者	其他者	販賣者	其他者
		代價	計	代價	計
翌 年 高 度					

計	何々	何々	木製 桿秤	貫 キログラム	製 作 額	前年度	本年度	販 賣 額	前年度	本年度
						越 高 製 作 高	計		越 高 製 作 高	計
計	何々	何々	何々	何々	代價	翌年	越年	代 價	翌年	越年
						高 度	計		高 度	計

一本表末ニハ各器トモ備考ノ欄ヲ設ケ販賣營業者エ賣渡シタル箇數及其住所  
姓名ヲ記載スベシ  
右報告候也

第貳號様式  
年月日  
長崎縣知事宛

何器製作者  
誰印

自明治年月日  
至何年月日  
度(量衡)器修履高報告

種 別	修 履 高	修 履 料
何々		
何々		
何々		



計

一種別ノ欄ニハ名稱形狀物質本邦系(メートル)系ヲ區別シテ記載スルコト製作高報告書ニ準據スベシ以下第三第四様式皆同シ

一修覆シテ販賣スルモノハ其販賣額及販賣代價ノ欄ヲ増設シ之ヲ記載スベシ

右報告候也

何器修覆者

誰印

年月日

縣知事宛

第參號様式

自明治年月日度(量衡)器販賣高報告

至何年月日

種別	仕入		販賣高		翌年度繰越高
	前年度	本年度	原價	箇數	
何々々					
何々々					
何々々					
計					

一本表末ニハ各器トモ備考ノ欄ヲ設ケ仕入先ノ住所姓名及其仕入箇數ヲ各別

ニ記スベシ

右報告候也

何器販賣者

誰印

年月日

縣知事宛

第四號様式

自明治年月日

至何年月日 桿秤取締係修覆高報告

種別	修覆高	修覆料
何々々		
計		

右報告候也

衡器製作(修覆、販賣)者

誰印

年月日

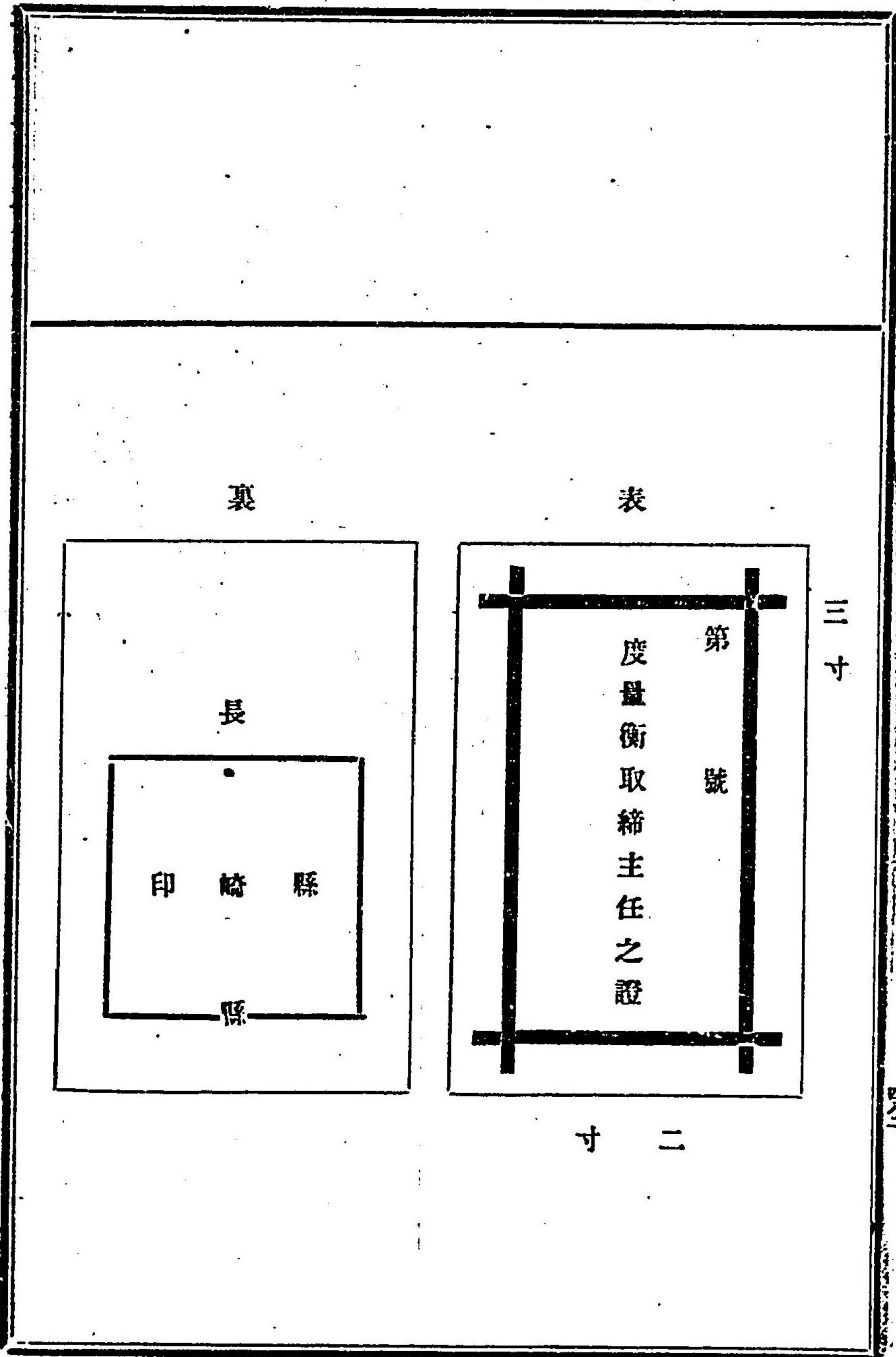
縣知事宛

●告示第一五二號 明治廿五年十二月廿八日

本縣度量衡常置檢定所ノ義ハ當分ノ内常廳内ニ設置ス

●告示第九號 明治廿六年一月十八日

度量衡取締主任ノ證券左記雛形ノ通り定ム



●告示第一一二號

明治三十年七月二日

明治廿四年(八月)農商務省令第十一號度量衡法施行規則第三十八條ニ依リ度量衡器製作者修葺者販賣者ノ身元保證金ヲ預入ルヘキ銀行ヲ指定スルコト左ノ如シ

- 長崎市 株式會社 十八銀行 合名會社 三井銀行支店
- 東彼杵郡 株式會社 玖島銀行 株式會社 早岐銀行
- 北高來郡 株式會社 諫早商人銀行
- 南高來郡 株式會社 數寄屋銀行
- 北松浦郡 平戸第九十九國立銀行

●訓令第四三號

明治廿八年七月卅一日

島廳 郡役所

警察署 警察分署 戶長役所 市役所 町村役場  
明治二十六年(八月)達甲第六拾壹號市町村內ニ於ケル度量衡取締ニ關スル件左  
今自ノ施行規程ニヨリ取扱フベシ

度量衡取締規則施行規程

- 第一條 市長町村長又ハ戶長ハ其市町村內ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ヒ及ヒ檢定ニ關スル事務ヲ補助スベシ
- 第二條 警察官ハ常ニ度量衡器取締ニ注意シ必要ト認ムル場合ニハ隨時營業者及ヒ使用者ニツキ臨檢ヲ行フベシ
- 第三條 市長町村長又ハ戶長ハ毎年六月度量衡營業者及ヒ使用者ノ器物ヲ臨檢シ左記各項ノ取締ヲナスル限リ本廳ニ報告スヘシ

但必要ト認ムルトキハ定期ニ拘ハラズ特ニ臨檢スベシ

一 設計ノ通り施設ノ整否

一 諸帳簿記載ノ整否

一 免許以外ノ度量衡器ヲ製作シ修復シ若シクハ販賣セザルヤ又ハ檢定ヲ受ケザル度量衡器ヲ販賣セザルヤ否

一 衡器販賣者ニシテ認可ヲ得スシテ取締錘糸ノ修復ヲナサ、ルヤ否

一 製作、修復及ヒ販賣者ノ資産ニ異動ヲ産シタル事實ナキヤ否

右各項ハ營業者ニ限リ取調ヲナスベシ

一 度量衡器ニ証印若シクハ証書アルヤ否

二 度量器取調事項

甲 一端若シクハ兩端磨滅シ又ハ狂撓シタルモノナキヤ否

乙 疊尺ノ接續部ニ緩ミヲ生シタルモノナキヤ否

丙 卷尺ニ伸縮ヲ生シ或ハ毀損切斷シタルモノナキヤ否

丁 目盛、全長ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

三 量器取調事項

甲 精糖其他容量ヲ減スベキモノ、附着シタルモノナキヤ否

乙 欠損其他構造ニ變狀ヲ來タシタルモノナキヤ否

丙 全量ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

丁 斗概ノ狂撓シ又ハ側面ニ凹凸ヲ生シタルモノナキヤ否

戊 穀量ニ要スル斗概ハ適當ノモノヲ備フルヤ否

四 衡器取調事項

甲 分銅又ハ錘ノ欠損ヲ生シタルモノナキヤ否

乙 桿秤又ハ指針ノ狂撓シタルモノナキヤ否

丙 取締及ヒ錘糸ハ正當ノモノナルヤ否

丁 目盛秤量ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

五 其他法律及ヒ本縣取締規則ニ違背スルモノナキヤ否

第四條 度量衡特設檢定所ノ設置並ニ檢定期日ヲ告示シタルトキハ市長町村長又ハ戸長ハ其期日內ニ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ遺漏ナク其檢定ヲ受ケシムベシ

第五條 度量衡特設檢定所ヲ設置シ又ハ度量衡法施行規則第四條ノ請求ヲ許可シ檢定官吏ノ出張檢定ナストキハ市長町村長又ハ戸長ハ其需ニ應ジ之レカ準備ヲナスベシ

第六條 第二條ノ場合ニ於テ必要ト認ムル事項ハ其都度本廳ニ報告シ又ハ檢定官吏ノ出張ヲ請フベシ

第七條 臨檢ヲ了リタルトキハ其現況ヲ左記様式ニ依リ本廳ニ報告スベシ  
前二條ノ場合ニ於テ犯罪者ヲ認知シタルトキハ告發ノ手續ヲナスベシ

第七條 度量衡取締規則第九條ニ依リ桿秤ノ取締及ヒ錘糸ノ修復ヲナシタルモノヨリ差狂ヒアルヲ認メタル旨届出タルトキ又ハ臨檢ノ際差狂ヒアルヲ發見シタルトキハ其旨ヲ使用者ニ通知シ更ニ檢定ヲ受クル迄ハ其器ノ使用ヲ禁止スベシ

本條ノ場合ニ於テハ其都度量衡物ノ種類、形狀、物質等ヲ本廳ニ報告スベシ  
 第八條 前條ノ通知書ヲ交付シ又ハ度量衡器ノ製作修覆及ヒ販賣ノ免許狀ヲ傳  
 達スルトキハ受領ノ年月日ヲ明記シタル受領證書ヲ徴シ置クベシ  
 但郵便ヲ以テ送付スルモノハ配達証明郵便ヲ以テスベシ尤モ此ノ場合ニ於  
 テハ受領證書ヲ徴スルヲ要セズ

度量衡檢査(臨檢)概況報告

檢査年 月 日	自何月何日	至何月何日	何日間	檢査者 氏名	市町村長(助役若シクハ書記)何某
檢査人員 數	何人	量器	何人	衡器	何人
檢定出願ヲ命シタルモノ人員數	全	全	全	全	全
修覆ヲ命シタルモノ人員數	全	全	全	全	全
違反者 告發人員數	全	全	全	全	全

右及報告候也

年月日

市長町村長 何

某印

縣知事宛

訓令第四六號

明治三十年七月九日

對馬島廳 郡役所

警察署

警察分署

戶長役所

市役所

町村役場

明治三十二年度度量衡定期檢定準備ノ件ニ付本日第三號ノ通り諭達セリ右定期檢  
 定ノ儀ハ頗ル重大ノ事件ニ屬シ今日ニ於テ之レカ準備ヲ講スルハ最モ緊要ノ事  
 務トス依テ一面ハ漏レナク諭達ノ旨趣ヲ貫徹セシムルト同時ニ一面ハ本縣度量  
 衡取締規則第二條ノ檢査ヲ勵行シ使用者ノ器物ハ一々之ヲ點檢シ差狂アリト認  
 ムルモノハ勿論其疑アルモノト雖モ可成速カニ新器ニ更改候様精々告諭スヘシ  
 但廿八年(七月)訓令第四十三號度量衡取締規則施行規程第三條ニ就キ左ニ準  
 依スル處ヲ示シ候條取締上區々ニ涉ラサル様注意スヘシ

廿八年(七月)訓令第四十三號度量衡取締規則施行規程

第三條取締事項ノ標準

- 一 設計ノ通施設ノ整否
- 一 本項ハ營業者出願ノ際農商務大臣へ提出セシ設計書(營業者ノ保管スル控書)ト對照シ果シテ設計書ノ通施設シアルヤ否ヲ檢査スル者トス
- 一 諸帳簿記載ノ整否本項ハ廿八年(七月)縣令第三十一號ヲ以テ規定シタル製作明細帳、修覆明細帳、仕入帳、販賣明細帳ヲ備へ置キ相當ニ記載ヲ怠ラサルヤ否ヲ檢査スルモノヲス
- 一 免許以外ノ度量衡器ヲ製作シ修覆シ若クハ販賣セサルヤ又ハ檢定ヲ受ケザル度量衡器ヲ販賣セサルヤ否

本項製作者、修、覆者、販賣者ハ農商務省ニ提出セシ設計書ニ記載シタル種類、形状、物質ニ限リ製造、修覆若クハ販賣スルヲ得ヘキモノニ付設計書ニ記載セサル種類、形状、物質ヲ製作、修覆若クハ販賣スルモノハ即チ免許以外ノ器物ヲ製作、修覆若クハ販賣スルモノトス而シテ檢定ヲ受ケタル度量衡器トハ檢印(檢印ノ事ハ後ニ説明ス)ナキヲ以テ一見シテ檢定ヲ受タルト否トヲ判別スヘシ

一 衡器販賣者ニシテ認可ヲ得スシテ取締、錘絲ノ修覆ヲナサ、ルヤ否

衡器販賣者ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ桿秤ノ取締、錘絲(金屬ニ非ルモノ)ノ修覆ヲナスコトヲ得ルモ此認可ヲ得スシテ之ヲ行フハ違法ナルニ依リ嚴重ニ取締ルコトヲ要ス目下縣下ニハ右ノ認可ヲ受ケタルモノナシ

一 製作、修覆及販賣者ノ資産ニ異動ヲ生シタル事實ナキヤ否

本項ハ其著シキ異動ヲ來シタルコトナキヤ否ヲ知ラントスルニアリ故ニ多少ノ異動ハ強テ之ヲ知ラサルモ可ナリトス

以上ハ度量衡器製作者修覆者販賣者ノ營業上ニ就キ監査スヘキ概目ニシテ以下ハ右三器ヲ營業ノ目的ニ使用スルモノノ取締ヲ規定シタルモノナリ而シテ營業ノ目的ニ使用スル者ハ概テ左ノ如シ

度量衡器 衣服、反物、古衣、機織、大工、木挽、指物師、裁縫師、醫師、材木商等ノ營業用ニ使用スルモノ及總テ長サヲ量リ賣買スルニ用ユル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニシテ此他官廳、公署、學校、病院等ニ於テ賣買授受及證明ノ爲メニ使用スルモノハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス

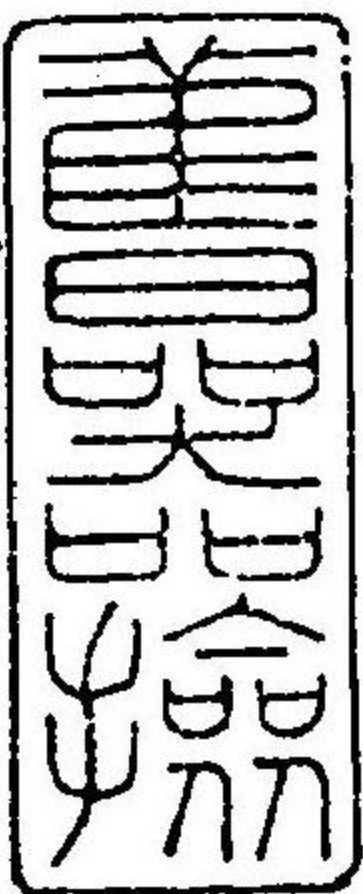
量器 米穀、酒、酢、醬油、油、鹽商及醫師ノ使用スルモノ其他秤目ヲ以テ賣買

ニ用ヒル量器例ハ、繭商、牛乳、羊乳商カ爾又ハ牛羊乳ヲ販賣スルニ使用スルモノ又農家カ自家ノ生産シタル米穀、蔬菜、菓物等ヲ販賣スル際使用スル量器此他前項未段ニ述ヘタル場所ニ放テ使用スル量器衡器水陸運輸、米穀、薪炭、石灰、石炭、綿糸、繭生絲、茶肥料、金物、鑛業、藥種、染物、烟草、砂糖、味噌、蔬菜、菓物、鳥、獸肉、紙、屑、藍等凡テ重サヲ量リ賣買スル際使用スル衡器及ヒ醫師ノ使用スル衡器此他前項未段ノ場所ニ使用スル衡器

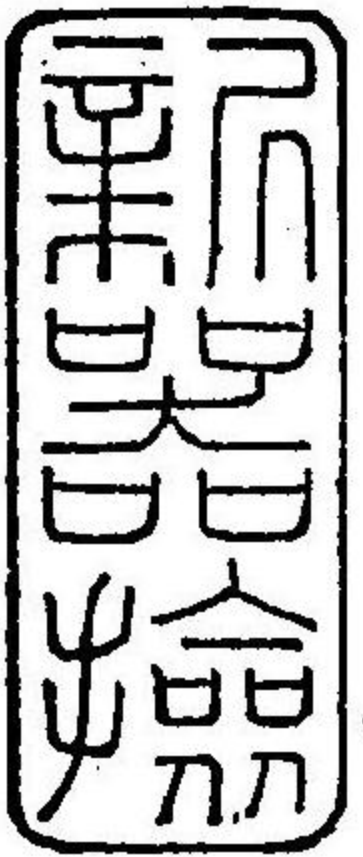
右ニ列記スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノ若クハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準シ取締ヲ要スヘキモノニテ此等ハ來ル明治三十二年ニ於テ凡テ檢定ヲ受クヘキモノトス而シテ此三器ニ就キ取締ノ廉々ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 度量衡器ニ證書若クハ證印アルヤ否

證書トハ二十四年(八月)農商務省令第十一號度量衡法施行規則第六條ニ依リ證印ヲ付シ難キ器物(假令ハ玻璃製量器若クハ極細密ノ衡器ノ如キ檢印ヲ附シ難キモノ)ニ附屬シタル證書ヲ云フ(全規則第七條ノ雜形參觀)證印トハ左記々載ノモノヲ云フ



衡器檢印ハ大中小ノ三種アリテ大ハ烙印中小ハ打込印トス



新器檢 印ハ大中小ノ三種アリテ大ハ烙印中小ハ打込印トス

換

檢字印ハ大小二種打込印トス

此他鯨尺ニ鯨字ノ打込印、曲尺ニ曲字ノ打込印水量辨ノ口縁ニ水量ノ烙印アリ



又西洋形權衡ニ限リ大藏印アリテ大小二種打込印トス



以上各種ノ證印アルモノハ(證書ヲ除ク)明治八年以降廿五年末迄ニ製作シタルモノニシテ今日之ヲ舊器ト稱ヘ卅二年定期檢定ノ際ハ廢棄セラル、モノトス但シ構造ニ於テ廿四年(八月)農商務省令第十一號構造ノ規定ニ適合シタルモノハ修履ノ上檢定ヲ受クルコトヲ得

廿九

ナガ

正

廢

此種ノ檢印アルモノハ(廿四年八月農商務省令第十一號第七條參觀廿四年法律第三號度量衡法ニ依リ製作シタル者ニテ今日之ヲ新器ト稱ヘ卅二年定期檢定ノ際差狂ナキモノハ引續キ使用スルヲ得



但シ「インチ」尺、「ゲレイン」秤、磅、「カンカン」等ニシテ本邦度量衡ノ名稱名位差クハ「メートル」系ノ名稱名位ヲ盛添ヘサルモノハ取締ノ限リニ非ス

右列記ノ證書若クハ證印ナキモノ及ヒ廢印又ハ消印アルモノハ政府ノ檢定ヲ經サル度量衡器ニシテ之ヲ營業ノ目的ニ使用スルヲ得ス犯スモノハ度量衡法ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

度量取調事項

量器取調事項

衡器取調事項

右各項ハ別ニ説明ヲ要セサルヘキニ依リ之ヲ略ス

其他法律及本縣取締規則ニ違背スルモノナキヲ否本項ハ別段説明ヲ要セサルヘント雖モ念ノ爲メ一二注意ノ點ヲ述ヘシ

度量衡器(尺度、斗量、權衡)ハ政府ノ免許ヲ受タル販賣者ニ非レハ之ヲ販賣スルヲ得サルモノナリ然ルニ金物行商人ハ往々僻在ノ村落ニ於テハ尺度ヲ販賣スルモノアル趣ニテ其器物ヲ點檢スレハ政府ノ檢査ヲ經サル不正ノ器物ナリト云フ此等ハ度量衡法違犯者ナルヲ以テ見當リ次第檢査ニ告發シモ假借スルコトナカルヘシ然ルニ之ヲ購買シタル者ニシテ正當ノ器物ト誤解シ之ヲ營業ノ目的ニ使用スルコトアランカ忽チ度量衡法ノ制裁ヲ受ケサルヲ得サルニ付此等ノ取締ハ平素深ク注意ヲ要ス

尺杖ハ明治八年度量衡取締條例ニ於テハ例外トシテ使用ヲ許シタレトモ度量衡法實施以後ハ此ノ例外ヲ許サス是亦豫テ注意ヲ加ヘ誤テ法規ニ觸ルモノナカラシムルヲ要ス

量器中食鹽、油、酢、牛乳等ヲ販賣スルニ使用スルモノハ往々古樹、箱樹、牛乳樹ト稱ヘ政府ノ検査ヲ受ケサル一種ノ器物ヲ使用スルモノアリト云フ此等ハ故ラニ犯罪ノ意アルニ非ルヘシト雖モ相當處分セサルヲ得サルニ付豫テ注意ヲ要ス

斗概ハ一定ノ種類アリテ政府ノ検査ヲ受ケタルモノニ非レハ使用スルヲ得サルモノナルニ竹製若クハ自家製作ノ斗概ヲ使用スルモノアリ是亦違法ノ所爲ナリトス

此他量器ニ故ラニ精糖若クハ油蠟ヲ塗着シテ其容量ヲ減シ又ハ弦鐵ヲ凹マシメ容量ヲ減スモノアリト云フ注意シテ取締ルヘシ

衡器ノ取緒鐵絲ヲ勝手ニ取替ヘ又ハ其差狂ヒアルヲ知リ更ラニ或ル重量ヲ添加シテ使用スルモノアリト云フ是等ノ所爲ハ度量衡法ノ違犯ニシテ多クハ行商者ノ使用スル木製秤秤ニ屬ス依テ臨檢ノ際ハ外見異狀ナキモノト雖モ一應直額ヲ檢シ桿ノ水平ヲ得ルヤ否ヲ檢シ水平ヲ得サルモノハ差狂ヲ生シアルモノトス

一 度量衡ニ關スル法規ハ左ノ如シ  
 刑法第二百二十七條乃至第二百三十條  
 明治廿四年法律第三號度量衡法

全廿六年二月法律第三號全法中追加  
 全廿四年八月勅令第七十七號度量衡器ノ制限等  
 全年十一月勅令第二百三號全上追加  
 全廿八年一月勅令第六號全上中改正  
 全三十年四月勅令第十六號度量衡器ノ制限等廿四年勅令第七十七號ノ  
 總改正  
 全廿四年八月農商務省令第十一號度量衡法施行規則  
 全廿六年二月全省令第一號全上追加  
 全年三月全省令第五號全上  
 全年四月全省令第九號全上  
 全廿八年一月全省令第一號全上  
 全年三月全省令第三號全上中改正  
 全年六月全省令第六號全上追加  
 明治廿九年十一月全省令第十號全上中改正  
 全廿八年七月長崎縣令第三十一號度量衡取締規則  
 全年全月長崎縣訓令第四十三號全上施行規程  
 一 參照ノ分  
 明治廿四年八月農商務省訓令第三十五號度量衡檢定所等ノ件  
 全廿六年三月全省訓令第四號全上追加  
 全廿五年七月全省訓令第二十二號度量衡檢定規程

全廿八年一月全省訓令第一號全上追加  
 全年六月全省訓令第十號全上  
 全廿五年十二月長崎縣告示第五百五十二號度量衡常置檢定所設置  
 全廿六年一月全第九號度量衡取締主任證書

### 第十五類 漁業

廿九年十月縣令三十一號ニテ圍點ノ通追加

二十八年四月縣令一五號ニテ十條ヲ追加シ圍點ノ通

●甲第一五號 明治十九年二月四日

鯨及鯨漁業ハ漁場區畫ノ要否ヲ問ハス自今總テ本廳へ出願スヘシ此旨布達候事  
 ●布達第貳八號 明治十九年六月十四日

漁業組合準則別冊ノ通相定ム因テ此準則ニ基キ組合ヲ設置シ規約ノ認可ヲ受ク可シ

但客年(十月)甲第八拾三號布達中漁業ノ項ハ删除ス從來認可ヲ受ケタルモノハ本文ニ準シ更ニ認可ヲ請フヘシ  
 (別冊)

#### 漁業組合準則

第一條 漁業(水産動物採捕ヲ併稱ス)ニ從事スル者ハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作リ當廳(上下縣郡ハ支廳)ノ認可ヲ請フヘシ  
 但漁業者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ特ニ縣廳(上下縣郡ハ支廳)ノ認可ヲ得組合ヲ要セサルコトアルヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目的トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 各捕漁(遠海漁業若クハ鮪網代捕鯨網ノ類)ノ種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業及ヒ採藻ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場及ヒ採藻場ノ相連帶スルモノハ必ス一組トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及ヒ事務所ノ位置
- 二 組合ノ目的
- 三 役員撰擧法及ヒ權限
- 四 會議ニ關スル規程
- 五 加入者及ヒ退去者ニ關スル規程
- 六 違約者處分ノ方法
- 七 費用ノ徵收及ヒ賦課法
- 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
- 九 漁具漁法及ヒ採藻ノ制限ヲ立ル事
- 十 漁場區域ニ關スル事
- 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項



二三年四月縣令四七號  
ニテ第五條ヲ改正本文  
通

第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ當廳(上下縣郡ハ支廳)ノ認可ヲ請フ可シ

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ更正セントスルキハ當廳(上下縣郡ハ支廳)ノ認可ヲ請フ可シ

第八條 他府縣ニ涉ル組合及ヒ聯合會ノ規約ハ當廳及ヒ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルキモ亦本條ニ準スヘシ

第九條 他府縣ニ涉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣ニ事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

第十條 組合費ノ收支豫算賦課徵收方法及決算ハ其時々之ヲ知事ニ報告スヘシ

●布達第四六號 明治十九年七月廿四日

各郡沿海ニ於テ他管人民來航漁業ヲ爲スモノハ日數ノ長短ニ關セス其地漁業組合規約ニ遵ハシメ該事務所ヨリ其村浦居込漁業ノ證票ヲ交附シ漁業ニ從事セシムヘシ

但證票交附ニ付相當ノ手数料收入スルヲ得ヘシ

●縣令第九號 明治二十年二月三日

沈沒品拾揚ノ爲メ潛水器使用規則別紙ノ通り相定ム

但從前許可ノモノト雖モ本則ニ據リ更ニ出願スヘシ

沈沒品拾揚潛水器使用規則

第一條 潛水器械ヲ以テ沈沒品ヲ拾揚ケント欲スルモノハ沈沒場所ノ細圖ヲ添テ所轄戶長役所并郡區役所ヲ經テ縣廳(上下縣ノ二郡ハ島廳)ヘ出願スヘシ

第二條 該器械ヲ使用スル場所ハ其地方漁業者又ハ村總代ニ於テ故障ナキ承認書ヲ願書ニ添付スヘシ

第三條 水産繁殖上ニ妨害ト認ムル時ハ禁止スヘシ

第四條 該器械ヲ使用スル時ハ其都度最寄警察署ヘ届出スヘシ

第五條 沈沒品ヲ拾揚ノ節ハ品目録ヲ添テ最寄浦役場ヘ届出スヘシ

但拾揚ケタル物品ハ漂流物取扱規則ニ依リ處分スルモノトス

第六條 該器械ヲ使用スルハ許可ノ日ヨリ三十日限リトス

第七條 該器械使用ノ際潮除堤塘ノ根石及ヒ海岸等ヲ動搖潰崩スルヲ禁ス

第八條 前條々ヲ違背シ他ニ妨害ヲ與ヘタル時ハ其損害ヲ辨償セシムヘシ

●縣令第八五號 明治二十年九月十日

諸漁場及ヒ採藻場區畫貸渡ノ義六月ヲ以テ期月ト定メ候旨明治十年本縣甲第百貳拾七號ヲ以テ相達置候處今後三月ヲ以テ期月ト相定メ候條即今貸渡中ノ箇所六月ニテ滿期ノモノハ翌年三月ヲ以テ滿期ト心得ヘシ

但本文甲第百貳拾七號達中第三項ハ取消ス

●縣令第三六號 明治廿六年九月十三日

眞珠貝漁獲取締規則左ノ通相定ム

眞珠貝漁獲取締規則

第一條 眞珠貝ハ毎年六月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ漁獲スルヲ禁ス

第二條 眞珠貝生殖ノ海面ニ於テハ其繁殖ノ爲メ毎町村ノ沿岸ニ一ヶ所若クハ二ヶ所ノ禁漁區ヲ設ク

前項禁漁區ノ區域内ニ於テ第一條ノ禁漁期ニ拘ラス常ニ眞珠貝ヲ漁獲スルヲ禁止ス但特別ノ命令ニ依リ漁獲ヲ許スルハ此ノ限リニ在ラス

第三條 前條ノ禁漁區ハ島司又ハ郡長ニ於テ之ヲ撰定シ知事ニ上申スベシ

第四條 禁漁區ハ縣ノ告示ヲ以テ其區域ヲ公示ス

第五條 眞珠貝ノ禁漁區ヲ設ケタル海面ニ於テハ眞珠貝ノ附着スヘキ石類ヲ取除キ又ハ金桁綱ヲ使用スルヲ禁止ス

第六條 禁漁區ノ區域内ニ於テハ海底ヲ攪拌スヘキ漁具ヲ使用スルヲ禁止ス

第七條 縱壹寸五分(曲尺)以内ノ眞珠貝ハ之ヲ漁獲スルヲ禁止ス

第八條 本規則第一條第二條第二項ヲ犯ス者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本則第五條第六條第七條ヲ犯ス者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

参照

二十六年九月告示一四五號(禁漁區)全十月訓二六、二七、二八號(漁業組合ヲ設クヘキヲ)全十二月告示一八八號二十七年九月告示二九號二十九

年四月告示一〇一號三十年五月告示五一號(禁漁區)

●縣令第二八號 明治廿七年四月廿三日

明治二十三年(七月)縣令第六拾七號左ノ通改正ス

本縣沿海漁業組合設置ノ漁場ニ於テ漁業(水産ノ動植物採藻ヲ併稱ス)ヲ營マントスルモノハ縣ノ内外人ヲ問ハス總テ其地漁業組合ニ加入シ規則ニ遵フベシ

但シ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其地漁業組合ニ加入スルヲ要セスト雖モ規則ニ定メタル制限禁止ノ事項ハ之ヲ遵守スヘシ

本令ニ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第六號 明治廿八年三月六日

管下沿岸ニ在テ潜水器械ヲ使用シ漁業ヲ營ムコトヲ禁止ス犯スモノハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス明治十五年(十月)長崎縣布達甲第百五十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●縣令第五七號 明治卅一年十月三日

漁業採藻業取締規則左ノ通相定ム

漁業採藻業取締規則

第一條 漁業若クハ採藻業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ營マントスルトキハ本則ニ依リ別紙書式ノ願書ヲ調製シ出願ノ上免許ヲ受クヘシ

一 位置ヲ定メテ漁具ヲ常設スルモノ

二 位置ヲ定メテ特種ノ裝置又ハ方法ヲ施シ漁業ヲ營ムモノ

三 位置ヲ定メテ魚介苔藻ヲ養殖スルモノ

第二條 五名以上共同シテ出願センスルトキハ總代ヲ設ケ委任狀ヲ添付スヘシ

第三條 免許年限ハ捕鯨及魚介苔藻ノ養殖ニ係ルモノハ拾ヶ年其他ハ五ヶ年以内トス

第四條 免許年限中新ニ他人ヲ加入セシムルヲ得ス但特別ノ事情アルモノニシテ知事ニ於テ特ニ許可スル場合ハ此限ニアラス

第五條 相續ニ依リ營業人ノ名義ヲ更正セントスルトキハ戶籍簿本ヲ添へ出願スヘシ

第六條 第一條ノ免許ニ依リ得タル營業權ハ如何ナル名義ヲ以テスルニ拘ラス賣買讓與貸借ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルヲ得ス

第七條 引續キ二營業期節間其業ヲ營マサルトキハ免許ノ効ヲ失フモノトス

第八條 免許年限中廢業セントスルトキハ其旨届出ツヘシ

第九條 繼續營業セントスル者ハ滿期前ニ出願スヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ無償ニテ營業免許ヲ取消シ又ハ制限スルコトアルヘシ

一 公益上妨害アリト認ムルトキ

二 第四條第五條第六條ニ違犯スルトキ

附 則

第十一條 本則ハ明治卅一年十一月一日ヨリ施行ス

第十二條 古來區畫使用ノ慣行アル漁場ニ於ケル漁業採藻業ハ第一條各號ニ該當セサルモノト雖特ニ免許スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ第一條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十三條 明治廿七年(二月)縣令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス但該令ニ據リ免許ヲ得タルモノハ期限中尙其効ヲ有ス

書式 (用紙美濃字体楷書)  
新規(又ハ繼續)營業願

何郡何市町村何郷又ハ名免許何々

何漁業(漁具ノ名稱又ハ肥料藻)壹ヶ所 豎何間 何坪  
(等其種類ヲ詳記スヘシ) 全上 横何間 全上 何坪

合計 何ヶ所 全上 何坪

營業期節 自何月 至何月 何ヶ月

免許年限 自何年何月 至何年何月 滿何ヶ年

右營業仕度候間御免許被成下度別紙繪圖面(委任狀)ヲ屬シ此段奉願候也

何郡何市町村番戶族籍(惣代ハ何某外何名惣代ト記シ寄留者ハ本籍ヲモ併記スヘシ)

年 月 日 何 某印

縣知事宛(對馬島廳下ハ島司宛)  
(繪圖面ニ記入スヘキ事件)

一 出願人ノ姓名捺印

二 場所ノ模様(常設漁具ハ布設ノ方向)豎横間數

三 近傍漁場採藻場ノ位置並距離

四 沿岸字不動基點ノ名稱及距離

五 方位

●縣令第六號 明治卅二年三月六日

明治三十一年(十月)縣令第五七號漁業採藻業取締規則ニ依ル願書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 特種ノ裝置又ハ方法ヲ施シ漁業ヲ營ムモノハ裝置及其圖面并漁法
- 二 魚介苔藻ヲ養殖スルモノハ養殖并採取ノ方法及養殖場構造ノ設計書
- 三 取締規則第十二條ニ依ルモノハ古來ヨリ區別使用ノ經歷書
- 四 他府縣他郡市ノ者ニシテ出願スル場合ハ本籍市町村長ノ身元証明書

●告示第一〇二號

明治廿八年七月十七日

在朝鮮國釜山水產會社ニ於テ其筋ノ認可ヲ得暴風警報信號標ヲ設置シ本月一日ヨリ實施候條全國近海出稼漁業者へ通知方朝鮮近海漁業聯合會長村田保ヨリ申出ツ尤暴風警報信號實施要領ハ左ノ通

暴風警報信號實施要領

- 第一 警報信號ハ釜山居留地南濱町一番地則チ釜山水產會社地先海岸ニ於テ之ヲ掲クヘシ
- 第二 當會社ハ警報ヲ受クル毎ニ晝間ハ赤色ノ球ヲ夜間ハ赤色ノ玻璃燈ヲ高サ七間ノ竿頭ニ掲ケテ信號ト爲ス
- 第三 此信號ヲ掲クルト同時ニ豫メ其側ニ設ケアル揭示場へ警報ノ全文ヲ揭示スヘシ
- 第四 警戒ヲ解ク旨ノ報知アリタルトキハ直ニ信號ヲ卸スヘシト雖トモ其報知ナキ間ハ最初信號ヲ掲ケタルトキヨリ四十八時間揭示シ置クモノトス
- 第五 警報ハ中央氣象臺ヨリ到來シタル電報ニ據ルモノニシテ該電報ハ警戒ヲ

受クル地ノ近傍凡廿五里以内ニ於テ大氣ノ大變アラントスルヲ報セラルトニ止リ當地方ニ限リ起ラントスル小變動ニ至リテハ別段ニ報セラルトコトナシ故ニ當會社ニ於テ掲クル信號モ亦其報ヲ受ケタル時之ヲ掲クルニ止ルモノトス

●告示第二〇號

明治廿九年一月二十日

長崎縣水產傳習所規則

- 第一條 水產傳習所ハ水產業ノ改良進步ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 水產傳習所ハ管内數箇所ニ設置ス但シ位置及教授ノ日割ハ其時々告示スヘシ
- 第三條 水產傳習所ハ漁業ノ季節ニ應シ開始スルモノトス
- 第四條 水產傳習所ハ其所在地ノ重要水產ノ實物ニ就キ其製造方ヲ教授スルモノトス
- 第五條 生徒ハ左ノ諸項ヲ具フルモノニ限ル
  - 一 管内ニ住居スルモノ
  - 二 年齡十七歲以上ノモノ
  - 三 品行方正ノモノ
  - 四 平假名又ハ片假名書方ヲ知り得タルモノ
- 第六條 水產傳習所ハ現業ノ餘暇教師ノ意見ヲ以テ其地方ニ適切ナル水產學術ヲ教授スルコトアルヘシ
- 第七條 生徒ノ數ハ一箇所四十名ヲ以テ定限トス

三十年四月告示第六八號ニテ本條圈點ノ二字更正アリ

但シ志願者定限ニ超過スル場合ニ於テハ員外生トシテ入所ヲ許スコトアル

第八條 卒業期ハ三十日間トス

第九條 卒業期ノ終リニハ試験ヲ行ヒ合格者ハ卒業證書ヲ授與シ成績特ニ善良ナルモノニハ優等證書ヲ附與ス

第十條 卒業生徒ハ其修得シタル事柄ヲ實物ニ應用シ且當業ヲ誘導スルノ義務アルモノトス

●告示第一四五號 明治廿六年九月廿九日

本年(九月)縣令第三十六號第三條ニ據リ西彼杵郡東彼杵郡ニ於テ撰定セル真珠貝禁漁區左ノ通但其原圖ハ本廳ニ藏置ス

西彼杵郡

- 喜々津村字北大島稻荷谷海岸ヲ距ル三百間ノ海面字小會根(東西平均南北同七十間)三千八百五十坪
- 大草村字傘瀬海面(東西平均百四十間南北同二十五間)三千五百坪伊木力村字鹿島南海面(東西平均二十六間南北同四十八間)千貳百四十八坪
- 長與村字大屋崎海面(東西平均八十八間南北同七十五間)六千六百坪時津村字釜島海面字日並會根ノ壹部(東西平均八十間南北同十六間)四千四百八十坪村松村字岩崎海面(東西平均四十二間南北同百〇七間)四千四百九十四坪
- 長浦村字會根ノ鼻海岸ヲ距ル五十五間ノ海面字白瀬(東西平均七十四間南北七十五間)五千五百五十坪

總岳村字山ノ串海面(東西平均五十間南北石六十間)三千坪

同村字白崎海面(東西平均七十間南北同三十六間)二千五百二十坪

大串村官ヶ崎海面(東西平均五十五間南北同五十六間)三千二十五坪

同村字八木原海面字輕石(東西平均八十五間南北同九十五間)八千七十五坪

東彼杵郡

西大村字古賀崎海面字エイ會根(東西平均百拾五間五合南北百間五合)壹萬千六百八坪

竹松村字段ノ鼻海面字段ノ鼻會根(東西平均百五十九間南北同九十三間)壹萬四千七百八十七坪

彼杵村字島田海面字島田會根(東西平均四拾四間南北同三十七間)千六百貳拾八坪

川棚村字牛渡ノ海面牛渡會根(東西平均八拾三間南北同百拾貳間五合)九千三百三拾八坪

同村字惣津浦字長瀬海面ノ一部字太田會根(東西平均四拾間五合南北同九拾四間五合)三千八百貳拾七坪

宮村字久津浦前海面字長崎鼻(東西平均貳拾壹間南北同六拾三間)千三百貳拾三坪

江上村字大島南海面字イカズ(東西平均百拾壹間五合南北同八拾三間)九千貳百五拾五坪

同村字牛ノ浦海面(東西平均七拾貳間五合南北同四拾壹間五合)三千九坪

崎針尾村字錐崎海面而錐崎會根(東西平均六拾四間五合南北同九拾間五合)五千八百三拾七坪  
日字村字白崎海面字トツボ瀬(東西平均七拾四間五合南北同六拾壹圓)四千五百四拾五坪

●告示第一八八號 明治廿六年十二月十三日  
本年(九月)縣令第三十六號第三條ニ據リ下縣郡ニ於テ撰定セル眞珠貝禁漁區左ノ通リ

但其原圖ハ本廳ニ藏置ス

下縣郡

- 一大船越村字ムツロ海岸(小名)ムツロ浦海面(東西六十間南北七十間)四千貳百坪
- 一全村字コノセ海岸(小名)元コノセ浦海面(東西六十間南北百間)六千坪
- 一大山村字和田ノ浦海岸(小名)和田ノ浦陽海面(東面貳百間南北廿五間)五千坪
- 一全村字家深浦海岸(小名)赤瀬浦海面(東西七十間南北六十間)四千二百坪
- 一小船越村字西漕手海岸(小名)西漕手浦海面(東西六十間南北四十間)貳千四百坪
- 一濃部村字網掛海面(東西六十間南北百廿間)七千貳百坪
- 一濃部村字キノ島周圍海面(東西六十間南北七十間)四千貳百坪
- 一全村字草島海岸(小名)「草島ノワタ」ヨリ東西三十間「リヨウコノワタ」迄南北百五十間(四千貳百坪)

- 一糸瀬村若松崎海面(東西十五間南北八十間)千貳百坪
  - 一仁位村字ハロウ海岸(小名)ゴラス(東西四十間南北十二間)四百八十坪
  - 一全村字和宮海面(東西十五間南北五十間)七百五十坪
  - 一鷄知村字日向樽ノ濱海岸(小名)長瀬海面(東西二十間南北六十間)千貳百坪
  - 一全村字カシズ海岸(小名)カシズ浦海面(東西四十間南北四十間)千六百坪
- 以上拾三ヶ所

●告示第二九號

明治廿七年二月十九日

明治廿六年(九月)本縣令第三十六號第三條ニ依リ北松浦郡ニ於テ撰定セル眞珠貝禁漁區左ノ通

但其原圖ハ本廳ニ藏置ス

北松浦郡

- 一福島村里免字平瀬(自第壹號標至第四號標)海面千六百拾九坪餘
  - 一全村鹽濱免字ヲカセヨ(自第壹號標至第四號標)海面八百六拾五坪餘
- 告示第一〇一號 明治廿九年四月十日
- 明治廿六年(九月)本縣令第三十六號第三條ニ依リ壹岐郡ニ於テ眞珠貝禁漁區左ノ通撰定セリ
- 但其原圖ハ本廳ニ藏置ス
- 一初山村字鋸崎海岸ヲ距ル五十六間ノ海面ニ於テ(東西八間南北十五間)百貳拾坪
  - 一全村字坪浦海岸ヲ距ル貳拾間ノ海面ニ於テ(東西五間南北六十間)三百坪

●告示第九一號 明治三十年五月廿五日

明治廿六年(九月)本縣令第三十六號第三條ニ依リ壹岐郡ニ於テ真珠貝禁漁區左ノ通撰定シタリ但原圖ハ本廳ニ藏置ス

壹岐郡田河村大字深江沿海

字長手ヨリクグルマテ

壹五百間

横廿間

壹萬坪

全上諸吉沿海字神ノ崎

壹三百間

横廿間

六千坪

全上字牧ノ崎ヨリ犬上崎マテ

壹五百間

横廿間

壹萬坪

全上字タコセ及ヒラセ周圍

壹四百間

横廿間

八千坪

●訓令第二六號

明治廿六年十月十六日

島廳

真珠貝漁業取締ノ義本年(九月)第三十六號ヲ以テ縣令發布候ニ付テハ自今該漁業ヲ爲サントスルモノハ組合ヲ設ケ規約ヲ作り島司ノ認可ヲ請ケシムベシ

但明治二十二年(七月)達乙第九七二號ハ廢止ス本文規約認可願出候飾ハ本廳へ經伺ノ上認可ヲ與フベシ

●訓令第二七號

明治廿六年十月十六日

北松浦郡役所

真珠貝漁業取締ノ義本年(九月)第三十六號ヲ以テ縣令發布候ニ付テハ自今該漁業ヲ爲サントスルモノハ組合ヲ設ケ規約ヲ作り縣知事ノ認可ヲ請ケシムベシ

但明治廿二年(七月)達乙第九七二號ハ廢止ス

●訓令第二八號

明治廿六年十月十六日

北高來 南高來 南松浦 壹岐 石田 各郡役所

真珠貝漁業取締ノ義本年(九月)第三十六號ヲ以テ縣令發布候ニ付テハ自今該漁

業ヲ爲ントスルモノハ組合ヲ設ケ規約ヲ作り縣知事ノ認可ヲ請ケシムベシ

### 第十六類 鑛業

●乙第一九五號

明治十一年十月廿二日

各區々戶長

十四年十月乙一〇五號  
及十六年一月乙一號ニ  
テ進達期限中一項ニ  
ニ改正追加本文通

鑛山借區稅及坑業明細表進達期限ノ義ハ六年七月太政官第二百五拾九號公布ノ次第モ有之候處兎角坑業人共ニ於テ等閑ニ押移ル者モ有之哉ニ相聞エ夫レ爲メ其筋進達ノ期ヲ誤リ候ノミナラス數回ノ督責ヲ煩ハシ候儀不少甚タ不都合ノ至ニ候條以來別紙期限ノ通無違々調達候様可取計若シ此後等閑ニ相心得候者於有之ハ斷然坑法ニ照シ處分可致儀モ可有之候條此旨篤ト坑業人共へ説示可致此旨相達候事

(別紙)

坑山借區稅及坑業明細表縣廳へ進達期限

一坑山借區稅

一月三十一日マテ取纏メ一人別借區許可年月ノ順ニ仕譯書ヲ作り其不納者ハ仕譯書ヲ朱書シテ券狀ヲ添ヘ二月十日限上納決算スベシ

一月三十一日前廢業出願ノ分ハ該年稅徵收スルニ及ハス

一坑業明細表

前半年表 該年七月三十一日限  
后半年表 翌年一月三十一日限

●達農第五六八號

明治二十年五月九日

對馬島廳 郡區役所

石炭消費高左ノ書式ニ據リ取調毎年三月限リ報告スヘシ

但明治十八、十九兩年分ハ本年六月十五日限り報告スヘシ

自明治何年一月至明治何年十二月 石炭及焦炭消費高調査

郡區名

一役所用	石炭	内地産	和何斤
	焦炭	内地産	全
一何所何器機用	石炭	内地産	全
	焦炭	内地産	全
一何所何製造用	石炭	内地産	全
	焦炭	内地産	全
一船舶用	石炭	内地産	全
	焦炭	内地産	全
合計	石炭	内地産	全
	焦炭	内地産	全

一船舶用ハ其所有本社所在地ノ郡區役所ニ於テ調査スヘシ  
●達甲第一五四號 明治廿三年八月十八日 島廳 郡役所 戸長役所 町村役場

本年法律第五五號第五章第二十二項ニ依リ土地測量認可願出候節ハ町村長郡長又ハ戸長島司ハ願書受理ノ後各二日以内ニ上司ニ進達スヘシ

訓令第一七號

明治廿九年三月廿一日

島廳 郡役所

戸長役所 市役所 町村役場

他人ノ探掘セル鑛石ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂鑛ヲ製煉スル者ハ左ノ條項ニ據リ取扱フヘシ

一新ニ從事スル者アル者ハ製煉場ノ位置、製煉人ノ住所、族籍、姓名ヲ其都度市長ハ直接當廳ヘ戸長町村長ハ島司郡長ヲ經由シ報告スヘシ但廢業其他異動ヲ生シタルキ亦全シ

一市町村長又ハ戸長ハ製煉人ヲシテ左ノ雛形ニ據リ一ケ年ノ工程ヲ取調ヘ翌年二月十日限り差出サシメ市長ハ直接當廳ヘ戸長町村長ハ島司郡長ヲ經由シ差出スヘシ又製煉人ナキハ同手續ニ據リ其旨同日限り報告スヘシ但鑛業條例ニ掲ケアル鑛業人ト雖モ買入鑛石ニ係ル分ハ亦同シ

雛形 (用紙美濃紙)

製煉場位置		製煉人		住所族籍氏名印
越	高	越	高	
明(何)年(何)		製		
買	入	出	製	
高	越	高	越	



鑛製煉工業明細表

事記	品		高	殘	賣	販
	高	殘				

注 意

金銀ハ匁、錫ハ斤、鑛石錢ハ貫ヲ單位トス  
 自己ノ採收セル砂鑛ヲ製煉スル場合ニ於テモ買入レタルモノト同一ニ買入  
 高ノ欄ニ記入スヘシ製出高ハ其品類ニ依リ各別ニ記入スヘシ

訓令第三四號

明治三十年五月十日

島廳 郡役所 市役所

鑛業會社ニ於テ其事業上専用ノ爲軌道條例ニ依ラス道路堤塘上ニ軌道ヲ布設セ  
 シコトヲ出願シタル者アルトハ其道路又ハ堤塘ノ費用ヲ負擔スル市町村會ノ意  
 見ヲ聞キ設計書圖面ヲ添付シ工事創竣ノ期使用期限等ヲ明ラカニ當廳ニ進達  
 スヘシ

訓令第四一號

明治卅二年四月廿八日

島廳 郡役所 市役所 町村役場

鑛業及砂鑛採取出願調査手續  
 明治二十七年(十月)訓令第一一五號鑛業及砂鑛採取出願調査手續左ノ通改定ス

- 一 鑛業及砂鑛採取出願地ノ地名、地種目ノ異同、出願地ニ鑛業條例第二十四條及第二十五條ニ掲ケタルモノ、有無又ハ出願地内ノ土地所有者ニ關スル事實ニ付キ鑛山監督署長ヨリ事實ノ取調ヲ請求シタルトハハ遲滞ナク其事實ノ報告ヲナスヘシ
- 二 島司郡長ニ於テ鑛業及砂鑛採取ニ關スル書類ヲ當廳ヨリ受取タルトキハ直ニ之ヲ戶長町村長ニ下付スヘシ
- 三 市長ハ當廳ヨリ戶長町村長ハ島司郡長ヨリ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ試掘、探堀、採取ノ事業公益上有害ナルトキ又ハ出願地ノ字名等著シク公傳ニ相違スル出願ニ付意見アルトキハ書類受理ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ作り市長ハ直接ニ戶長町村長ハ島司郡長ヲ經由シ知事ニ差出ヘシ
- 四 島司郡長ニ於テ前項ノ意見書ヲ受取リタルトキハ其當否ヲ檢査シ當廳ヨリ書類ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ上申スヘシ  
 但戶長町村長ト意見ヲ異ニセザルトキハ調印ノ儘進達スルモ妨ケナシ
- 五 特別ノ理山ニ依リ三項四項ノ期日内上申シ難キトキハ期日内ニ其理由ヲ具申スヘシ

# 第十七類 交通

●甲第五三號 明治十七年五月十九日

道路開設修繕等ノ爲メ電信ノ線路ヲ變換シ又ハ電信柱ヲ移轉セシメテ請求スル  
ルハ其向ニ於テ實地ヲ調査シ不得止ニ出ルモノハ多少ヲ論セス轉換可取計候得  
共其費用ハ都テ請求者ニ於テ支辨可致義ト可相心得旨其筋ヨリ達ニ相成候條此  
旨布達候事

但家屋構造又ハ店頭商業ノ支障等ニテ電信柱ノ移轉ヲ請求スル分ハ此限リニ  
アラス

●縣令第二一號 明治廿一年二月廿四日

道路橋梁渡津等ニ於テ陸軍及海軍召集ニ際シ令狀携帯ノ者并ニ令狀配達脚夫ニ  
ハ賃錢請求スルテ許サス

●告示第二八號 明治廿九年一月廿七日

西彼杵郡浦上山里村字外開ト全郡淵村字法人畑トノ中間ヲ通流スル築川へ私費  
ヲ以テ橋梁ヲ架設シ該費用償却ノ爲メ明治四十四年一月二十六日マテ滿十五年  
間左記ノ通橋錢徵收ノ義願出タルヲ以テ許可シタリ

人一人ニ付 金五厘  
車一輛ニ付 金壹錢  
馬牛一頭ニ付 金壹錢

廿七年七月縣令第四四  
號ニテ圍點ノ三字追加  
アリ

十三年八月乙第一四一  
號達ニテ圍點ノ文字追  
加

●乙第八八號 明治十三年四月廿三日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道共自今軍隊々伍ヲ組ミ行進ノ節ハ其賃  
錢請求不相成候條夫々々達方可取計此旨相達候事

郡 區

●乙第七號 明治十五年一月十八日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩  
ト雖用制服着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成候條其筋ノ者ハ無洩達示スベシ此  
旨相達候事

郡區役所

●乙第四〇號 明治十五年三月廿四日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便  
物遞送集配(特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スルトキ)ノ時ニ限リ賃錢請  
求不相成候條兼テ許可セシ願人共ハ達示スベシ此旨相達候事

郡區役所

●乙第四號 明治十六年一月十二日

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達(特ニ配達人タル  
ヲ証スル服ヲ着シ配達スルトキ)ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條免許人共ハ無  
洩達シ置クベシ此旨相達候事

郡區役所

●乙第九五號 明治十六年七月七日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便  
物遞送集配(特ニ縣達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スルトキ)ノ時ニ限リ賃錢請  
求不相成旨客年三月縣令乙第四十號ヲ以テ相達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ  
印鑑相渡置候ニ付右所持ノモノハ制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成候條其

郡區役所

筋ノ者へ無洩達示スヘシ此旨相達候事

二寸五分

何第 何國 何號

何地郵便局脚夫

何ノ誰

明治十六年

月 日

何何何 何何何 何何何 何何何

何地郵便局

此ノ印ハ會ヲ驛遞局ヨリ各郵便局へ渡アル局印

●訓令第七七號 明治二十三年五月十七日 島司各郡市長宛

民有地電信柱手當金請求方本年遞信省第六拾八號ヲ以テ告示相成候ニ付テハ右請求書ハ其應ニ於テ取纏メ期限通り進達セラルヘシ

●達甲第一七九號

明治二十三年十月十八日

島廳 郡役所 市役所

民有地電信柱敷地手當金臺帳調製候ニ付敷地有之向ハ左記雛形ニ倣ヒ取調來ル十一月限差出スヘシ

但向來位置及ヒ地主變更ノ節ハ其都度報告スヘシ

(用紙美濃紙)

○印ハ朱書

民有地電信柱敷地調

電信柱番號	全柱區別	本 數	地 目	手當金額	地主姓名
何 號	本 柱		田若クハ畑		何 某
何 號	扣柱線		山若クハ野		何 某
何 號					官有地
計		何百何拾何本		錢金何拾何圓	何 名

備考

本表ハ明治二十三年九月現在ニ據ル

手當金額ハ本年法律第五十八號第六條ニ據ル

本表ハ柱番號順ニ列記スヘシ

官有地ニ建設ノ分ハ計ニ省クヘシ

●達甲第六七號

明治廿四年六月五日

島廳 郡役所 市役所

人民私費ヲ以テ架設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治十六年乙第四號ヲ以テ相達候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノモノハ制服ノ着否ニ

拘ハラス賃錢請求不相成旨其筋ヨリ訓令有之候ニ付此段更ニ免許人ニ示達スヘシ

印鑑雛形 尺曲 寸二

第 號
何國
○ 何地郵便電信(電信)局
集配人(又ハ何地電信
取扱所配達人)
何ノ 誰

二寸五分

○ 明治年月日
何國
○ 何地郵便電信
又ハ 電信取扱所

●訓令第一一〇號

明治廿七年九月十四日

島縣 郡役所 市役所

電信線沿道人民ニ於テ電信線ニ接近シタル樹木伐採スルニ該リ往々電信線ニ障害ヲ來シ不少手數ヲ要シ候旨ヲ以テ自今右等ノ所爲ヲナス場合ニ於テハ豫メ熊本郵便電信局若クハ該線路擔任電信建築技手ニ直接届出又ハ線路看守工夫ヲ經テ申報シ當該官吏ノ立會ヲ乞タル上伐採スヘキ旨當該官廳ヨリ通牒有之候條不都合無之様關係人へ相示スヘシ

●訓令二第六四三號

明治廿九年七月九日

佐世保鎮守府所管軍用電信柱手當金ハ是迄一町村壹名ノ惣代ヲ以テ請求來候處不突合等ノ爲メ往復ヲ重テ自然整理滯滞ヲ來シ候ニ付自今請求書(書式從前ノ通)ハ郡役所(島廳)ニ於テ調査ノ上其管内ヲ一纏ニシ之ニ證明書ヲ付シ該鎮守

府監督部へ廻送候様該部長ヨリ照會越候ニ付右様取計ハルヘシ  
右訓令ス

(東西彼岸 南北松浦 壹岐各郡長 對馬島司)宛

●明治三十二年三月八日

各課(知事官房ヨリ通牒

今般本廳官房内ニ電話架設相成候ニ付テハ各課ニ於テ電話使用ノ際ハ電話室ニ揭示セル電話心得ヲ服膺スルハ勿論各課毎ニ電話簿ヲ備置キ電話ノ要領ハ詳細記入シ置カルヘシ

右知事ノ命ニ依リ及通牒候也

●縣令第九二號

明治二十三年十二月廿五日

西彼杵郡 長崎市

長崎港内船舶爆場取締規則左之通規定ス

長崎港内船舶爆場取締規則

第一條 爆場使用允許ヲ得ントスル者ハ書式ニ倣ヒ願出ヘシ

但水利上其他支障ノケ所ハ許可セス

第二條 爆場使用允許ヲ得タル者ハ「タデカス」收拾ヒ便ナル爲メ其區域内ノ泥土或ハ小石ヲ除去シ地盤ヲ堅メ若クハ敷石ヲナスヘシ

但地盤堅硬ナル場所ハ敷石ヲナサハルモ妨ケナシ

第三條 爆場使用允許ヲ得タルモノハ其地名及ヒ借地區域縱横間數使用年限許年月使用人住所姓名ヲ掲ケタル標木ヲ該所ニ建設スベシ

第四條 爆場使用毎ニ必ス其「タデカス」ノ掃除ヲナシ苟モ港内ニ流出セシメサルヲ要ス

第五條 燈塔使用許可ノ區域内ト雖モ滿潮ノ節ハ船舶ノ繫留ヲ拒ムヲ得ス  
 第六條 前條ニ違背スルモノハ燈塔使用許可ヲ取消ス  
 願書式  
 何那何村字何々地先  
 一濱地何拾何坪

此一ケ年使用料金幾許但一坪ニ付  
 右ハ船舶燈塔ノ爲メ前記ノ濱地本年ヨリ來ル何年十二月迄五ケ年使用御允許  
 被下度御許可ノ上ハ長崎港内船舶燈塔取締規則遵奉可仕條別紙圖面ヲ屬シ此段  
 奉願候也

何那何村何番戶  
 願人  
 保証人

右村長

知事宛

縣令第二二號

明治三十二年四月十九日

明治二十九年(十二月)遞信省令第二五號ニ依リ船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ  
 定繫所ヲ移轉シ島廳若シクハ郡市役所ノ管轄ヲ變更スルニ至リタルトキハ三十  
 日以内ニ舊管轄廳ニ船鑑札ヲ返納シ且ツ件名書ヲ添付シテ其證明ヲ申請シ舊管  
 轄廳ニ於テ件名ノ證明ヲ付與シテヨリ三十日以内ニ之ヲ添付シ新管轄廳ニ船鑑  
 札ノ下付ヲ申請クヘシ

●告示第一九六號

明治廿六年十二月廿二日

登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若シクハ外國ヨリ買入レタルモノアル  
 トキハ海上運輸ニ係ル調査ニ必要ノ諸件ニ關シ海軍參謀部ニ於テ該船舶ニ臨檢  
 シ調査ヲ遂ケ且ツ既ニ該調査ヲ了リクル船舶ト雖モ爾后其構造ヲ變更シタル等  
 ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査スル旨其筋ヨリ通知アリタルニ付該船所有者ハ此  
 旨豫テ心得置クベシ

●告示第四九號

明治廿七年三月廿三日

私設航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止セントスルトキ  
 ハ明治廿二年遞信省令第二號私設航路標識取締規則第二條ニ依リ其實施期限二  
 ケ月前届出ヘキ筈ニ候處若クハ天災ノ爲メ航路標識ノ毀損ニ及ヒ之ヲ停止シタ  
 ルトキハ速ニ當廳ヲ經由遞信大臣ヘ届出ヘシ

●告示第一九一號

明治廿七年十二月廿四日

下縣郡大船越海峽渡費償還ノ爲メ來ル明治廿八年一月一日ヨリ向廿ケ年間通  
 航ノ船舶ヨリ左ノ通帆別錢徵收ノ儀許可シタリ  
 五拾石未満 一艘ニ付 金五錢

五十石以上 全  
貳百石以上 全

金拾錢  
金貳拾錢

●告示第一〇七號

明治廿九年四月十七日

本年四月一日逕信省令第三號登簿船免狀取扱規則第二條ニ依リ願書ニ添付ス可キ件名書ハ左ノ例ニ倣ヒ記入ス可シ

件名書記入例

- 一 船名  
船名ニハ假名ヲ附スヘシ  
何國何港又ハ何郡何町村
- 一 一定繫場  
道區府縣名
- 一 一本船管轄縣名  
暗車双暗外車蒸氣又ハ風帆
- 一 船名ノ種類  
何府
- 一 甲板ノ層數  
何本
- 一 橋ノ數  
鋼製鐵製木製木鐵製(コンホジツト)又鋼ト鐵ト併用シタルモノハ鋼鐵製
- 一 船體ノ材料  
全上
- 一 船骨ノ材料  
シツプ、バーク、パークンタイン、ブリツグ、ナルガンタイ
- 一 網具ノ裝置  
ン、スクナト、スルーア等
- 一 船尾ノ形狀  
圓形橢圓形方形
- 一 製造地名  
何國何郡何市何町村又ハ他地何造船所(外國ノ地名ハ國字及外國文字ニテ記ス可シ)

一 製造年月	何年何月
一 造船工長氏名	氏名ヲ記シ假名ヲ附ス可シ(外國人ナルキハ國字及外國文字ヲ記ス可シ)
一 船ノ原名	最初製造シタルキノ名(外國人ヨリ取得シタルモノハ國字外國文字ヲ記ス可シ)
一 舊船免狀番號	第何號
一 船主氏名住所	船主二名以上ナルキハ其總代一名ノ住所會社ナルキハ社名及其所在地其他ノ法人ナルキハ管理人ノ氏名住所ヲ記シ且ツ氏名及社名ニハ假名ヲ附ス可シ
一 壹ケ年ノ船稅	何圓何錢
一 量噸甲板上最大ノ長何尺	何尺
一 內法リ最大ノ幅	何尺
一 艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ內板ニ至ル深	何尺
一 量噸甲板下部ノ噸數	何噸
一 量噸甲板上諸部ノ噸數(若シアレハ)則チ	
一 甲板間ノ場所何噸	三層以上ノ船ニ於テハ上甲板ト量噸甲板間ノ場所 但二層以下ノ船ニ在テハ甲板間ノ場所ヲ有セス
船尾室	何噸 上甲板ニ於ケル船尾ノ部ニ於テ設ケタルモノ
艙室	何噸 上甲板中央部(船首ヨリ船尾ニ至ル中央線)若クハ中

央線ノ近傍ニ設ケタルモノニシテ其外圍ヲ回歩シ得ルモノ

其他ノ場所 何噸 船首室厨室等總テ蔽圍セシ場所

一總噸數 何噸

内除去ス可キ噸數

機關室噸數 何噸

乘組人常用室噸數 何噸

一登簿噸數 何噸

一機關ノ數 何個 汽笛ノ數ニ依リ

一公稱馬力 何馬力

備考 尺以下ハ分位噸以下及馬力以下ノ端數ハ二位ニ止ム

●告示第一一九號 明治廿九年五月八日

登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若クハ外國ヨリ買入タル者ハ海軍々令部ニ於テ該船噸數ニ臨檢シ海上運輸ニ係ル必用ノ諸件調査可相成管ニ付差支無之様豫テ用意シ置クヘシ

但既ニ調査ヲ了シタル船舶ト雖モ爾後其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査セラレヘシ

●告示第一九一號 明治廿九年九月三十日

管下東彼杵郡彼杵村長山口修造ノ願ニ依リ彼杵港修築及浚渫工費ヲ償還スル爲全港ニ入港スル船舶ニ對シ明治廿九年十月一日ヨリ向九ヶ年間左ノ割合ヲ以テ

帆船錢ヲ徵收スルコトヲ許可シタリ

汽船 一艘ニ付 金拾貳錢

日本形船舶五十石以上 全 全拾錢

全二十石以上五十石未満 全 全五錢

全十石以上二十石未満 全 全參錢

全十石未満 全 全貳錢

但官船及陸海軍御用船ハ此限ニアラス

●告示第一〇九號 明治三十年七月二日

明治廿九年法律第六十七號船舶檢査法ニ依リ本縣ノ檢査ヲ受クヘキ船舶ノ檢査執行地ヲ定ムルコト左ノ如シ

肥前國長崎港

●告示第九七號 明治卅一年五月二十日

北海道移住民ニシテ北海道内ノ一港ニ上陸後二箇月以内ニ於テ更ニ移住目的地ニ到ラントスル者ノ爲メ北海道廳ニ於テ本年二月内務省告示第九號第二條ニ掲クル汽船ノ外管下ノ船主ト特約ヲ爲シ同廳又ハ支廳右目的地ニ到ル者ニ對シテ該汽船賃割引券ヲ下附スヘキ旨其筋ヨリ訓令アリタリ

●諭達第三號 明治廿九年五月廿二日

海難取調書中汽船ト和船若クハ漁船トノ衝突ニ關スル事項ヲ調査スルニ和船若クハ漁船ニ於テ成規ノ燈火ヲ標示セサルヨリ此災害ヲ惹起スルモノ十中ノ八九ニ居レリ元來衝突豫防法ハ此等ノ災害ヲ豫防セン爲メ制定セラレタルモノナル

ニモ拘ハラス和船若クハ漁船乗組員ニ在ラハ往々該法ノ何タルヲ熟知セスシテ  
 遂ニ船舶ヲ破損シ生命貨物ヲ亡失シ加之自己曲者ナリテ訴フルニ所ナキニ至ル  
 モノ有之趣ヲ以テ其筋ヨリ申越ノ次第モ有之候條營業者ニ於テハ燈火標示ヲ忘  
 ラサル様今後尙ホ一層注意ヲ加フヘシ

●諭達第五號

明治卅一年五月二十日

積石數百五十石以上ノ帆船検査ノ義ハ明治廿九年法律第六十七號船舶検査法ヲ  
 以テ初メテ執行スルコトト相成候處全國ニ散在スル右ノ船舶ニ對シ一時ニ検査  
 ヲ執行スルハ難事ニ付同法第十六條ニ於テ左ノ通規定セラレタリ

此ノ法律施行ノ際現存スル積石數百五十石以上ノ帆船ハ逓信大臣ノ定ムル順  
 序ニ依リ漸次検査ヲ受クルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供ス  
 ルコトヲ得

右ノ規定ニ基キ明治三十年五月十五日逓信省告示第三百三十四號及同卅一年三月  
 十六日逓信省告示第六十七號ヲ以テ検査申請ノ順序ヲ定メラレ目下三百石以上  
 五百石未滿ノ船舶検査申請期間中ニ有之然ルニ右ハ前顯法文ニ明ナルカ如ク單  
 ニ同法施行ノ際即チ明治三十年七月一日ニ於テ現存スル日本形船舶ニ限リタル  
 例外ノ規定ニシテ同法施行以後ノ新造ニ係ルモノハ普通ノ規定ニ依リ其航行前  
 ニ検査ヲ受クヘキハ勿論ノ義ニテ其違反ハ左記ノ通り同法第十條第一項ノ制裁  
 ヲ免レサルモノナリ

逓信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶検査證書若クハ假證書ヲ受有セスシテ船  
 舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若クハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定

限航行期間ヲ超エテ航行シタル者ハ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

然ルニ検査法施行以後ノ新造ニ係ル日本形船舶モ同法施行ノ際現存スルモノト  
 同様ニ心得検査ヲ受ケスシテ航行スルモノ往々有之趣其筋ヨリ申越タリ右ハ畢  
 竟營業者ニ於テ検査法ノ規定ヲ知ラサルニ基因スル事ト認メラレ候得共前顯ノ  
 制裁モ有之義ニ付帆船所有者ハ右等ノ心得違無之様篤ク注意スベシ

●第一一七六號

明治十二年七月三十日

長崎區

本年二月第九號ヲ以テ西洋形商船海員雇入雇止規則公布來月十六日ヨリ實施相  
 成候ニ付全規則第二條第四條ニ掲載有之事務執行浦役場ノ義當管内ニ於テハ當  
 分本港壹個所ト定メ則チ其區内戶長浦役人兼務ノ者ヲ以テ該事務爲取扱候條別紙  
 條目ニ基キ調理可爲致此旨相達候事

但浦役場印并掲札ハ左ノ寸法ヲ以テ相製シ渡方取計追テ代價受取方可申出專

一寸二分四曲尺

長崎港

浦役場

二尺五寸曲尺

長崎港浦役場

尺

(別紙)

一長崎浦役場ニ於テ海員雇入雇止等ノ事務執行方ハ本年二月第九號公布該規則



十九年七月達勤第五九  
號ヲ以テ本項中圖點ノ  
五字改正

ニ基キ諸事不都合無之様調理可致事  
一海員雇入雇止証書及海員技術免狀檢査証書共各一葉宛見本トシテ豫テ下附致  
置候事

但各証書欄外右傍ニ第何號トアルハ其浦役場ニテ發出ノ順次ニ從ヒ其番號  
ヲ記入スルモノトス

一海員ノ名稱ハ船長ヲ除ク外船中乗組人員ノ總稱トス且ツ船長運轉手及ヒ機關  
手等雇入公認ヲ願出ルルキハ明治九年第八十二號公布西洋形商船々長以下試驗  
免狀規則第八條ノ免狀ヲ檢査シ其所持スルモノニ限リ檢査証ヲ交付スヘシ

一海員雇入雇止証書用紙ハ豫テ其枚數ヲ定メ下附致置候條公認出願人へ定價ヲ  
以テ拂下ヘシ尤右拂下ノ時々金員共當應庶務課へ上納スヘシ

但 海員雇入証書用紙 定價四錢  
全 雇止証書用紙 全 貳錢

一御國人所持ノ西洋形商船ニシテ外國人雇入雇止ノ節公認上ノ都合ニ據リ通辨  
等要スル場合ニ於テ其浦役人自ラ辨理スル能ハサル時ハ其都度縣廳へ申出候  
ハハ相當ノ者派出致サスヘキ事

一右雇入雇止事務ニ據リ其浦役場ニ於テ仕用スル筆紙墨費等ハ夫々可下渡ニ付  
每一ヶ月分明細簿ヲ製シ其翌月ニ至リ受取方可申立事

一掛札ノ義ハ衆人目標ノ爲メ平常其浦役場門戸等便宜ノ場所へ掲出シ置クヘシ  
●乙第二二〇號 明治十三年七月三十日 郡 區

本年二月第九號西洋形商船(蒸氣船)十噸以上風帆船(二十噸以上)海員雇入雇

止規則來月十六日ヨリ實施相成候ニ付テハ同規則第二條第四條ニ揭載有之事務  
執行浦役場ノ義管内ニ於テハ當分本港一ヶ所ト定メ則長崎區勝山町戶長役所内  
へ右浦役場設置候條雇入雇止定約書公認出願ノ者ハ同所ニ於テ相當ノ手數ヲ受  
候様各郡區該船主等へ無洩速ニ達方可取計此旨相達候事

但内務省ヨリ發行アル海員雇入雇止証書用紙ハ左ノ定價ヲ以テ可拂下候條右  
代價即納ノ積リヲ以テ其浦役場へ申出候義ト可相心得事

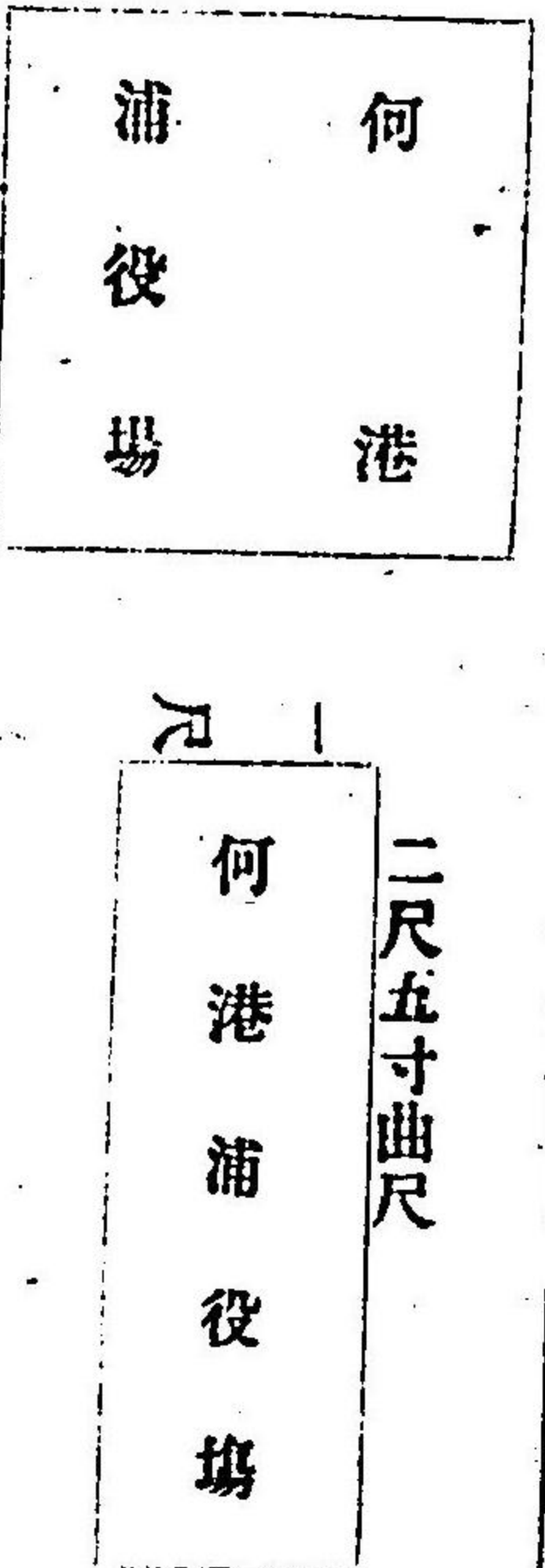
海員雇入証書用紙 定價金四錢  
全 雇止証書用紙 全 金貳錢

(明治十三年十二月乙第二〇七號ニテ口ノ津及嚴原兩浦役場ニ於テ本達ノ  
事務ヲ取扱ハシムル旨ヲ達ス)

●庶第九六一號 明治十三年十二月四日 南高來郡役所

客年二月第九號ヲ以テ西洋形商船海員雇入雇止規則公布相成候ニ付該事務執行  
ノ儀ハ當分長崎浦役場一ヶ所ト相定置候處其郡口ノ津ノ儀逐次西洋形船出入増  
加候趣ニ付同所浦役場ニ於テモ來ル十四年一月ヨリ右事務爲取扱候ニ付証書用  
紙類左記ノ通下渡候條別紙條目ニ基キ不都合無之様調理可爲致尤浦役場費ハ一  
ヶ月廿五錢ヲ定額トシ其應經費ニ増費候條每期勘定帳ニ組込決算可致此旨相達  
候事

但浦役場印摺札ハ左ノ寸法ヲ以テ製造可下渡右費金ノ義ハ此度限下渡候條實  
費受取方申出役場費同様勘定帳ニ組込決算可致事  
一寸二分四方曲尺



- 一海員雇入証書用紙 二百枚
- 一免狀檢査証書用紙 二百枚
- 一海員雇止証書用紙 二百枚

外ニ  
右三用紙各 一枚

是レハ見本トシテ其浦役場へ下渡填字ヲ加ヘ置分  
(明治十三年十二月四日庶第九六二號ヲ以下縣郡へ嚴原港ニ關シ同様ノ件ヲ達ス)

別紙條目ハ十二年七月三十日第千七百七十六號ヲ以テ長崎區へノ達ト同一ナル故ニ畧ス尤モ十九年七月勸第五九二號ヲ以テ嚴原ノミ証書用紙代價送納期限ヲ(每月分翌月一日)ト改ム

●乙第一八五號 明治十六年十二月十七日 郡區役所

私立西洋形造船所并造船員數等自今左ノ書式ニ倣ヒ毎一年分取調翌年一月限當廳へ可届出此旨相達候事

西洋形造船所并造船員數等屆書式

船種	船名	噸數	馬力	製造造船工長族籍	持主族籍氏名	造船所位置	創立年月
汽船	何々	何噸	何馬力	何(府縣)華士何(府縣)華士族平族平民何ノ誰氏何ノ誰	何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地	何年何月	
帆船	何々	何噸	何馬力	何(府縣)華士何(府縣)華士族平族平民何ノ誰氏何ノ誰	何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地	何年何月	
計合	何艘	何噸	何馬力	何人	何人	何ヶ所	

備考 每一週年間各造船所ノ廢置及盛衰ノ概況ヲ記スヘシ

●乙第三八號 明治十七年二月二十日 嚴原支廳 郡區役所 戶長役所 (上縣下縣郡ヲ除ク)

内外國難破船屆書式左記ノ通改定候條内國船ハ積石五十石以上難破船處分濟ノ上必ス其都度可届出此旨相達候事

但五十石以下ト雖モ其難破費用ヲ要スルモノハ同様届出ヘシ

何縣何國何(郡區)何(町村)士族或ハ平民(外國船ナレハ何國何々)

持主 何ノ誰  
船長 何ノ誰  
外何名乘

軍艦 商船 欸 何號

帆船又ハ蒸氣船内車又ハ外車

長サ 木又ハ鐵製

橋數

噸數

馬力

行方知レス

何年月日何地出帆

遭難ノ時

何年月日何時

遭難ノ地

航海中歟碇泊中歟

但航海中及ヒ碇泊ノ別ナク其遭難地ノ經緯度又ハ近傍ノ燈臺岬港若クハ著名ノ山岳或ハ市街ヨリ距離方位並ニ遭難地及其近傍ノ粗圖

難破ノ理由

暴風ノ爲メ又ハ暗礁ニ觸ルカ

難破ノ景況

皆破皆没又ハ修繕ニ堪ニヘキカ或ハ船体機械ノ破

乘組人及船客ノ死傷

重傷何人 死亡何人

積荷ノ損否

輕傷何人 又ハナシ 破損何カ程又ハ何個程又ハ沈没等

何縣何國何(郡區)何(町村)士族平民

持主 何ノ 誰

直乘又ハ船頭

何ノ 誰

外何名乘

何反帆

商船日本形何九

何石積

以下前ニ全斷

●丙勅第五四六號

明治十七年六月四日

嚴原支廳 郡區役所

浦役人ノ儀ハ明治九年十二月第百拾七號公達ノ旨ニ依リ町村戶長(兼務セシムル等ニ候處間々戶長役所筆生(兼務爲致居候向モ有之趣相聞)右ハ不都合ニ候條速ニ任免處分ノ上其旨可届出此旨相達候事

但浦役人事故アル場合ニ於テハ筆生ヲシテ其事務ヲ代理セシムルハ苦シカラサル義ト心得ヘシ

●乙第九二號

明治十七年六月十二日

嚴原支廳 郡區役所 戶長役所

十七年六月乙一〇二號  
ニテ三條及八條中改正  
刪除本文通

日本形船舶積石檢査手續左ノ通相定候條此旨相達候事

但長崎區役所ハ第三條第四條第五條ノ事務ハ其各條ニ依リ便宜取扱フベシ

船舶積石檢査手續

第一條 本年告第三十七號告示ニ依リ檢査ノ期日ヲ定メ所轄内ニ達スヘシ

第二條 本年(四月)第十號布告第九條第十條布達第四條第五條及測度圖解ニ依

リ日本形船舶積石各定繫場ニ於テ檢査スヘシ

第三條 檢査ハ本年七月一日ヨリ着手スヘシ

第四條 檢査ヲ終ル上ハ別紙雜形ノ通リ船籍ニ登記シ積量増減アルモノハ鑑札

書換(戶長役所)經テ下付スヘシ

第五條 検査ヲ經テ積量増減ナキモノハ船籍ニ登記シ鑑札面ニ何年月日検査済ト朱記シ主任書記ノ捺印ヲ捺シ戸長役所ヲ經テ下付スヘシ

第六條 戸長役所ニ於テハ支廳郡役所ヨリ鑑札ヲ受ケタルトキハ第四條雛形ノ船籍ニ登記シ鑑札ハ船主ヘ下付スヘシ

第七條 検査ノ節ハ時宜ヨリ主任官出張立會ハシムル場合モ可有之ニ付検査ノ期日支廳郡區役所ヨリ豫メ届出ヘシ

第八條 自后新造等ニ依リ船舶検査願出ルトキハ前第二條第四條第六條ニ準シ處分スヘシ

(別紙雛形)

船名	帆別	積石	船主住所氏名

船舶積量測定圖解

日本形廻漕船石數測定

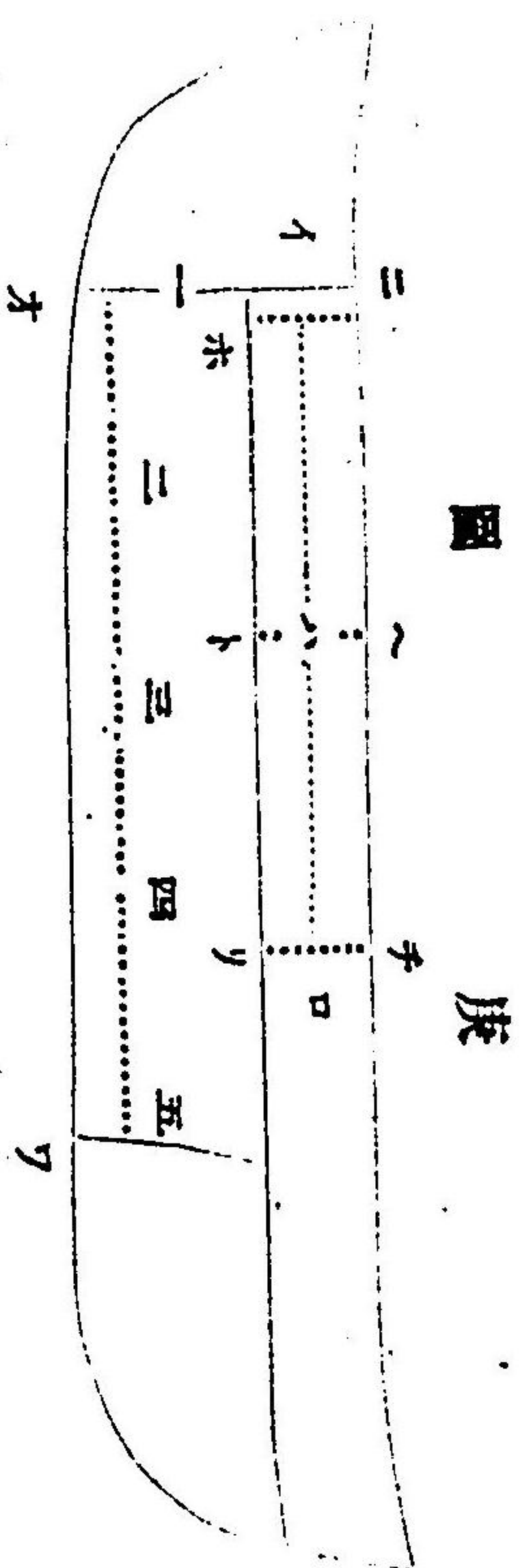
甲 船梁上船艙ノ石數ヲ求ムルニハ船首室ノ境界庚圖ノ(イ)ヨリ船尾室ノ境界(ロ)ニ至ル長ヲ測リ此長ノ中央(ハ)及ヒ兩端(イ)(ロ)ニ於テ船舷ノ上端ヨリ船梁ノ上面ニ至ル(ニホ)(ヘト)(チリ)ノ高ヲ測リ其各高ノ中央ニ於テ辛圖ノ

(ヌル)ノ如ク幅ヲ測リ其高幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ高幅ト長ヲ相乘シ得ル處ノ數ヲ十ニテ除スヘシ

乙 船梁下船艙ノ石數ヲ求ムルニハ庚圖ノ(オ)ヨリ(ワ)ニ至ル船底ノ長ヲ圖リテ之ヲ四個ニ等分スル(一)(二)(三)(四)(五)ノ如クシ此各分長点ニ於テ船梁ノ上面ヨリ船底ニ至ル深サヲ測リ其各深ノ中央及ヒ上下ニテ辛圖ノ(タレ)ノ如ク幅(船ノ大小ニ應シ四ヶ所若クハ五ヶ所ニテ幅ヲ測リ之ヲ平均シ)ヲ測リ其深幅ヲ平均シ而シテ此ノ平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ得ル所ノ數ヲ十ニテ除スヘシ

構造回漕船ニ異ナル船ノ石數測定

回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ求ムルニハ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長点ニ於テ船舷ノ上端ヨリ一線ヲ張り之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ幅(船ノ大小ニ應シ四ヶ所若クハ五ヶ所ニテ幅ヲ測リ之ヲ平均シ)ヲ測リ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ得ル所ノ數ヲ十ニテ除スヘシ



庚 圖





五拾石以上	百石以上	百五十石以上	二百石以上	二百五十石以上	五百石以上	千石以上
五拾	百	百五十	二百	二百五十	五百	千
石	石	石	石	石	石	石
何	何	何	何	何	何	何
計	計	計	計	計	計	計
艘	艘	艘	艘	艘	艘	艘

●訓令第二三號

明治廿六年九月十八日

長崎市役所

内國船難破及漂流物取扱規則第三十一條第三十二條及第三十八條ノ事務ハ自今處分ノ時々關係書類(入札請書領收証)并ニ上納証ヲ屬シ當廳へ届出ツベシ

但本年二月十五日訓令第六號ハ廢止ス

●達甲第七一號

明治廿六年九月十八日

島廳 郡役所 戶長役所 町村役場

内國船難破及漂流物取扱規則第三十壹條第三十二條及第三十八條ノ事務ハ戶長役所町村役場ニ於テ取扱來候處自今島廳郡役所ニ於テ取扱處分ノ時々當廳へ届出ツベシ

但本年二月十五日達甲第十一號達ハ廢止ス

●訓令第一號

明治廿九年一月十五日

島廳 郡役所 市役所

從來商船ハ何々丸ト命名スルヲ常トシ自ラ軍艦トノ區別ヲ爲スノ便宜有之候處近來商船ニ在テモ丸字ヲ付セルモノ有之中ニハ軍艦ト同名ノモノヲ出シ斯テハ今後軍艦商船ノ益々増加スルニ從ヒ種々ノ錯誤ヲ生スルノ恐レナシトセス依テ自今新タニ本縣船籍ニ編入出願ノ場合ニ於テ丸字ヲ付セサルモノエハ總テ丸字ヲ付スヘキ様船主へ諭示スヘシ

●訓令第七〇號

明治三十年十月十一日

島廳 郡役所 警察署 警察分署 戶長役所 市役所 町村役場

明治三十年(六月)遞信省令第十九號海難其他ノ事實届出ニ依リ若クハ自海員懲戒法ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルキハ全年全月全省訓令第三號ニ依リ調査ヲ作り直ニ之ヲ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ送付スヘシ

●訓令第八〇號

明治三十年十一月五日

島廳 郡役所 市役所

明治二十九年遞信省第三號登簿船免狀取扱規則ニ依リ登簿船免狀下付及登簿噸數五噸未満ノ船舶測度出願者アリタルトキハ定繫場所在ノ島廳郡市役所ハ(管轄外ノ船舶ト雖トモ其管轄内ニ於テ新造改造輸入等ノ爲メ出願シタルトキ亦タ同シ)船泊積量測度規則ニ依リ之ヲ測度シ左記書式ノ測度表ヲ製シ件名書ヲ照査シ願書並關係書類ト共ニ進達スヘシ

●訓令第八一號

明治三十年十一月五日

三十一年三月訓令第二七號ヲ以テ第二項削除アリ本文ノ通

島廳 郡役所 市役所  
明治二十九年逓信省令第二十五號船鑑札規則全省訓令第四號船鑑札規則施行手續左記各項ニ依リ取扱フヘシ

但明治二十九年訓令第七十九號ハ廢止ス  
一 郡市役所ニ於テ鑑札ハ當廳ヨリ配付スヘシ  
一 鑑札下付ノ爲メ西洋形船ヲ測度シタルトキハ其時々件名書ニ測度表ヲ添ヘ差出スヘシ  
一 施行手續第五條ノ船舶異動表ハ毎年一月十五日及七月十五日迄ニ差出スヘシ

●訓令第一五號

明治卅一年二月十四日

島廳 郡役所 市役所

北海道移住民ノ流車賃渡船賃割引券取扱方ハ本寺内務省訓令第一號ニ據ルヘク又同訓第六條ノ事項ハ前年分翌年一月十五日限り知事報告スヘシ

●訓令第一〇三號

明治卅一年十一月廿一日

島廳 郡役所 市役所

臺灣ニ船籍ヲ定メントスル者假船鑑札ノ下付ヲ申請シタルトキハ本年五月律令第四號臺灣船籍規則全六月府令第三十五號臺灣船籍規則施行細則及全令第三十六號臺灣船舶積量測度規則ニ準據シ取扱フヘシ

但假船籍證書下附申請書ヲ提出シタルトキハ測度表ト共ニ本廳ニ進達スヘシ

●勅第一〇四八號

明治十八年五月二十日

嚴原支廳 郡區役所

本年本縣乙第五十七號達船長以下海員取調方ノ義ハ管下船籍ノ船舶ニアルモノヲ調査候義ト豫メ御承知置相成度此段及御通牒候也

### 第拾八類 測 候

●告示第一二〇號

明治二十年十二月廿八日

明治十九年(七月)勅令第五十一號ヲ以テ明治二十一年一月一日ヨリ本邦一般ノ標準時ヲ用ヒラレ候處標準時正午十二時ハ長崎ニ於テ從前ノ午前十一時三十九分ニ相當ス

參照

十九年勅令五一號(東經一三五度ノ子午線ヲ標準時トスル)二十八年勅

令一六七號(中央標準時西部標準時ノ件)

●告示第一五號

明治廿二年二月廿三日

中央氣象臺ヨリ發スル天氣豫報ハ前日九時ヨリ翌日午後九時迄ノ天候ヲ豫示シタルモノニ付自今警戒電報共長崎區内各警察署及各巡查派出所前ニ揭示ス

參照

二十四年六月告示五五號(天氣豫報日時ノ件)

●告示第二五號

明治廿四年三月九日

明治二十二年(二月)本縣告示第十五號天氣豫報及警戒電報ハ本月十日ヨリ長崎



廿七年八月告示一一一  
號ニテ更正本文圈點通

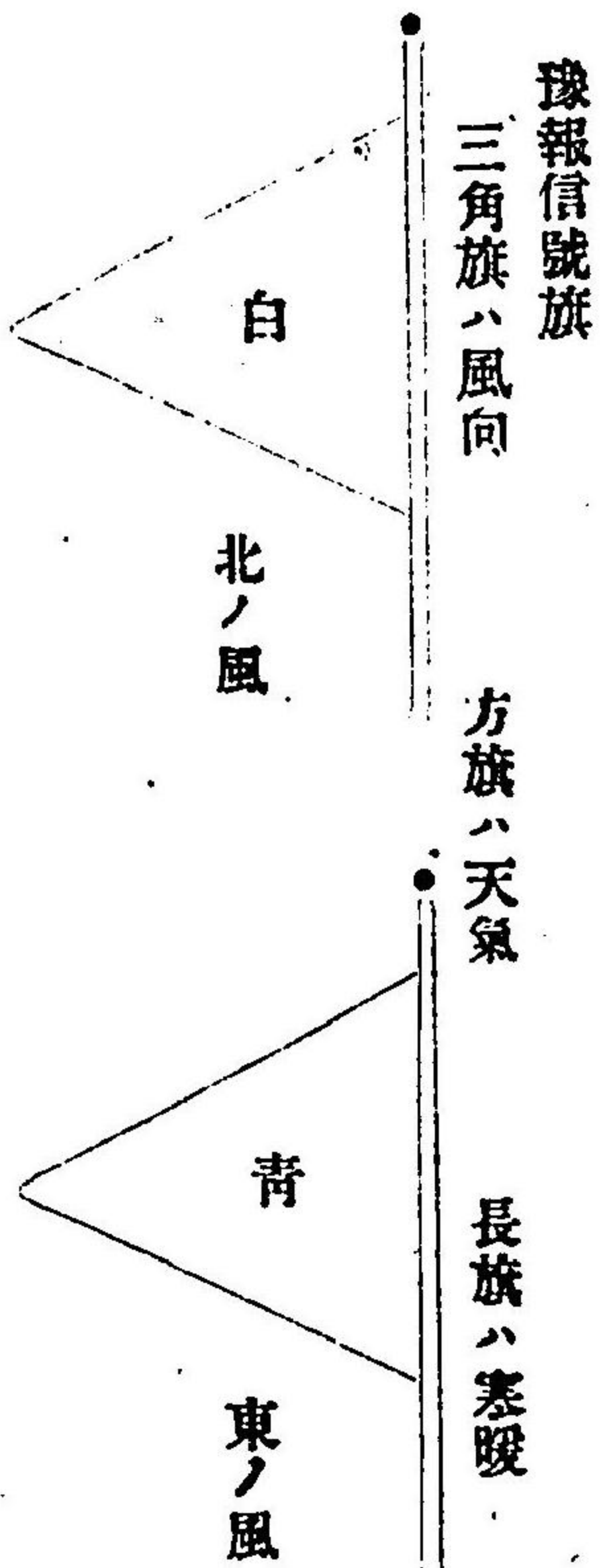
市内大波戸勘工前並ニ東濱町長崎警察署前ニ揭示ス  
 ●告示第五五號 明治廿四年六月十二日  
 明治二十二年(三月)本縣告示第十五號天氣豫報ハ自今前日午後六時ヨリ翌日午  
 後六時迄ノ天氣ヲ豫示ス  
 ●告示第一七八號 明治廿六年十一月廿九日  
 來ル十二月一日ヨリ長崎測候所ニ於テ地方天氣豫報ヲ實施ス其區域及豫報種別  
 等左ノ如シ  
 豫報信號旗ハ當廳構内信號標柱ニ揚ケ毎日午後六時ニ發シ向フ貳拾四時間ノ天  
 候ヲ示ス

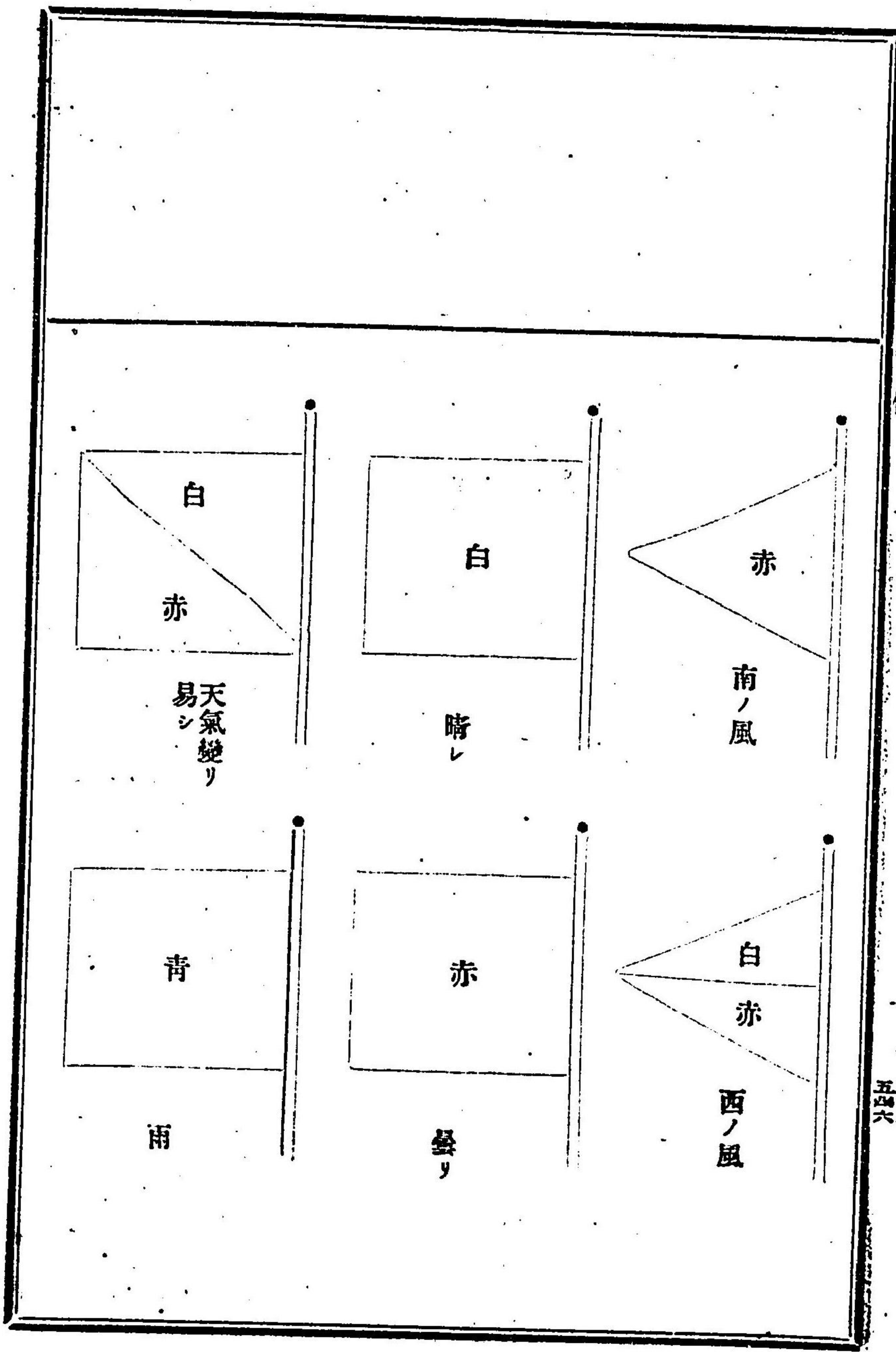
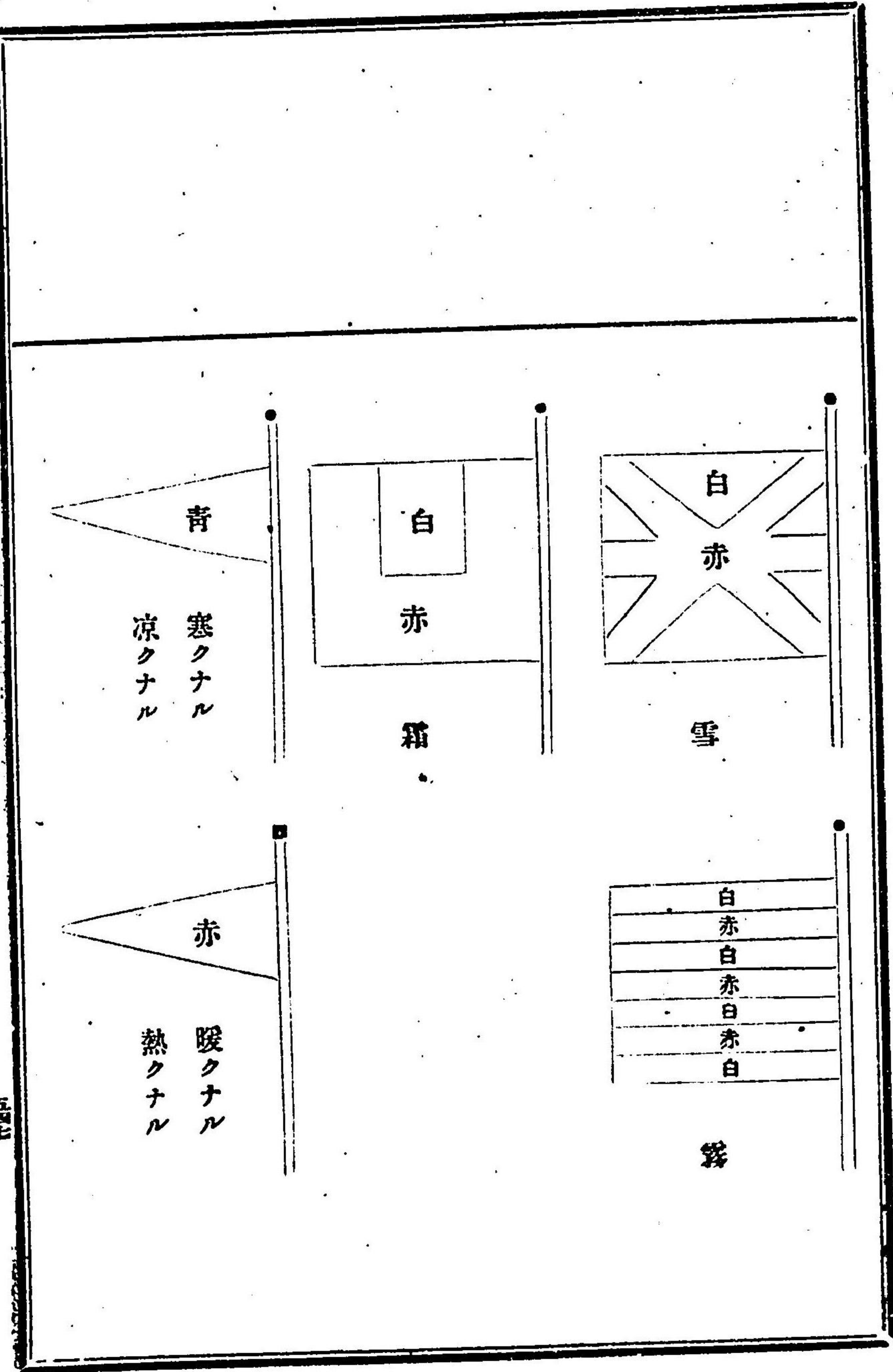
豫報區域

一長崎市 西彼杵郡ノ内上長崎村 下長崎村 戸町村 淵村 浦上山里村  
 豫報種別

- 一風向 四方位(東、西、南、北、)
- 一天氣 晴、曇、雨、雪、霧、霜
- 一溫度 寒暖及天氣ノ種別(或ハ、涼、熱)
- 風向及ヒ天氣ノ種別
- 一風向ハ一日中最モ多ク吹クヘキ風向ヲ云フ
- 一風向ハ左右四拾五度以内トス假令ハ北ト豫報スモモノハ北東ヨリ北西ニ至ル  
九拾度以内ヲ云フ
- 一風向不定トナルトキハ信號旗ヲ掲ケス

一晴、曇ハ一日ノ平均雲量ニ據ル雲量零乃至七八晴八以上ハ曇トス  
 一霽ハ雨又ハ雪降リツ、アルモ終ニ晴トナルヲ云フ信號旗ハ晴ノ旗ト同シ  
 一雨ハ四時間以上降雨アル片或ハ前後晴ナルモ一日ノ水量一〇耗以上ナルヲ  
 云フ  
 一雪ハ二時間以上降雪アルトキ或ハ其水量〇、一耗以上ノ降雪アルヲ云フ  
 一晴、曇ノ豫報ハ時ニヨリ左ノ文言ヲ附加ス  
 晴、但驟雨ノ模様アリ  
 曇リ但雨(雪)(雨又ハ雪)模様アリ  
 一溫度ハ最高、最低、溫度ノ前日ニ比シ三度以上ノ昇降スルヲ云フ





●告示第五八號

明治廿八年三月廿九日

來ル四月一日以降長崎測候所ヨリ各郡役所ニ暴風警戒ヲ電報シ揚示其他ノ方法ヲ以テ該警戒ヲ知ラシム

●告示第五三號

明治三十年三月廿六日

長崎測候所來ル四月一日ヨリ一等測候所トナシ毎時觀測事務ヲ取扱ハシム

明治卅二年三月廿七日

●告示第四四號

本年四月以降左ノ村役場ニ於テ暴風警戒ヲ揭示ス

西彼杵郡

茂木村役場

瀬戸村役場

壹岐郡

武生村役場

香椎村役場

●訓令第三三號

明治廿八年一月廿三日

島廳 郡役所

(西彼杵郡役所ヲ除ク) 瀬戸警察分署 佐須奈警察分署

觀測規程

第一條 觀測ヲ行フ箇所左ノ如シ

- 西彼杵郡瀬戸村 瀬戸警察分署
- 東彼杵郡大村町 東彼杵郡役所
- 北高來郡諫早村 北高來郡役所
- 南高來郡島原村 南高來郡役所
- 北松浦郡平戸村 北松浦郡役所
- 南松浦郡福江村 南松浦郡役所

三十年五月訓令第三三號ニテ本條表式更止本文ノ通

石田郡武生水村

壹岐石田郡役所

上縣郡佐須奈村

佐須奈警察分署

第二條 觀測ノ事務ハ郡役所員若シクハ警察分署員ニ於テ取扱フヘシ

第三條 觀測スヘキ氣象ノ事項ハ總テ別紙表式ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四條 觀測用諸器械及月報用紙ハ佐須奈警察分署ハ嚴原測候所其他ハ長崎測候所ヨリ回付スヘシ

第五條 觀測ノ方法及器械ノ裝置ハ佐須奈警察分署ハ嚴原測候所長其他ハ長崎測候所長ノ指示スル所ニ依ルヘシ

第六條 月報ハ翌月五日以内ニ佐須奈警察分署ハ嚴原測候所ニ其他ハ長崎測候所ニ送付スヘシ

第七條 月報送致ニ要スル郵便費ハ佐須奈警察分署ハ嚴原測候所其他ハ長崎測候所ヨリ支辨スヘシ

別紙

明治何年何月氣象月報

日	温度		最高	最低	最高	最低	較差	雨	雪	雲	風向	風力	天氣	風向
	最高	最低												
一日														
二日														
三日														
四日														
五日														



考

小枝ヲ動カスモノ強風ノ樹木ノ勁枝ヲ動スモノ烈風ハ大樹ノ幹ヲ動ス  
 モノ風ハ樹木ヲ倒シ家屋ヲ破壊轉倒スルモノ○天氣ハ快晴ノ晴、曇  
 雨、雪、霰、雹ノ七種トシ雲量零乃至二ヲ快晴三乃至七ヲ晴八以上ヲ曇  
 トス而シテ雨ハ微、強、烈ノ三種ニ區別シ雨ノ聲ナキヲ微雨、雨ノ聲ア  
 ルヲ強雨、雨聲人語ヲ攪スルヲ烈風トス○記事ハ一日中ニ於ケル天氣  
 ノ景況ヲ記スヘシ例ヘハ雨、雪、霰、雹、霜、雷、電、地震等ノ有無觀測時  
 外風ノ強弱及其時刻等ヲ可能的詳細ニ記載スヘシ

取扱主任

訓令第一一號

明治廿八年三月廿二日

鳥廳 郡役所

氣候調査上必要ニ付來ル四月一日以降左ノ規程ニ依リ戶長役所及村役場ニ於テ  
 取調戶長役所ハ嚴原測候所村役場ハ其郡役所ヲ經テ長崎測候所ニ報告セシムベ  
 シ

報告規程

- 一 報告物種類及期限
- 一 植物報告(第一號第二號第三號表)
- 一 動物報告(第四號第五號第六號表)
- 一 右翌年一月三十一日以内發送
- 一 降雹報告(第七號表)
- 一 雷雨報告(第八號表)
- 一 地震報告(第九號表)
- 一 初終霜報告

一 初終雪報告

一 暴風雨報告

右現象ノ起リタル日ヨリ二日以内發送

一 前報報告種類ノ外海嘯山岳崩壞其他天變地異ハ便宜其實況ヲ報告スベシ  
 一 調査スヘキ所ノ地名左ノ如シ

西彼杵郡	瀬戸村	三重村	深堀村	野母村	矢上村
東彼杵郡	時津村	龜岳村	早岐村	萱瀬村	
北高來郡	大村	彼杵村	江ノ浦村	小濱村	
南高來郡	小長井村	諫早村	南有馬村	福島村	中津良村
北松浦郡	神代村	島原村	志佐村	平戸村	
南松浦郡	中里村	世知原村	生月村	富江村	福江村
壹岐郡	柳村	大島村	岐宿村		
石田郡	北魚目浦	若松村			
上縣郡	香椎村				
下縣郡	武生水村				
	佐須奈村	琴村	橙瀧村		
	仁位村	小茂田村	豆酸村		

第一號表

植物報告ノ一何郡村 年

何(戶長役所)村役場)

取扱者 氏

名印

穀種	名稱	播種時期	發芽時期	移植時期	發穗時期	開花時期	成熟時期	一反步收穫	雜記
早稻									
晚稻									
糯米									
大麥									
小麥									
大豆									
小豆									

一表中載スル所ハ各地普通ニアルモノニシテ其重ナルモノ、ミナルカ故ニ其他ニ調査シ得ヘキモノハ餘白ニ記入スルヲ要ス

一發芽トハ凡芽ノ出揃ヒタル時、發穗トハ凡穗ノ出揃ヒタル時、開花トハ凡花ノ開キ揃ヒタル時ヲ記入スヘシ

一時期トハ其年ノ月日若シ月日ヲ記シ難キ時ハ何月上旬、中旬、下旬ト記スルモ妨ケナシ

一旱水風雨等ノ爲メ損害ヲ受ケテ平年ヨリ出來劣リアルカ又ハ非常ノ豐作ニテ平年ヨリ出來優リアル時ハ其由ヲ雜記欄内ニ記入スヘシ

一收穫ハ一反步ノ石數ヲ記入スヘシ

第二號表

草木類	名稱	明治何年		何郡何村		何(局長役所)何村役場		取扱者氏名
		播種時期	發芽時期	收穫時期	一反步收穫	雜記		
茶								
早桑								
晚桑								
藍								
麻								









一發聲期トハ始メテ聲ヲ聞キタル時ヲ記入スヘシ  
 一整期トハ整ル、時ヲ記入スヘシ但シ整期ノ詳ナラサルモノハ記入セサルモ妨ケナシ  
 一不時ノ現出アル時ハ雜記欄内ニ之ヲ詳記スヘシ

降電報告 明治 年 第 號

雜記	後	中	前	降電	風向	風力	觀測時	電雷有無	形狀	重量	時刻	地名
									經過セシ方角	電大小	月日時分	郡町村

何郡(何村)長役所(何村)役場 取扱者 氏 名印

備考

- 一第何號トハ年内ノ初メノモノヲ第一號トス
- 一月日時刻ハ初メテ降電アリタル月日時刻ヲ記スヘシ
- 一電ノ大小ハ知リ易キ物品ニ比較シテ記スヘシ例ヘハ小豆ノ如ク或ハ雀卵ノ如シト云フガ如シ
- 一形狀ハ圓形トカ楕圓形トカ適宜其形狀ヲ記スヘシ
- 一經過セシ方角トハ東ヨリ西ヘ等ノ如シ
- 一前中後風向風力等ハ其前トハ觀測シタル最近ノモノヲ記シ中ハ現時後ハ終リタルトキトス
- 一雜記欄内ニハ其現狀及損害ノ景況等前項ニ漏レタル要件ヲ詳細ニ記スヘシ

第八號表

雷雨報告 明治 年 第 號

甲	地名	國郡	村町	月日	時刻	
					時	分
始メテ雷鳴ヲ明ニ聞キタル						
雨ノ降り始メシ時刻						
電ノ降り始メシ時刻						

記 雜	乙				雷雨ノ經過セシ位置	雷ノ強弱	電ノ大小		
	後	中	前	雷雨				最後ノ雷鳴時刻	角雨ノ降り始ヨリ降 リ歇ミ迄ノ時間

何郡(何村)長役所(何村役場)  
取扱者 氏 名印

雷雨報告心得

一雷雨報告ハ降雨降雹等ノ有無ニ拘ラス雷鳴ヲ明カニ聞取タルトキハ必ス報告スヘキモノトス

一雷雨報告ニハ必ス番號ヲ附スヘシ(但シ年内ノ初雷ヲ第一號トス)

一雜記欄内ニハ先雷鳴ノ強弱及雷鳴ハ其町村或ハ近傍或ハ遠方ニ在リシヤチ記

シ次ニ雲ノ方向、速度、并ニ雷雨全体ノ模様、落雷ノ有無、損害ノ状況其他認メテ緊要ト爲ス事項ヲ記スヘシ

一方向(方角)ハ總テ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ八種ニ區別シテ記スヘシ

一雨ノ強弱ハ微、強、烈ノ三種ニ區別シテ記スヘシ但微ハ雨聲無キモノ、強ハ雨聲アルモノ、烈ハ雨聲人語ヲ攪スルモノトス

一風力ハ、軟風、和風、疾風、強風、烈風、颶風ノ六種ニ區別シ更ニ無風ヲ加ヘ七種トナシ記入スヘシ但無風ハ烟全ク直昇シ或ハ殆ソド直昇シ又樹葉動カサルモノ、軟風ハ人ヲシテ風ノ感覺ヲ起サシムルモノ、和風ハ樹葉ヲ動スモノ、疾風ハ小枝ヲ動スモノ、強風ハ勁枝ヲ動スモノ、烈風ハ大樹ノ幹ヲ動スモノ、颶風ハ樹ヲ抜き屋ヲ破毀スル等ノ大風トス

一雹ノ大小ハ尋常、人ノ知リ易キ物品ニ比較シテ記スヘシ例ヘハ豆ノ如ク或ハ鶏卵ノ如シトイフカ如シ又雹ノ甚大ナルモノハ併テ其重量ヲモ記入スヘシ

一時刻ハ可成正確ニ記スルヲ要ス

第九號表

地 震 報 告	明 治 年 第 號
地 名	地震ニ感セシ地名ヲ記スヘシ
震動ノ年月日時	年月日時及分秒ヲ記スヘシ(標準時)
震動ノ年月日時	明治年月日午時分秒

震動ノ時間	震動ノ方	震動ノ強弱	震動ノ性質	雜記
震動ノ時ヨリ震動ノ終マテノ時及分秒ヲ記スヘシ	北、北東、東、南、東南、南西、西、北西ノ八方位ニ分記スヘシ	微、弱、強、烈ノ四種ニ分記ス、ヘシ	地平動、上下動、聲響ノ有無ヲ記スヘシ	前項ニ流レタルモノヲノモルシヘシ

何部(何村戸長役所)(何村役場)  
取扱者 氏 名印

地震報告心得

第一條 地震ノ報告ハ第二條以下ノ各條ニ照依シ記入スヘシ

第二條 地震ノ起リタル時刻ヲ精密ニ測ルニハ地震ヲ覺ユルヤ直チニ時計ニ就テ先ツ秒針ヲ看、次ニ分針ヲ看、又地震ノ終ル時ニモ秒針分針順次ニ之ヲ看ルヘシ但シ時刻ハ標準時ヲ用フヘシ

第三條 震動時間ノ長短ヲ測ルハ秒分ヲ以テスヘシ但時計ナキトキハ人々ノ感

覺ニ任ス

第四條 地震ノ方向ヲ測ルハ大概器中ニ充テタル液体ノ動搖、鈎ランブ、搖錘ノ振搖、物品ノ倒伏スル方角ヲ見テ之ヲ知ルヲ得ヘシ又成ルヘク動搖ニ感セザル水平ノ場所ニ小圓柱ヲ直立シ置キ其倒ヘタル方向ヲ測レハ更ニ善シトス倒ヘハ鈎ランブ東西ニ動搖セハ地動ハ器ホ東西ナルコトヲ知リ圓柱南北ニ倒レタルトキハ器ホ南北ナルコトヲ知ル又家屋並ニ壁ニ生シタル罅隙裂業ニ注目スルモ其方角ヲ知ルノ一助トナルヘシ

搖錘時計ノ止リシトキハ其指針ノ示ス時分秒ヲ讀取リ而シテ其時計ハ何レノ方角ニ向ヒ懸ケタルヤ之ヲ詳細記入スヘシ

第五條 地震ノ強弱ヲ測ルハ微、弱、強、烈ノ四種ニ區別ス微ハ僅ニ地震アルヲ覺ヘシ者、弱ハ震動ヲ覺ユルモ戶外ニ避ルニ足ラサル者、強ハ往々物品ノ倒伏液体ノ溢出等アリ人々戶外ニ走り避ル者、烈ハ屋宇ヲ毀損若クハ倒伏シ或ハ地面ノ變化ヲ起ス者ナリ

第六條 地震ノ性質ヲ測ルハ地平動即チ左右若クハ前後ニ震搖セシカ又ハ上下動即チ上下動即チ上下ニ震動セシカ或ハ戶外通車ノ轟々タルニ似タルカヲ熟察シ其感覺ニ由テ之ヲ記スヘシ

第七條 地震ノ爲ニ轉回セシモノアレハ其物ノ地動前ノ位置、方角、及ヒ性質、大小ヲ記シ又地震ノ爲メニ轉動シタル新位置、方角ヲ記スヘシ又物体高所ヨリ低所ヘ投出サレタル等ノコトアレハ其高サ並ニ投出サレタル位置距離ヲ測ルヘシ成ヘク位置等ノ畧圖ヲ画クヲ善シトス